

稲敷市学校再編整備実施計画

平成 22 年 3 月

稲敷市

目次

(1) 小学校の現状と課題	1
(2) アンケート調査結果	5
(3) 各地区の分科会のまとめ	11
(4) 児童数の将来推計	13
(5) 学校規模等に係る現行制度	16
(6) 小学校の適正規模と適正配置	17
(7) 推進に当たっての留意事項	19
資料編	21
稲敷市の小中学校	39

(1) 小学校の現状と課題

1) 児童の推移

○児童数の推移

- ・ 昭和33年の7,115名をピーク に徐々に減少
- ・ 平成21年5月現在では2,347名と半数以下

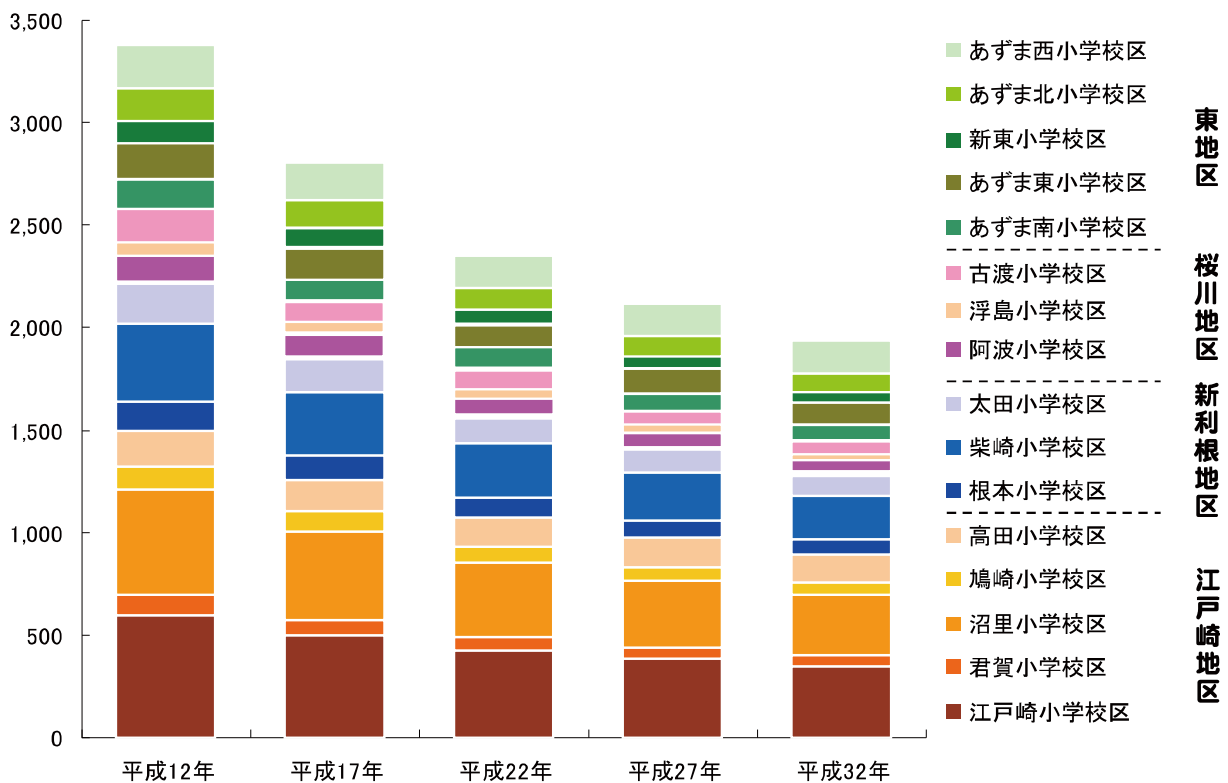
○現在の児童数の状況（平成21年5月現在）

- ・ 市内16校中，児童数300名以上は2校のみ
- ・ 100名以下の学校が8校

○学級の状況

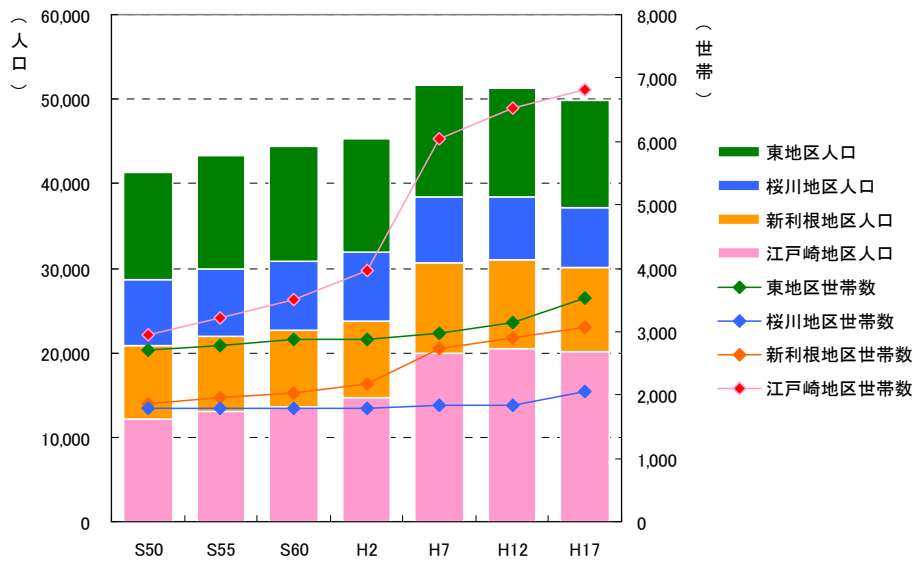
- ・ 6学年すべて2クラス以上の学校は2校
- ・ 複式学級1校あり（2～3学年，4～5学年がそれぞれ1学級）
- ・ 小規模校が多い。

■稲敷市における児童数の推移



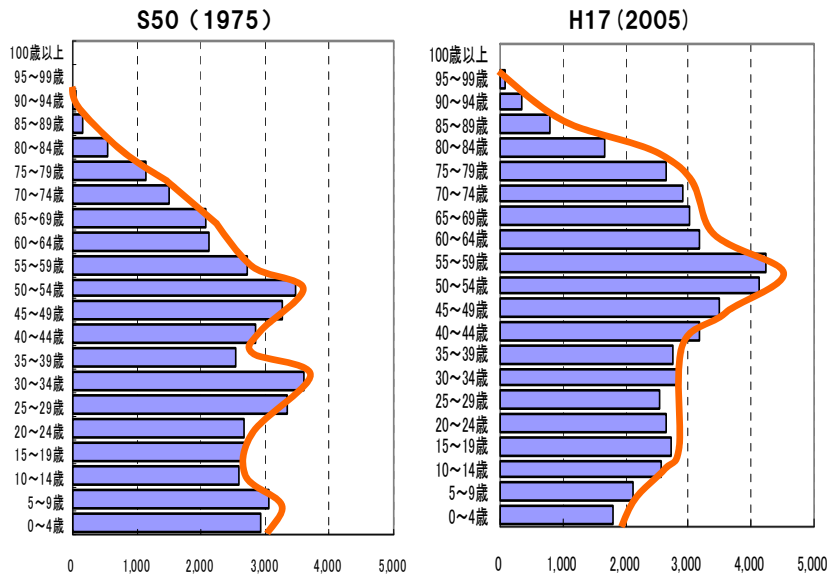
資料：常住人口調査（平成22年以降は推計値）

参考：稲敷市の人口の推移【地区別】



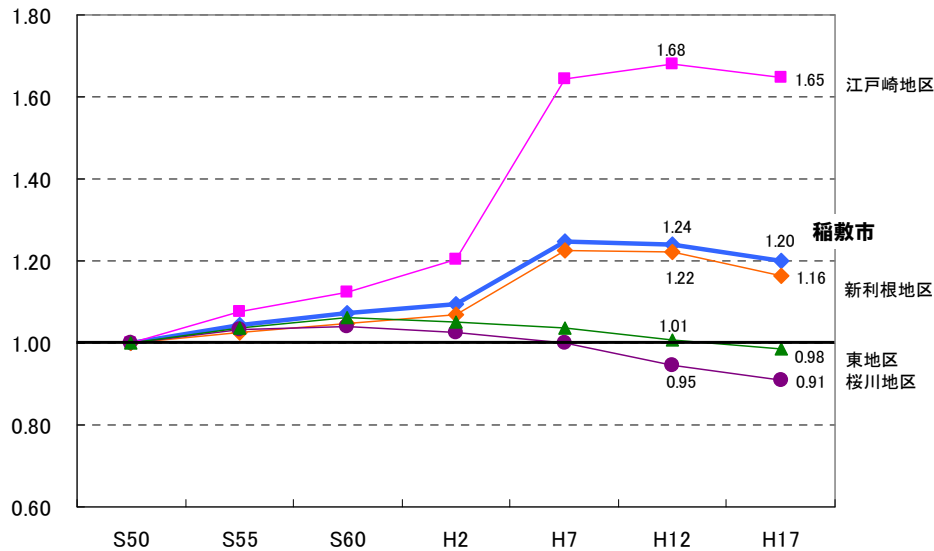
資料：国勢調査

参考：稲敷市の人口の比較【年齢別】



資料：国勢調査

参考：稲敷市の人口【S50年をベースとした人口増加率】



資料：国勢調査

2) 現在の配置・通学区域について

■小学校について

小学校は平成 21 年現在 16 校配置され、児童のほとんどは徒歩通学している。通学時間はおおむね 30 分以内であるが、なかには 1 時間近くかけて徒歩で登下校する児童やバス通学の児童もいる。

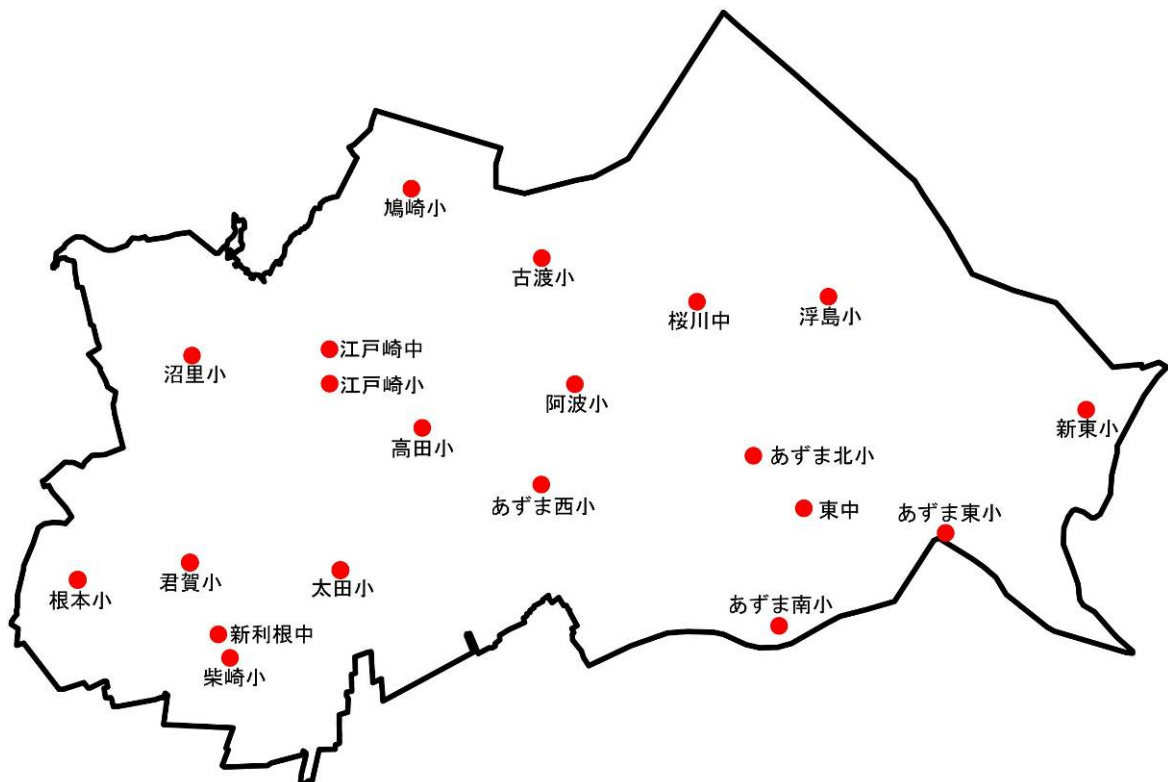
■中学校について

中学校は 4 校配置され、合併前の旧町村ごとに通学区を持っている。中学校の生徒の大半は、徒歩または自転車通学をしているが、バス通学をしている場合もある。また、東地区ではスクールバスの運行が行われている。

■幼稚園について

幼稚園は現在 5 園配置され、小学校の敷地内あるいは、隣接地に設置されておらず、独立した形態で運営されている。

■稲敷市の小中学校



3) まとめ

- 本市は、歴史的・地形的観点から小学校は小規模校が数多く設置されており、16校と人口規模からすると過剰の状況にある。
- 適正規模・適正配置の検討にあたっては、それぞれの学校の創設以来の歴史的経過と地域住民の思いを尊重し、社会の変化に対応した新たな学校づくりを目指すという観点から、学校の規模と配置について適正化を図るものとする。
- 具体的な学校の適正配置等の実施にあたっては、保護者、地域住民などの関係者の意見を参考にし、学校現場や地域が混乱しないよう配慮することが重要である。
- 耐震対策や校舎等の増改築の有無や集約化の時期については、統廃合の方針を定めそれに基づき推進するものとする。
- 地域コミュニティを形成するうえで中学校区の単位は有用であり、原則として存続とする。ただし、中学校において教室数に余裕があり、小中一貫校の検討など、学校教育施設の集約化を進めるものとする。

- しかしながら、学校が適正配置の名のもとに統廃合によって無くなってしまふことは、遠距離通学や子どもと地域との結びつきが弱くなるなどの問題を生むと同時に、保護者と子どもへの負担増という結果にもつながる。さらに、これまで学校を核として形成されていた地域コミュニティへの影響など、新たな課題も考えられる。

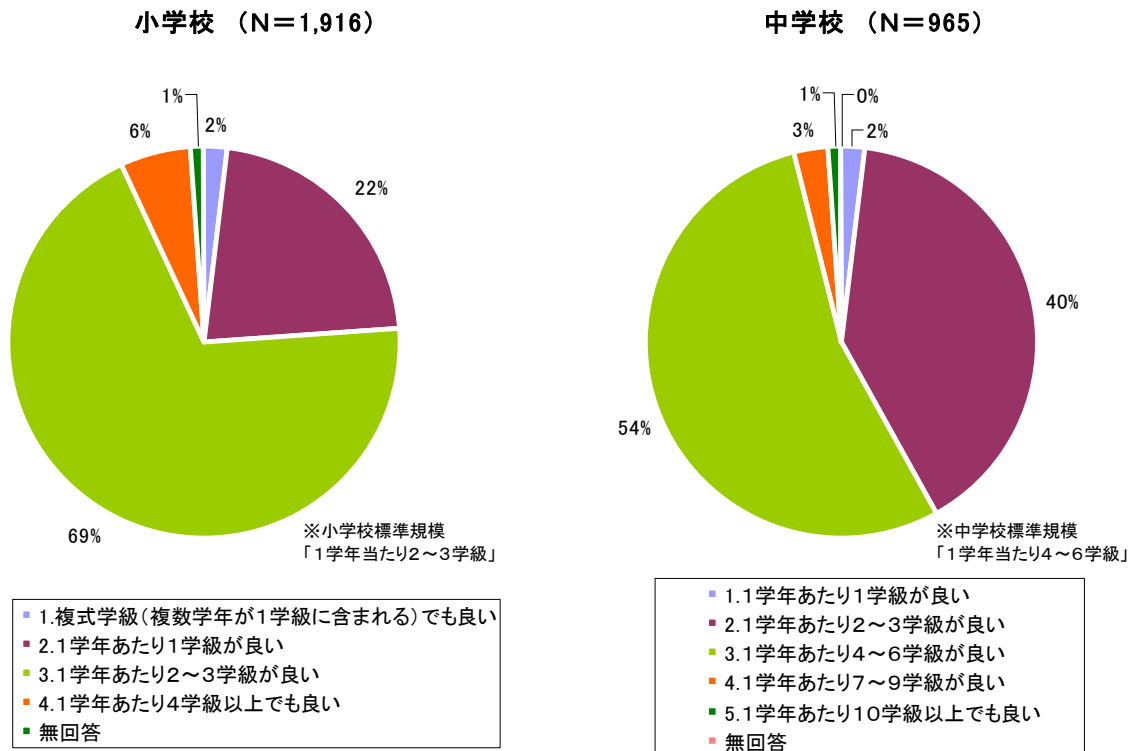
- そこで、学校の適正配置についての市民の意識や意見を探るためアンケート調査を行い、検討の参考にすることにした。

(2) アンケート調査結果

稲敷市学校及び幼稚園適正配置検討委員会でアンケート調査を実施した。

■ 調査結果

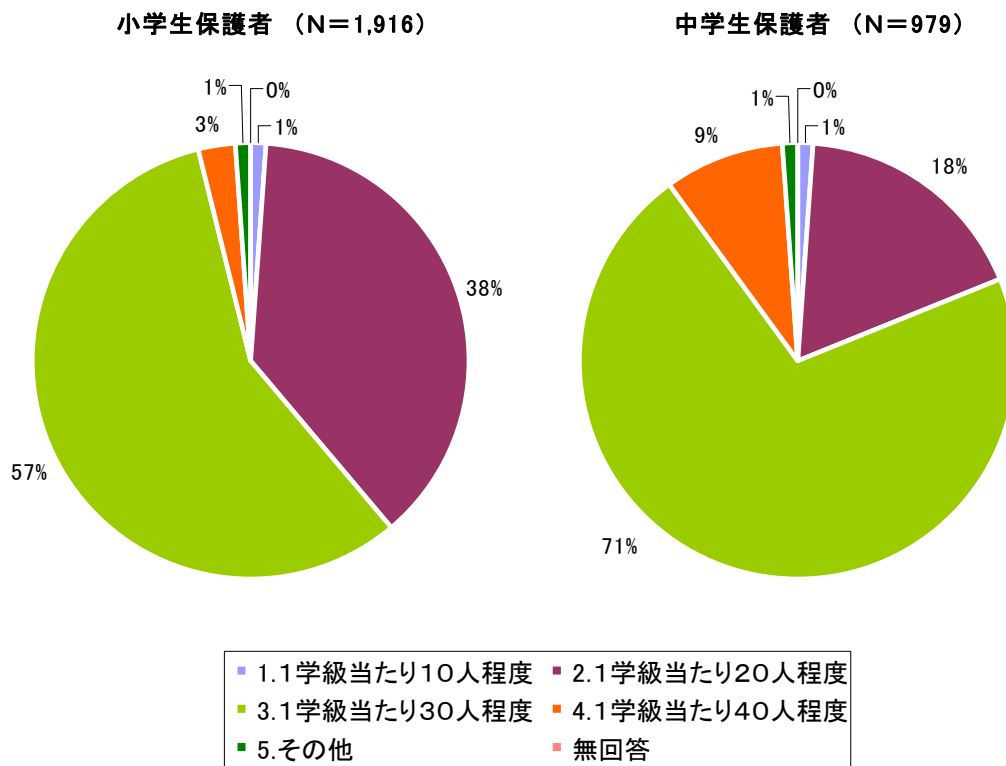
学級数はどの程度が望ましいか【平成19年11月 小・中学校保護者アンケート】



小学校保護者は「1学年あたり2～3学級が良い」が全体の69%を占めている。

中学校保護者「1学年あたり4～6学級が良い」が全体の54%で、次いで「1学年あたり2～3学級が良い」が40%を占めている。

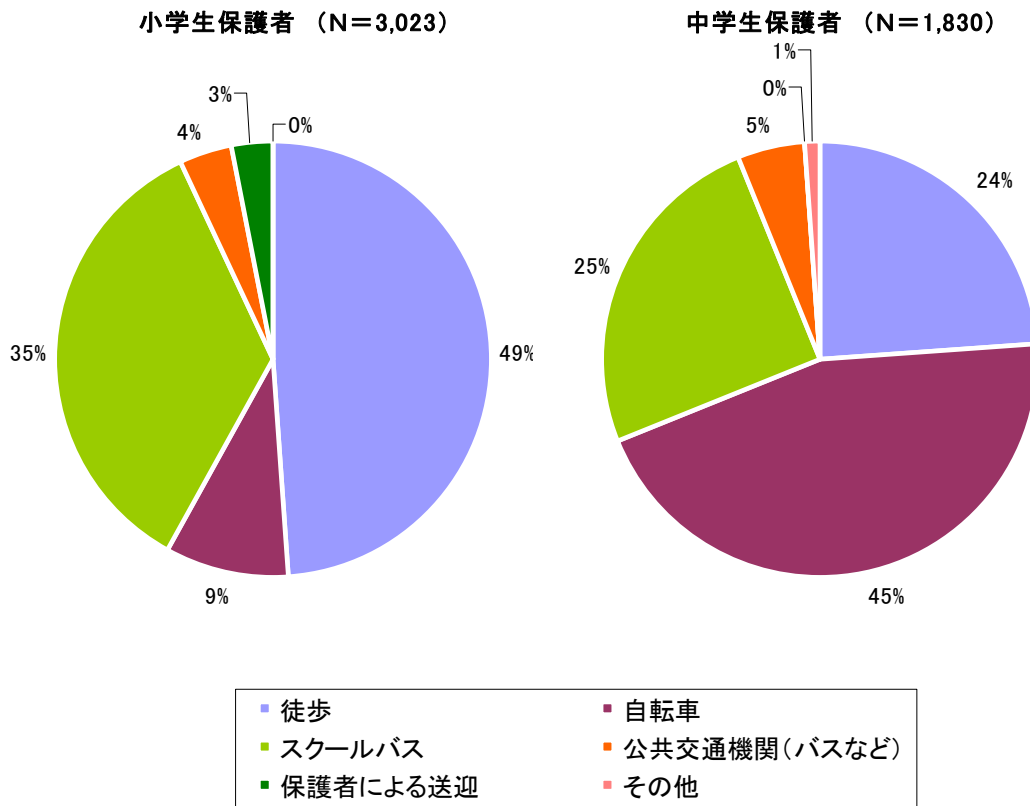
児童数ほどの程度が望ましいか【平成19年11月 小・中学校保護者アンケート】



小学校保護者は「1学級当たり30人程度」が57%で最も高く、次いで「1学級当たり20人程度」が38%を占めている。

中学校保護者は「1学級当たり30人程度」が71%で最も高く、次いで「1学級当たり20人程度」が18%を占めている。

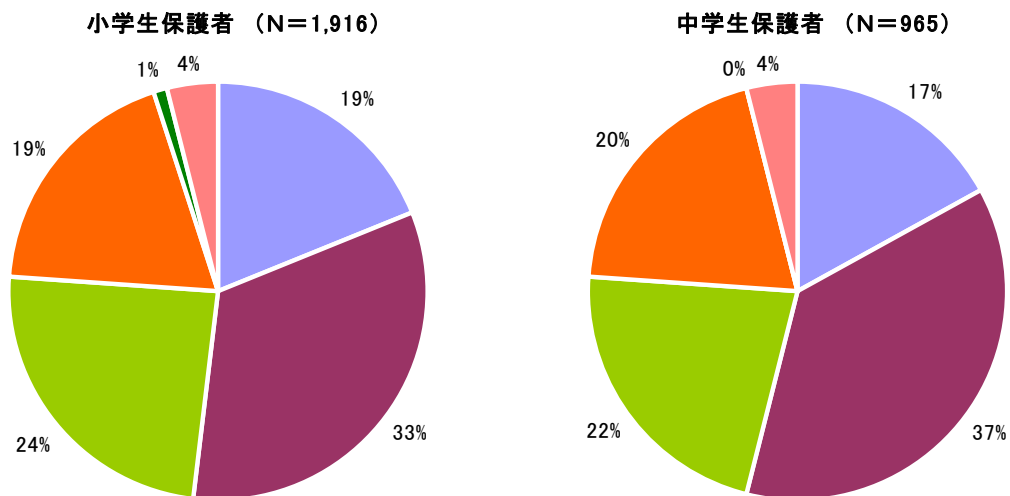
望ましい通学方法【平成19年11月 小・中学校保護者アンケート】



小学校保護者は「徒歩」が49%、「スクールバス」が35%となっている。

中学校保護者は「自転車」が45%、「スクールバス」が25%、「徒歩」が24%となっている。

児童・生徒数の減少への対応【平成19年11月 小・中学校保護者アンケート】



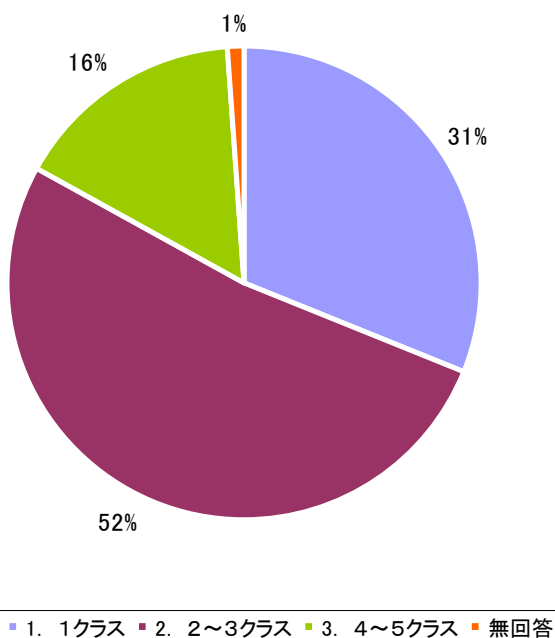
- 1.複式学級になったり、児童・生徒が極端に少なくなったりしても、現行の学校配置を維持する。
- 2.適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、通学区域の弾力的運用を進めて、現行の学校配置を維持する。
- 3.標準規模を満たさなくなった学校から、順次、学校の適正配置を検討する。
- 4.適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、全市的に、学校の適正配置を検討する。
- 5.その他
- 無回答

小学校保護者は「適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、通学区域の弾力的運用を進めて、現行の学校配置を維持する。」が33%、「標準規模を満たさなくなった学校から、順次、学校の適正配置を検討する。」が24%となっている。

中学校保護者は「適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、通学区域の弾力的運用を進めて、現行の学校配置を維持する。」が37%、「標準規模を満たさなくなった学校から、順次、学校の適正配置を検討する。」が22%となっている。

クラスがいくつあったらいいか【平成19年11月 小学生アンケート】

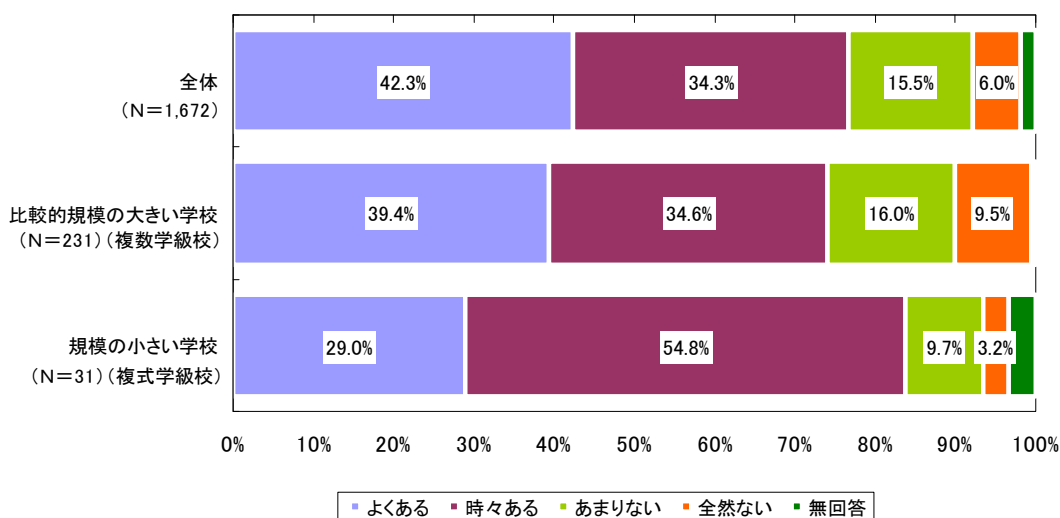
望ましい同学年のクラス数 (N=1,672)



小学生が望むクラス数は、「2～3クラス」が52%を占め、次いで「1クラス」31%、「4～5クラス」16%となっている。

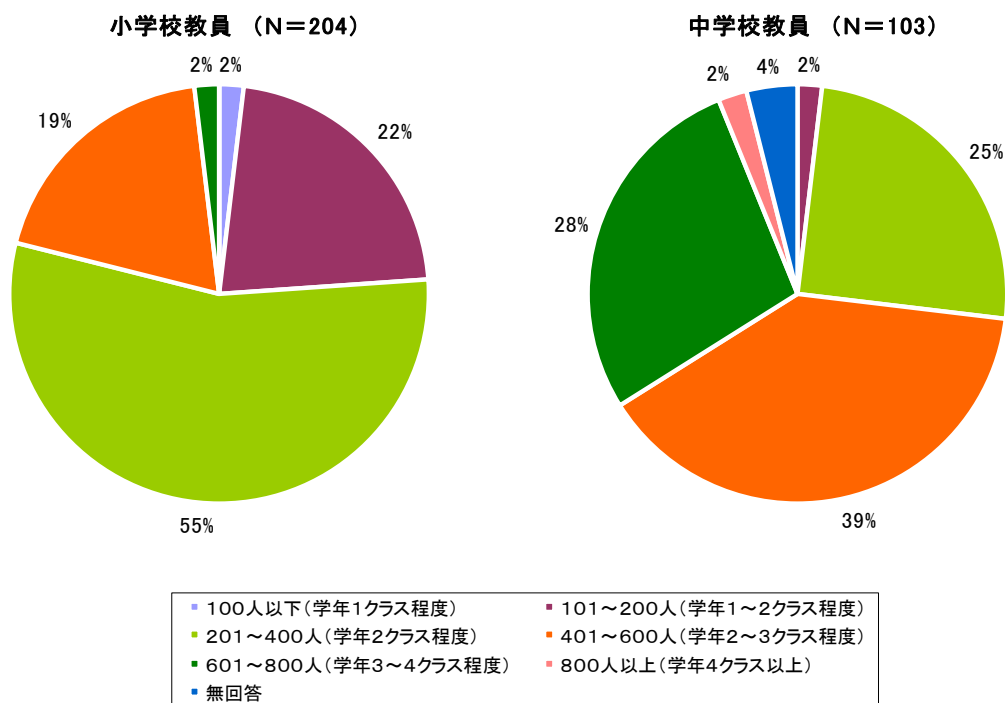
昼休みに大勢(6人以上)の友達と遊ぶことがあるか【平成19年11月 小学生アンケート】

学校規模別にみた昼休みに大勢の友達と遊ぶ頻度



「よくある」が43%、次いで「時々ある」が34%となっている。
 学校規模別にみると、「よくある」、「時々ある」の合計が、比較的大きな規模の学校では74%を占め、規模の小さい学校では84%となっている。

学校全体で何人くらいの児童・生徒がいた方がいいと思うか
【平成19年11月 教員アンケート】



小学校の先生では、「201~400人（学年2クラス程度）」が55%と一番高く、単学級ではなくて2クラス~4クラス以上が良いと答えた先生が全体の約8割だった。

中学校の先生では、「401~600人（学年2クラス~3クラス程度）」が39%と一番高く、次いで「601~800人（学年3クラス~4クラス程度）」が28%、「201~400人（学年2クラス程度）」が25%となっている。

(3) 各地区の分科会のまとめ

稲敷市学校及び幼稚園適正配置検討委員会において、地区別分科会を開催し、各地区ごとの小学校のあり方について検討した。

【江戸崎地区】

- 子供が良い教育を受けられ、良い環境で学べることが最優先
- 江戸崎地区では小中一貫ではなく中学校を中心とした小学校3校程度の小中ユニットを形成
(将来的には小中一貫(一歩進んで幼小中一貫)も検討)
- 地区外との統廃合については、統廃合の対象地区の代表者の意見を聞く場をつくるべき
- 校舎の安全確保を優先し、耐震診断の結果を踏まえて建築
(できれば広い運動場、低層の建物、木造等)
- 統廃合を行った場合に配慮すべきこと
 - ・交通機関の整備
 - ・通学時の安全確保
 - ・小学校高学年の教科担任制
 - ・スクールバスの無料運行
 - ・手厚い指導をするための1学級30人制
 - ・小中6・3年にこだわらない学校環境作り
 - ・保護者や本人の希望を勘案した学校選択制

【新利根地区】

- 小中ユニットの確立に賛成であり、地理的にも規模的にも取り組みが比較的容易である
- 学校施設はいずれも老朽化が著しく、早急な改善策を講じなければならず、計画の推進が必要
- 新利根地区の3小学校の全てを統合し、現中学校隣接の市有地に新設校設置が可能と考える
- 通学手段が最大の課題であり、スクールバスの検討が必要
- 保護者等に対し、小中ユニットのメリット・デメリットの十分な説明が必要
- 学区の再編(他地区の編入)も視野に入れ議論すべき

【桜川地区】

- 旧町村単位を基本とする
- すでに頻繁に合同学習をしており，統合にあまり問題はない
- 桜川中学校は新築したばかりなので，小中一貫校は難しい
(3小学校あわせた児童全部は，入りきれない)
(中学校の敷地は広いのでユニット型の可能性はある)
- 統合した場合
 - ・交通機関の問題 (安全性の面からスクールバス運行を希望)
 - ・運行の問題 (スクールバス1台では時間の問題が生じる)
 - ・経済的負担 (補助が出るのか?)
 - ・事業の継続 (放課後子供教室などは継続してもらいたい)
(保険料だけでお金もかからないので助かる)

【東地区】

- 合併特例債が使える間に東地区だけではなく，年次計画を立て，市内全部を考え実施した方が良い
- 東地区は東西に長いため，通学距離及び通学時間の問題解消が必要
- 東中学校の敷地内または隣接地に小学校を建築する事を希望
- 一つの中学校に一つの小学校という事であれば対応は可能
- スクールバスは，現在の1本ではとても対応が出来ない
- 中学校を含めた学区再編成も必要ではないか
- 保護者への明確なメリット・デメリットの説明が必要
- 先進地の情報収集も重要

(4) 児童数の将来推計

■学校規模ごとの学校数の将来推計

	平成 21 年度	平成 28 年度
過小規模校 (1～5 学級)	新東小	君賀小 太田小 あずま南小 新東小
小規模校 (6～11 学級)	鳩崎小 君賀小 高田小 根本小 柴崎小 太田小 阿波小 浮島小 古渡小 あずま南小 あずま北小 あずま西小 あずま東小	鳩崎小 高田小 根本小 柴崎小 阿波小 浮島小 古渡小 あずま北小 あずま西小 あずま東小
適正規模校 (12～18 学級)	江戸崎小 沼里小	江戸崎小 沼里小

■「これからの学校施設づくり」(昭和 59 年：旧文部省助成課資料)より

学校規模	過小規模	小規模	適正規模 (統合の場合)	大規模	過大規模
学級数	1～5	6～11	12～18 (24)	25～30	31 以上

○学校教育法施行規則第17条及び第55条に、小中学校の「学級数は12学級以上18学級以下を標準とする」とある。この規定によると、小学校では各学年2～3学級、中学校では4～6学級で構成される学校が標準ということになる。これを児童数の面から見ると、小学校は246人～720人の範囲にあたる。

○この規定を適正規模と考えて稲敷市にあてはめてみると、小学校では4校から10校あればよいという計算になる。しかし、実際には小学校16校であり、これは、比較的小規模な学校が市内に散在していることを示している。

○なお、稲敷市内の小学校のうち、標準とされる12～18学級の範囲にある学校は、小学校2校のみである。その他の学校はすべて11学級以下であり、規定の範囲を超える19学級以上の小学校もない。

○今後も児童数減少の傾向は続き、平成28年度における過小規模校は4校となる見通しである。

○学校の小規模化の問題点

小規模校の良い点は、児童一人一人に目が届き、個に応じたきめ細かな指導が出来るということである。反面、児童相互の刺激や良い意味での競争が少ないため、児童をたくましく育てることが難しい部分もある。

小規模校だからこそできる教育上の良い点もあるが、小規模校ではどうしても達成しにくい教育上の目標もある。

小規模校のメリットは小規模校でなければ得られないというものではなく、標準規模の学校に置いては様々な条件が備わり、工夫によりそのメリットを取り入れることも可能である。しかし、デメリットについては、小規模校では解決することが難しいものが少なくない。

次の表は小規模校におけるメリット及びデメリットをまとめたものである。

◇小規模校における一般的なメリット・デメリット

【メリット】

1 学習面
<ul style="list-style-type: none">・ 児童生徒の一人ひとりの個性や特性に応じた教育活動が行いやすく、個々の能力や適性を伸ばしやすい。・ 学校全体での児童生徒の掌握が容易である。・ クラス替えがないので、互いの関係を深めて学級づくりがしやすい。
2 生活面
<ul style="list-style-type: none">・ 児童生徒が互いによく知り合え、全校の児童生徒・教職員の一体感が深まりやすい。・ 異学年交流を重視した教育活動により、全校的な児童生徒の交流が深まりやすい。
3 学校運営面
<ul style="list-style-type: none">・ 教員相互の連絡調整や連携が取りやすく、学校内の教育活動等に一貫性を持たせやすい。・ 教室・体育館・校庭などに比較的余裕があり、活用しやすい。・ 校外行事の場所の選定、活動内容や安全面での制約が少ない。

【デメリット】

1 学習面
<ul style="list-style-type: none">・ 集団規模が小さいと体育・音楽等での学習そのものの成立が難しいことがある。・ 競い合う機会が少なくなり，運動会・スポーツ大会などでの集団活動の活性化が難しい。・ 話し合い活動や共同作業的な活動で，学習内容の深まりや広がりが難しいことがある。（多様な意見や活動に発展しにくい。）・ 複式学級は，2学年同時に指導することになり，指導計画や指導方法等の上で様々な課題が生じる。
2 生活面
<ul style="list-style-type: none">・ 少人数となると学級のルールや児童生徒の中の価値観が固定化されがちになり，多様なものの見方，考え方を学んだり，そこから児童生徒自らが新しいルールや学級文化，人間関係を作り上げようとする機会が少なくなる。・ 中学校の場合，指導する教師，参加する生徒の数が少なくなるため，部活動が制限されることがある。・ 児童生徒の教師への依存傾向が強くなり，児童生徒に自主性・主体性や社会性などが育ちにくい面がある。
3 学校運営面
<ul style="list-style-type: none">・ 少ない教員で学級経営することになり，指導計画・評価計画・教材研究等を全て個人作業で行うことになる。また，共同研究が難しく，教育相互の連携や切磋琢磨する機会が少なくなる。・ 校務分掌や地域社会との連携，教育委員会等への調査報告等で，教員一人当たりの役割が相対的に多くなる。・ 緊急時や学級経営に問題が生じた場合等，他の教員による支援体制を構築することが難しくなる。・ ある程度の教職経験者でないと学年経営に当たることが難しいため，教職員の年齢構成の上昇を招き，学校運営上活性化に欠けることがある。

(5) 学校規模等に係る現行制度

適正な学校規模を検討するにあたり、前提条件となる現行制度について整理する。

■標準規模校

○学校教育法施行規則 第17条〔学級数〕

小学校の学級数は、12学級以上18学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により、特別の事情のあるときは、この限りではない。

※同規則第55条〔準用規定〕により、中学校についてもこの規定を準用するため、同一の定義となる。

○義務教育諸学校施設費国庫負担法施行令 第4条〔適正な学校規模の条件〕

法第3条第1項第4号の適正な規模の条件は、次の各号に掲げるものとする。

- 1) 学級数がおおむね12学級から18学級までであること。
- 2) 通学距離が、小学校にあってはおおむね4km以内、中学校にあってはおおむね6km以内であること。

■1学級の児童・生徒数

○公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律 第3条 〔学級編制の標準〕

	学級編制の区分	1学級の児童又は生徒の数
小学校	同学年の児童で編制する学級	40人
	2の学年の児童で編制する学級	16人(第1学年の児童を含む学級にあっては、8人)
中学校	同学年の生徒で編制する学級	40人
	2の学年の生徒で編制する学級	8人

■茨城県の考え方

○公立小中学校の適正規模について（答申）

平成20年4月25日、義教第228号茨城県教育委員会

小学校：クラス替えが可能である各学年2学級以上となる12学級以上が望ましい。

中学校：クラス替えが可能で全ての教科の担任が配置できる9学級以上が望ましい。

(国語・社会・数学・理科・英語に複数の教員の配置が可能。)

(6) 小学校の適正規模と適正配置

学校は、一定規模の集団で学習や生活する中で、子どもたちに「豊かな心」、「確かな学力」、「健康・体力」などを確実に身につけさせ、心豊かでたくましい人間の育成を目指す場である。学校には多様な子どもが存在しており、集団での活動や友だちとのかかわりの中で、同じ価値を共有したり自分と違う考え方や個性に出会ったりする経験をとおして、互いが切磋琢磨し、ともに成長することができる。

しかしながら、市内の小学校では、近年の少子化の影響などから、児童数の減少がみられ、それに伴う学校の小規模化が懸念される。集団の規模が小さくなると集団教育の良さが生かされにくくなり、また、学校の教職員などの配置数が減り、学校運営面や児童の教育指導面に影響が出てくることから、適正規模を保つ必要がある。

■稲敷市における小学校の適正規模

学校教育法施行規則では、小学校の学級数について「12 学級以上 18 学級以下」を標準としているが、前述の現状と課題、施設規模、アンケート等の結果、地域の成り立ち（コミュニティ）や地理的条件などを踏まえ、稲敷市における小学校の適正規模を次のように定める。

12 学級～18 学級（1 学年 2～3 学級程度）

■稲敷市における小学校の適正配置の考え方

（江戸崎地区）

小学校 5 校のうち 3 校が小規模校（うち 1 校は平成 16 年度新築）であること、特に他の 2 校については、児童数の減少が見込まれる状況にあり、通学区域の変更による統合を検討する。

（新利根地区）

小学校 3 校の全部をもって統合し、新しい場所に学校を設置する新設統合を検討する。

（桜川地区）

小学校 3 校の全部をもって統合し、新しい場所に学校を設置する新設統合を検討する。

（東地区）

小学校 5 校の全部をもって統合し、新しい場所に学校を設置する新設統合を検討する。

(7) 推進に当たっての留意事項

- 適正配置にあたっては、学校が地域で果たしてきた役割や地域事情を十分に配慮し、慎重に行なうことが望ましく、児童・生徒数や学級数の将来推計、学校の小規模化による問題点を、説明会等を開催し、保護者、地域住民などと十分に協議するなど、学校の適正配置の必要性に関する共通理解と協力を得て実施する。
- 学校施設は児童・生徒が一日の大半を過ごす学習・生活の場であり、その安全性の確保は極めて重要であることから、学校施設の耐震化に向けた速やかな対策を図ってきたが、今後も学校の耐震化を優先事項として着実に実施する。
- 統合を行う場合は、該当校をいずれも廃止し、統合校を新しい名称の新設校として設置することを原則とする。
- 通学区域の変更にあたっては、通学距離・通学時間、通学の安全確保、主要幹線道路や河川等の地理的条件、地域とのつながりなどを考慮する。
- 遠距離通学が発生する場合は、スクールバスの運行など通学手段を確保する。
- 諸事情により通学区域に不都合が生じる場合にあっては、関係者の意向も尊重しながら弾力的な運用に努める。
- 将来あるべき姿を視野に、学校施設の充実や通学路の安全確保に伴う施設整備など、計画的な事業実施と併せて適正配置に努める。
- 適正配置に伴う跡地等については、地域及び関係機関と十分な協議を行い有効的な活用を検討する。
- 適正配置の実施時期については、平成 22 年度以降、平成 26 年度末を目途に当面の編成を行うものとする。
- この計画は、適正規模・適正配置を基本に検討をしてきたが、将来的に学級編制基準等に変化が生じた時、又は、新たな課題等が表面化した場合には、速やかにその見直しを行うものとする。

資料編

■ひたち野うしく小学校（茨城県牛久市）

牛久市立 ひたち野うしく小学校

「ひたち野うしく小学校」概要

- 開校年月日 : 平成22年4月1日
- 場所 : 牛久市ひたち野西2丁目11番地
- 敷地面積 : 約 28,000 m²
- 校舎 (延べ床面積) : 約 6,840 m²



ひたち野うしく小学校完成予想図



【管理・特別教室】(2階建)

- 1階 : 職員室、校長室、保健室、特別支援学級×(2)
放送室、図書室、コンピュータ室
2階 : 理科室、家庭科室、図工室、音楽室

【教室棟】(3階建)

- 1階 : 普通教室×(6)、生活科室
2階 : 普通教室×(6)、少人数教室×(1)
3階 : 普通教室×(6)、少人数教室×(1)
各階 : 多目的スペース



校舎と体育館です。左が体育館



とても広い学校図書館です。

【その他施設】

- 給食室
- 体育館
- プール(H22年度)

【特色】

- 牛久市で8校目の小学校です。
- 内装は、木のぬくもりが感じられます。
- 地域開放型の学校施設(音楽室、体育館などを地域のみなさんに開放)
- ソーラーパネルを設置し、太陽光発電により電気コストを削減します。

【通学区域】

- ひたち野西1丁目・2丁目・3丁目・4丁目
- ひたち野東1丁目
- 東獺穴町
- 東大和田町(一部を含む)
- 中根町(一部を含む)
- ☑ 開校までに該当区域に引越しを予定されている方は、事前に教育委員会にご連絡ください。



校舎内も仕上がってきました。



校舎内の階段です。木の温もりがいっぱいです。

(牛久市教育委員会HPより転載

http://www.city.ushiku.ibaraki.jp/section/shidou/hitachino_ushiku/index.html)

■坂井市立丸岡南中学校（福井県坂井市）





1 体育館。採光を有効に活用するため、壁の上部は白色で仕上げた。壁の下部はボールよけのために、スギの縦格子を四周に回している。正面の明るい部分は、ステージ側の開口部だ 2 ランチルーム。右奥が調理・配膳室。左の窓の外は中庭。クラスごとにテーブルを決め、全校生徒がそろって給食をとる。地域への開放を考慮して昇降口のそばに配置した 3 右奥が教室、右手前がホームベース、左がメディアスクエア。ホームベース手前のベンチがシナベニア製のもの。教室側にあるベンチは、下部にヒートポンプ式のファンコイルユニットを内蔵する 4 2階社会科のメディアスクエア。左側は社会科の教室。ここでは教科に合わせて机や設備を配置。右のOSBの壁は可動式の掲示板。間仕切りとしても使う 5 図書室。右奥の扉を出るとすぐに昇降口。閲覧スペース側は中庭に面し明るい。手前左は、書棚とベンチを一体化したオリジナルデザインの家具 6 技術室からみた多目的スペースと美術室。一般の教室より、少し天井を高くし、変化をつけている。床は汚れや傷が目立たないように黒い色で仕上げた

学校で覚える空間体験

「中学校の校舎は身近に建築空間を体験できる格好の教材」。そう考えるシーラカンスK&Hのメンバーは、生徒にいろいろな空間体験ができる場をつくった。

生徒が毎日必ず立ち寄るホームベース。ここに置いたシナベニア製のベンチは、座面を微妙にカーブさせた。カーブによって座り心地に差が出るのが実感できる。生徒用のロッカーは、扉の色を一つひとつ変えることで、個性

を持たせ、楽しい雰囲気をつくる。2階のホームベースには、トップライトを設けた。日の光が廊下に明暗をつくり、自然や時間の移ろいが屋内にいても感じられる。

生徒たちの創作の場である美術室と技術室は、一般の教室よりも天井を約60cm高くしている。さらに2層分のボリュームをもつ共同の作品展示スペースを挟んで隣り合わせに配置し、創作に適した環境をしつらえている。

照明もそれぞれ場所に合わせてデザインを変えた。図書室は棒型の蛍光灯を花びらのように放射状に組み、ランチルームは三つのコンパクト型蛍光灯を組み合わせてペンダント状にした。教室の天井灯は、裸の蛍光灯をスギ材の格子の間に埋め込むように配置。明るさを確保しつつ目立たなくした。

校内は、どこにいても視線が戸外まで通り、開放感とともに地域の風景をより身近にしている。



利用者の声

自主性

大きな空間で、いまだに迷うことがあるが、生徒たちはもうすっかり慣れていくようだ。とても素晴らしい学校へ赴任できたと思っている。新しい時代を迎え、新しい教育システムの下で、自主的にものを考えることができる生徒に育ってほしい。(伊藤俊英校長)

壁がない

この学校の良さは、壁がないことだと思う。物理的な壁だけでなく、オープンな授業で教科の壁をなくし、ホームベースを学年ごとにまとめないことで年齢の壁もなくしている。設計者と細かく協議しながら進めたこのプロジェクトにかか

わり、建築に対する見方も変わった。従来の教室ではできなかった授業も、この学校でいろいろチャレンジしていきたいと思っている。(前田洋一先生)

アドバイス

思ったよりも動きやすい。行き止まりがないので、間違えても安心。他の先生がやっている授業もオープンなのでよくわかり、互いにアドバイスしあえる。生徒は、高学年ほど周囲の目を意識するようだ。教室が開放的なわりには音が外に漏れず、防音性能に驚いている。子どもが学校のことを家庭でいきいきと話すという保護者もいた。(出蔵直美先生)

隣のホームベース

学校じゃないような場所。気楽に行けて、勉強できる雰囲気だ。ベランダから

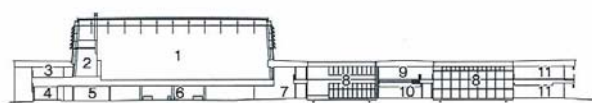
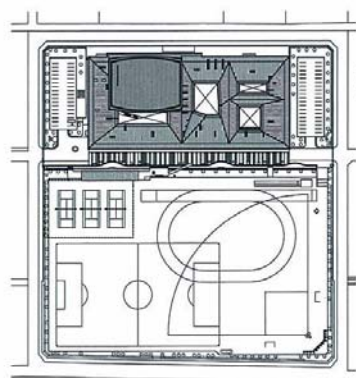
見るグラウンドの風景が好きだ。隣のホームベースは別の学年で遠慮しがちだったけど、けっこうしゃべるようになった。これが、前の学校といちばん変わったことだ。(3年生、男子)

教室のドア

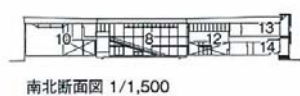
何もかも新しく楽しい。でもまだ迷うことも多い。一番驚いたのは教室のドアがガラスだったこと。とても開放的、でも少し落ち着かない。普段はホームベースのベンチでおしゃべりすることが多い。(3年生、女子)

ランチルーム

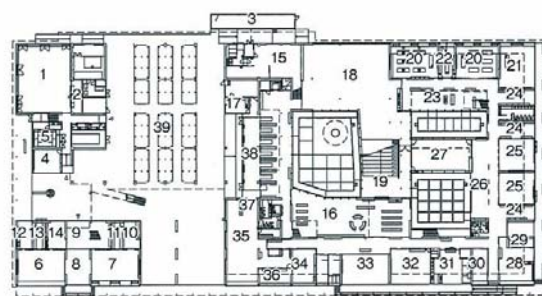
前の学校よりも小さい印象がある。どの教室にも行きやすいから、とても便利。ランチルームで、みんなで一緒に食べるのが楽しいし、おいしい。(3年生、男子)



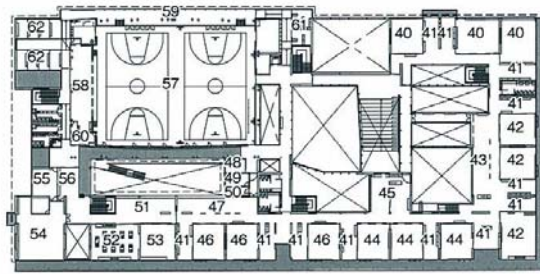
- 1 アリーナ(体育館)
- 2 ステージ
- 3 地域開放女子更衣室
- 4 ミーティングルーム
- 5 電気機械室
- 6 駐輪場
- 7 昇降口
- 8 中庭
- 9 多目的ホール
- 10 ランチルーム
- 11 ホームベース
- 12 メディアライブラリー(図書室)
- 13 普通教室
- 14 職員更衣室



配置図 1/4,000



1階平面図 1/1,500



2階平面図

- | | | | | | |
|-----------------|--------------------|----------------|------------------|----------------|--------------|
| 1 武道場 | 12 技術準備室 | 23 理科メディアスクエア | 34 校長室 | 45 社会科メディアスクエア | 56 音楽ラウンジ |
| 2 武道場倉庫 | 13 技術作品庫 | 24 ホームベース | 35 教員・校務、事務・中央監視 | 46 英語科教室 | 57 アリーナ(体育館) |
| 3 室外機置場 | 14 美術教師チャームコーナー | 25 数学科教室 | 36 教職員サロン | 47 英語科メディアスクエア | 58 ステージ |
| 4 PTAホールシアタールーム | 15 調理室など | 26 数学科メディアスクエア | 37 受け付けロビー | 48 生徒会室 | 59 キャラリー |
| 5 ミーティングルーム | 16 メディアライブラリー(図書室) | 27 コンピューター室 | 38 昇降口 | 49 放送室 | 60 体育教官室 |
| 6 技術室 | 17 用務員室 | 28 特殊学級 | 39 駐輪場 | 50 放送調整室 | 61 生徒更衣室 |
| 7 美術室 | 18 ランチルーム | 29 クワイエットルーム | 40 共通教室 | 51 家庭科メディアスクエア | 62 部室 |
| 8 多目的スペース | 19 多目的ホール | 30 相談室 | 41 ホームベース | 52 家庭科調理室 | |
| 9 創作ギャラリー | 20 理科実験室 | 31 保健室 | 42 国語科教室 | 53 家庭科被服室 | |
| 10 美術準備室 | 21 理科講義室 | 32 会議室 | 43 国語科メディアスクエア | 54 音楽室 | |
| 11 美術作品庫 | 22 理科準備室 | 33 外の教室 | 44 社会科教室 | 55 楽器庫 | |

●坂井市立丸岡南中学校

所在地 福井県坂井市丸岡町高瀬15-2
 主用途 中学校
 地域・地区 都市計画区域(区域区分非設定)、防火
 地域指定なし、法22条区域外
 建ぺい率18.65%(許容70%)
 容積率29.53%(許容400%)
 前面道路 南13.3m
 駐車台数 75台
 敷地面積 3万7180.75㎡
 建築面積 6932.55㎡
 延べ面積 1万979.71㎡
 構造・階数 RC造・一部S造、地上2階
 各階面積 1階5151.82㎡、2階5827.89㎡
 基礎・杭 柱状地盤改良杭
 高さ 最高高19.998m、軒高19.09m、階高
 4.32m、天井高3m
 主なスパン 12m×8.31m
 発注者 坂井市
 設計・監理者 シーラクスK&H(堀場弘、工藤和美)
 計画指導アドバイザー:長澤悟・東洋
 大学教授、構造:オーク構造設計(新
 谷真人)、設備:アクト設計(手塚一)、
 電気:設備計画(大島實史)、機械設備:
 科学応用冷暖研究所(高間三郎)、積算:

築田積算、サインデザイン:インター
 メディアラボ、植栽デザイン:GAヤ
 マザキ(山崎誠一)、照明デザイン:コ
 イズミ照明LCR(吉東広教)
 施工者 五洋建設・見谷組・元井建設工業JV(注
 本秀明)
 施工協力者 電気:伊藤電気(松川直樹)、機械:北
 陸アロー(安野文雄)、グラウンド:辻
 広組・丸岡土建JV(北野浩史)、外構:
 五洋建設・林下建設JVなど
 運営者 坂井市教育委員会
 設計期間 2003年6月~04年8月
 施工期間 2004年9月~06年3月
 開校日 2006年4月6日
 【建設費】
 総工費 27億4553万1800円
 工事費内訳 建築:17億9450万円、電気:2億
 6400万円、機械:4億4961万1050円、
 外構:2億3742万750円
 工事単価 25万円/㎡(延べ面積当たり)
 【外部仕上げ】
 屋根 ステンレスシーム溶接防水、ステンレ
 ス鋼板平葺き、断熱二重折板葺き(ガ

ルバリウム鋼板)、フッ素樹脂塗装ガ
 ルバリウム鋼板葺き
 外壁 コンクリート打ち放し・はっ水材塗布、
 スギ板本実張り浸透性木材保護塗料、
 断熱壁パネル、ステンレス鋼板平葺き
 外まわり建具 アルミサッシ、スチールサッシ、アル
 ミ+木製複合サッシ
 外構 植栽:コブシ、カツラ、ソメイヨシノ、
 アペリア、野芝ほか 舗装:インター
 ロッキングブロック、アスファルト(一
 部ショットプラスチック処理)、コンクリ
 ート テラス:デッキ用硬質木材(イペ)
 t=30
 【内部仕上げ】
 教室・一般部 床:カバザカラパーケットフロア
 t=8UC、壁:コンクリート打ち放し、
 OSBt=8、スチール製グレーチング障
 蔽垂鉛メッキ、天井:ガラスクロス+
 ホルバー(スギ60×20@100)、コ
 ンクリート打ち放し
 体育館 床:カバザカラ体育館用複合フローリ
 ングt=18UC、壁:ガラスクロス+木
 屑練+ホルバー(スギ45×20@60)、
 天井:ガラス繊維フェルトt=8

同志社小学校 「見守る」ための空間デザイン

通常は、外部空間に囲まれる形で校舎をつくるが、同志社小学校ではこの関係を反転させた。城壁のような外壁に囲まれた自由で安全な外部空間を校舎の中央に中庭として配置したのだ。しかも、校舎内部はガラス張りで死角が少なく、視認性が高い。

「オープンな空間の実現とセキュリティの確保は、二律背反の関係にあ

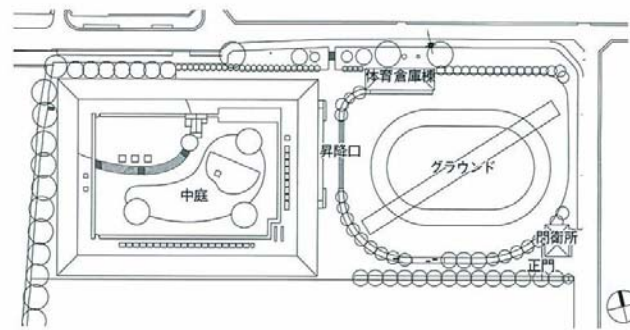
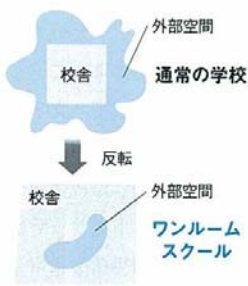
る。しかし、同志社小学校では自由で豊かな空間にしたかった。そこで、中庭を中心とした『ワンルームスクール』を提案した。教師や職員など人の目によって見守ることで安全を確保するこの考えは、究極のセキュリティシステムだと考えている」と同校の設計者である高松伸氏は説明する。

教務センターの内部からもガラス張

りの壁面を通して、オープンスペースの廊下や中庭を見渡することができる。ただ、あまりに見通しが良過ぎると児童の側は監視されているようで不快になる。そこで、適度に視線を遮ることができる打ち合わせコーナーなどを配置している。

「監視するのではなく、見守るという考えが基本」と高松氏は話している。

■セキュリティコンセプト図



配置図 1/2,000

行政の動き 200件を超える防犯システム情報を収集

登下校時などの小学生の安全を確保する方法として、ICタグなどのユビキタスネット技術に注目が集まっている。そこで、総務省は2005年12月から06年1月にかけて「ユビキタスネット技術を用いた子どもの安全確保システム」についての情報収集を実施。3月に収集結果を発表した。

情報提供者は、国や地方自治体、学校、通信事業者、メーカーなど142者で、提供されたシステムや技術は219件。これらのデータを用途・目的別に分類してまとめた資料を、学校関係者や保護者などが活用しやすいように、同省のホームページで公開している。

■総務省が情報収集を実施した「ユビキタスネット技術を用いた子どもの安全確保システム」の分類結果

システム	特徴	提供されるサービスと情報内容	利用されている技術
情報提供システム	不審者情報などの提供を希望する保護者の携帯電話やPCなどに対してメールで配信	不審者情報、災害情報、学校行事など保護者への連絡事項	電子メール配信(PC、携帯電話など、WEB上での閲覧)
状態把握システム	携帯電話やPHSを子どもが持つことで、子どもの位置を確認したり、防犯カメラなどで子どもの映像を保護者が確認したりする	子どもの位置情報・映像、時刻	GPS内蔵携帯電話、PHS位置情報サービス
登下校通知システム	児童が校門や校内の決められた場所を通過した時刻を保護者に通知	校門などを通過した時刻	電子タグ、電子メール配信
危険感知システム	危険が生じたときに児童が持っている防犯ブザーなどを押すことで保護者や近隣住民などに危険を知らせる	子どもの位置情報など	指定先への自動通報機能(携帯電話、PHS、固定電話)
見守りシステム	通学路上の決められた場所を通過した時刻と映像を保護者が確認できる	決められた場所の通過情報、映像	電子タグ、防犯カメラの映像管理・検査、各種センター
その他のシステム	不審者情報の校内放送システム、携帯電話のコンテンツフィルタリングサービスなど	—	—
その他関連情報	今後、安全確保システムへの利用が考えられる技術や子どもの教育など	—	—

出典：日経アーキテクチュア
『これからの学校 2006』

■猪苗代町立緑小学校（福島県猪苗代町）



教室のオープンスペースは、廊下から直接出入りできるアクセスの良さにも配慮された。正体強化ガラスで、朝陽の光を日差しをひらき、多く採り入れるようにした。

雪国に合わせた南側オープンスペース

昨年春に開校した緑小学校は、猪苗代町内の二つの小学校が統合してできた新設校だ。古い木造校舎のあった月輪小学校の建て替えて、新築した校舎は、校庭に隣接した幹線道路があるものの、眼前に猪苗代湖を望み、杉の防風林に囲まれた緑豊かな場所に建つ。

猪苗代町は三方を山で囲まれた豪雪地帯。緑小学校はこの環境下でオープンスクール形式を採用した。コンペで設計者に選ばれた青島裕之氏（青島裕之建築設計室代表）は、オープンスペースを南側、普通教室

を北側とする、従来とは逆の配置プランを提案した。「オープンスペースを単なる通路とせず、子どもたちが自由に多様な活動が行える空間とした」と青島氏は話し、こう続ける。「教室は上部のハイサイドライトからの採光で、奥まで安定的な明るさを確保した」。また、FF（強制通気）式暖房機で床下に暖気を循環させる方式にしたことで「温熱環境や熱効率もよくなる」という。

そして、学校の中心に図書室と多目的教室を一体化した大空間があることも大きな特徴の一つだ。ここは、

全学年の交流の場であり、情報や知識を集中させて自主的に活動できる学習の場として計画された。子どもたちは昇降口から教室へ行く時には必ず通るので、気軽に立ち寄れる親しみやすい場所となっている。多目的教室は昼時になるとランチルームになり、全校児童と教職員のにぎやかな食事風景が展開される。

猪苗代町と青島氏は、実際のプランを詰める際に、PTAを中心としたワークショップを行っている。ここでは多目的教室がランチルームを兼用することで、調理室と離れて



南側にあるグラウンドから見た校舎。建物中ほどの張り出した部分が昇降口。1、2階とも、切り妻の大屋根というシンプルな構成。周りは防風林で囲まれている



校舎のほぼ中央に位置する多目的教室兼ランチルーム。左はオープンに連続した図書室。屋根の勾配、ハイサイドライトの位置、軒の高さが内部空間の形状を決定づけている



廊下の一端につくった丸いベンチのあるコーナー。男女問わず、人気のある場所だ



大屋根と連続してつくられた正面玄関ポーチの深い軒。ゆとりのあるスペースで、雪の浸入を抑制する

しまうことが問題になった。そこで青島氏側は、複数のプランバリエーションをつくり検討し直している。しかし、話し合いを進めていくと、元の案が一番よいという結論に落ち着いた。また、このワークショップで地域の人が一番心配をしたのが、雪対策だった。雪だまりの位置や広さなどは時間をかけて議論した。「今季は雪が少なかったため特に問題は

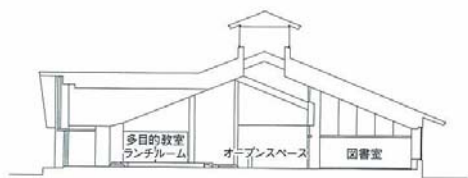
なかったが、現状の雪対策でよいかどうかの判断はこれから」と松本敬之校長は慎重だ。

全校児童が約100人で、1学年1クラスの緑小学校。広々とした敷地に大屋根を連ねた校舎がゆったりと延びる。児童たちに新しい校舎の感想を聞くと皆、「明るくて暖かい」とうれしそうに答えていた。

(西山 麻夕美=フリーライター)



東西方向断面図 1/600



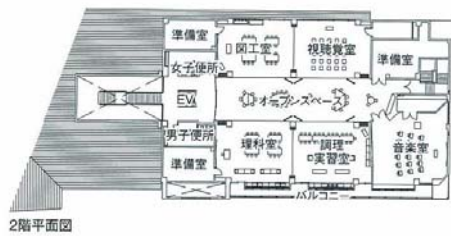
多目的教室断面図 1/400



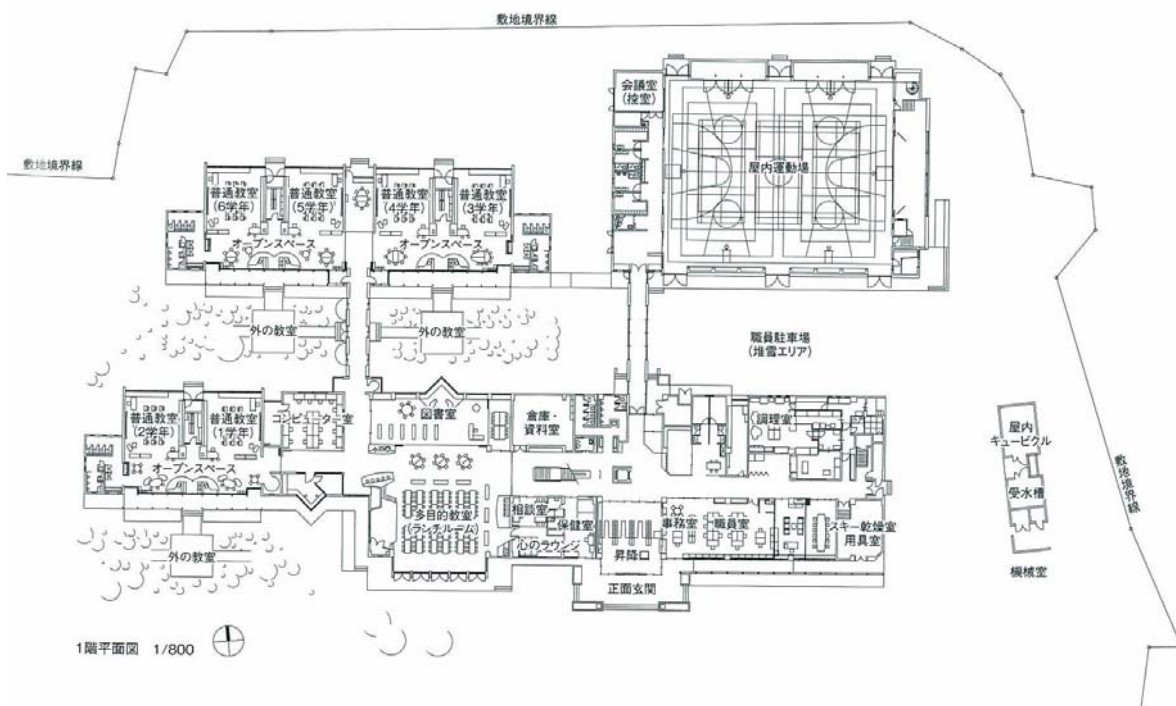
特別教室断面図 1/400



普通教室断面図 1/400



2階平面図



1階平面図 1/800



1 2階東南にある音楽室
2 中央に大きなオープンスペースを挟んで特別教室を配した2階フロア
3 校舎から半年ほど遅れて完成した屋内運動場。プロセニウムアーチや壁面にあるモザイク模様のような板は旧校舎の床材を再利用した

建築概要 | 猪苗代町立緑小学校

Inawashiro Midori Elementary School

▶所在地=福島県耶麻郡猪苗代町大字中小松字狐川原地内 ▶主用途=小学校
▶建ぺい率=12.51% ▶容積率=10.79% ▶建築面積=2999.92m²
▶延べ面積=3477.30m² ▶構造・階数=RC造・一部木造、地上2階 ▶基礎・杭=直接基礎 ▶高さ=最高高さ14.86m、軒高8.62m ▶発注者=猪苗代町
▶設計・監理者=統括：福島県建築設計協同組合、建築：青島裕之建築設計室
▶施工者=会津土建・千代田建設JV ▶竣工=2006年2月

建設費(消費税含む)

▶総工費=8億745万円

内部仕上げ

▶普通教室=床：天然木(カバ)積層フローリングt=12.5mm CL、壁：スギ板本実縦張りt=9mm OS、コンクリート打ち放し補修 EP、掲示クロス張り 天井：化粧石膏ボードt=9.5mm ▶ランチルーム=床：天然木(カバ)積層フローリングt=12.5mm CL、壁：シナ合板t=5.5mm OSCL、掲示クロス張り、天井：化粧石膏ボードt=9.5mm、構造用集成材(吹き抜け)

利用者・関係者の声

明るい校舎

雪国の建物でこれだけガラスを使えるのは、とても繊密に設計をしているからではないかと思う。どこにいても明るく、自然光の採り入れ方がとても上手だ。校庭に隣接してバイパスができたので騒音が心配だったが、防音対策もしっかりしている。児童同士の交流がしやすい空間構成なので、さらに上下学年の交流を進めたいと考えている。

(松本敬之校長)

使いやすい教室

オープン形式の教室は最初、使い方に戸惑ったが、慣れてくると収納スペースが充実していて、物が片付けやすいとわかった。簡単な実習をする時にはオープンスペースの方まで広げて使っている。学校全体として、とても明るくなったと感じる。ただ、季節によっては、西日が日よけのないロッカー上の窓から入ってきて、まぶしくなるクラスもあると聞く。

(大塚三恵子先生/1年生担任)

木の優しい感じが好き

前の校舎と違って、木がいっぱい使っていて優しい感じになっているところが好き。休み時間はオープンスペースでみんなと遊ぶことが多い。照明をつけなくても明るいのが、気持ちいい。

(6年生男子)

おしゃべりコーナーがお気に入り

一番気に入っている場所は、渡り廊下の隅にあるコーナー(32ページの中段右の写真を参照)。昼休みには、みんなと一緒によくおしゃべりしている。男子もここによく来る。図書室にある壁際のいすも大好きで、リラックスできる。

(6年生女子)

友だちがたくさんできた

給食をランチルームで、みんなで食べるのがとても楽しい。この校舎になってから、ほかの学年の子と会う機会が多くなった。最初のころは、すごく緊張しながらほかのクラスへ行っていたが、今は気軽に行き来している。それで、前よりも友だちが多くなった。

(6年生女子)

暖かい

前の校舎は冬になるととき間風がピューピュー吹いていて、とても寒かったが、今度の校舎はどこにいても暖かくて居心地がいい。

(5年生男子)

魅力的な案

今回の学校の統合は、多学年児童を1クラスに編成する複式学級の解消と学校運営の合理化の流れで実現したもの。県内の設計事務所で開催する設計協同組合が主導して設計コンペを行った。青島氏は町の推薦で参加した。16案のうち、上位2案が残ったが、青島氏の案は、明解な動線計画であると同時に、雪国の地域性を考慮したシンプルな外観形状が評価されて選ばれた。斬新そうな案には見えないが、プランをじっくりと見るととても魅力的だ。特に北側の教室配置などは、豪雪地帯でつくるオープンスクールのあり方に今後影響を与えるものだと思う。(岡田仁氏/猪苗代町建設課)

■宇陀市立菟田野小学校（奈良県宇陀市）



古墳の丘で自然と一体化した木の学校

木の産地として知られる奈良県宇陀市菟田野区（旧菟田野町）の古墳の丘に、列柱に支えられた木造屋根が穏やかに横たわる学校が生まれた。周辺の古墳山の発掘に子どもたちも参加する、歴史・環境教育を特徴とする学校である。

木の町ということで、木の学校の要望が強かった。しかし、財政難から補助金以外の資金はなく、m²単価21万円というローコストで木造・RCハイブリッド工法を採用した。

できるだけ木の空間を生かすために、面的な利用ではなく、天井をストライプ格子とし、丸太で壁をつくり、縦格子雨戸を設けるなど、少ない材積の木造で奈良にふさわしい印

象を与える工夫をした。内部空間の領域づくり、子どもの居場所となる教室入り口まわりの「デン」や家具には、160本もの地場産スギ丸太を使っている。

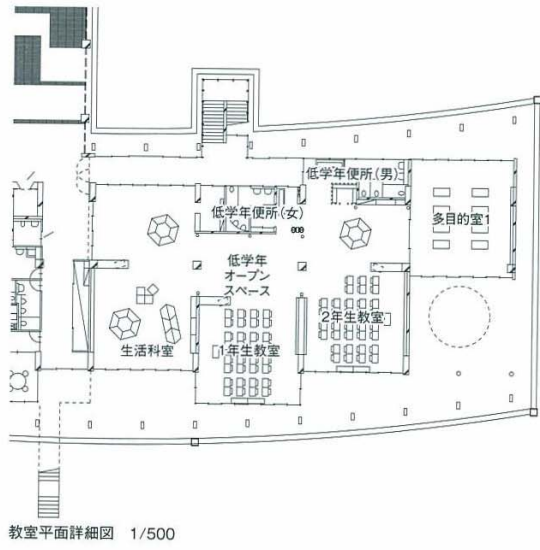
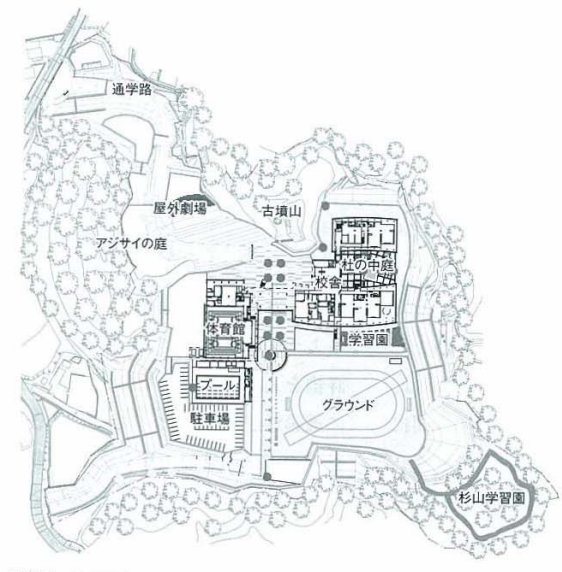
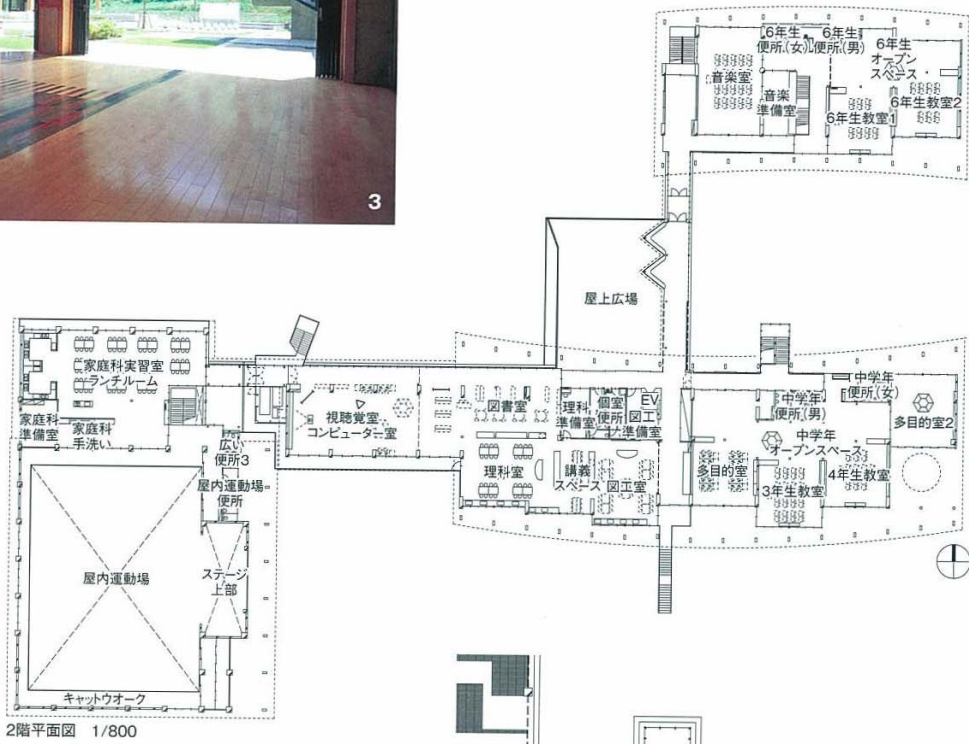
構造は2階床までをRC造とし、屋根を米マツ集成材で水平に架けている。曲面を描く木の列柱が南北校舎それぞれの外側を柔らかく包み、内外ともに視覚的には木の柱が空間を支えているように見える。

教室ブロックでは南ウイングの低・中学年の「家」と北ウイングの5・6学年の「家」が「杜の中庭」を囲んでいる。この教室ブロックと体育館を、図書館・特別教室ブロックがピロティの上で連結している。

低・中学年の「家」や、5・6学年の「家」はオープンスペースを生かした独立性の高い空間とし、これらの「家」と障害児学級、図書・特別教室、校務センターなどの施設を内部化した。その他は半外部とし、厳冬期や真夏期を除いて、周囲の自然と一体化する生活ができるような空間構成を教育と省エネ環境の基本としている。

昇降口から連続する「杜の中庭」には、白板と丸石いすのある「外の教室」も用意した。市松模様の各ブロックは、子どもたちの外部創作、栽培、飼育などの教育の場と考えている。

（中村 勉＝中村勉総合計画事務所）





1 市松様様の「杜の中庭」。創作や栽培、飼育などを学ぶ「外の教室」として利用される（写真：澤田 昭行）
 2 低学年教室（左）とオープンスペース（右）。連続的な空間とするため、家具で仕切っている
 3 「杜の中庭」と連続する1階昇降口（写真：澤田 昭行）

建築概要 | 宇陀市立菟田野小学校
 Udashiritsu Utano Elementary School

▶所在地=奈良県宇陀市菟田野区古市場672 ▶
 主用途=小学校 ▶地域・地区=市街化調整区域
 ▶建ぺい率=70% ▶容積率=324% ▶前面道
 路=6m西 ▶駐車台数=60台 ▶敷地面積=4
 万7064.00㎡ ▶建築面積=3664.08㎡ ▶延べ
 面積=4932.33㎡ ▶構造・階数=RC造・S造・
 木造、地上2階 ▶基礎・杭=ラップル杭、独立基
 礎 ▶高さ=最高高8.4m、軒高7.2m、階高3.6m、
 天井高3.2m ▶主なスパン=3.9m×7.8m ▶
 発注者=宇陀市 ▶設計者=中村勉総合計画事務
 所 ▶設計協力者=構造：遠山一級建築士設計事
 務所、設備：中川建築設計事務所 ▶監理者=柳
 谷設計 ▶施工者=村本建設・松塚建設・小松原
 工務店JV ▶竣工=2006年2月

建設費(消費税を含む)
 ▶総事業費=15億305万8000円 ▶設計監理料
 =3743万3000円 ▶総工費=14億6562万5000
 円

外部仕上げ
 ▶屋根=シート防水、ガルバリウム鋼板 ▶外壁
 =コンクリート打ち放しシリカ系はっ水材 ▶外
 まわり建具=アルミサッシ、一部木製格子戸 ▶
 外構=木デッキ、モルタルカナゴテ、インター
 ロッキング、コンクリート平板、芝生、クレイ舗
 装、タスト舗装

内部仕上げ
 ▶普通教室=床：タイルカーペット 壁：コンク
 リート打ち放し、OSB合板、スギ板張り 天井：
 化粧グラスウール吸音材、木製格子 ▶特別教室
 =床：フローリング(園工、家庭科室)、タイルカー
 ペット(音楽、図書、視聴覚、生活科)、長尺塩ビ
 シート(理科室) 壁：コンクリート打ち放し、
 OSB合板、スギ板張り 天井：化粧グラスウール
 吸音材、木製格子 ▶職員室=床：タイルカー
 ペット 壁：コンクリート打ち放し、スギ板張り、
 石こうボードクロス張り 天井：岩綿吸音板

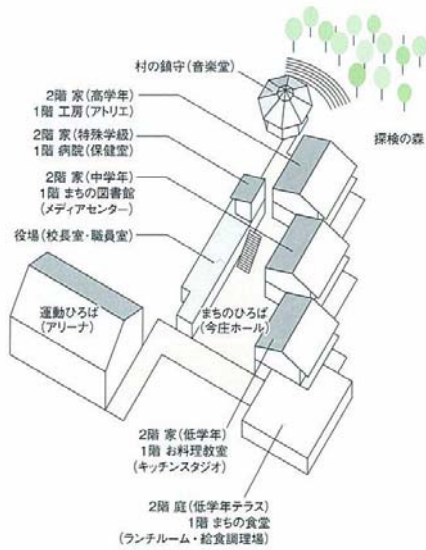
出典：日経アーキテクチャ
 『これからの学校 2007』

■南越前町立今庄小学校（福井県南越前町）



校舎の昇降口。ここは、長さ10~12m、太さ50cmの磨き丸太の柱が林立する大空間だ。梁や桁には大断面集成材を使っている（写真：林広明）

子どもたちのまちのような学校



山々に囲まれ、福井県内屈指の豪雪地域でも知られる旧今庄町(現・南越前町)。この街にある南越前町立今庄小学校は、旧校舎の老朽化と手狭な学校敷地のため、移転改築して誕生した。

教室は、近くを流れる日野川を望む南東向きに配置され、室内には午前中の光と川からの水音、風が注ぐ。

旧今庄町は北陸への玄関口にある宿場町として栄え、昔からの町並みが今なお残っている。校舎の外観や仕上げにその要素を取り入れ、今庄の気候風土に合った、町並みに溶け込むデザインとしている。

コンセプトに「学校づくりはまちづくり」と掲げ、学校建設を通して地域の活性化をサポートすることを目指し、次の3つの提案を行った。

①学校に子どもたちの「まち」をつくる

1階には町の人も集う今庄ホール(ひろば)を中心に特別教室(図書館・工房など)と管理諸室(役場)を配

置し、2階には児童の生活の中心となる普通教室(家)を配置した。子どもたちと地域住民との交流をはぐくみ、地域の目で子どもたちを見守る、子どもたちの「まち」のような学校を目指した。

②ワークショップを通して町民が学校建設にかかわる

地域住民も自分たちの町の学校として積極的に利用できるように先生、PTA、地域住民の参加するワークショップによって設計を進め、その結果、参加者の思いが詰まった今庄ならではの学校となった。また、施工期間中には子どもたちが学校の

サインづくりに参加し、子どもたちが描いた元気いっぱいのサインで学校中が彩られ、親しみのある建物となっている。

③地元の木を使って建てる

新しく建てる学校は町有林のスギを使って建てたいという町民の思いが強かった。そこで学校を支える柱として町有林を積極的に使用した。2層吹き抜けの今庄ホールには直径50cm、長さ10~12mの磨き丸太11本、そのほかのスギは集成材に加工し、2階および雁木(がんぎ)の柱として使用している。

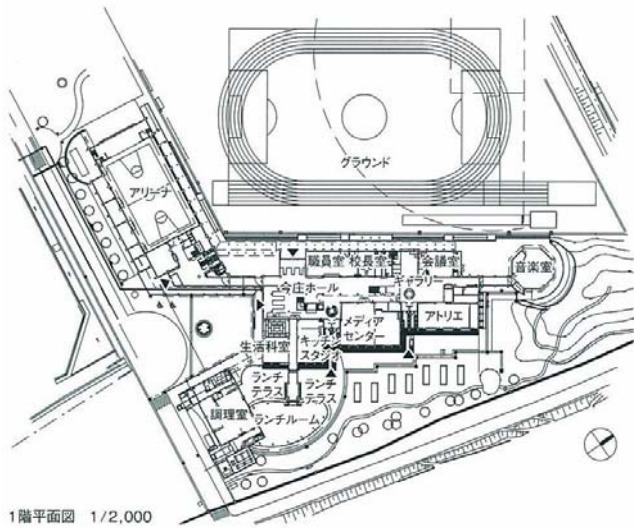
(澤田 耕治=石本建築事務所)



普通教室は、天井の高い空間にしているが、床暖房と太陽光によって冬場も暖かい



1 グラウンド側から見た校舎西側外観
 2 2層吹き抜けの今庄ホール。ここで、多くの児童たちは帰りのバスを待つ
 3 東面にガラス張りの大開口部をつかったアリーナ



1階平面図 1/2,000

建築概要 | 南越前町立今庄小学校
 MINAMIECHIZEN IMAJO ELEMENTARY SCHOOL

▶所在地=福井県南越前町今庄28-10-1 ▶主用途=小学校 ▶建ぺい率=15.25% ▶容積率=17.97% ▶敷地面積=3万259.4m² ▶建築面積=4674.58m² ▶延べ面積=5474.22m² ▶構造・階数=RC造・木造、地上2階 ▶基礎・杭=直接基礎 ▶高さ=最高高さ15.524m、軒高7.0m ▶発注者=南越前町 ▶設計者=石本建築事務所 ▶設計協力者=意匠：松宮設計事務所、宮田建築設計室 ▶施工者=五洋建設・木原建設・大和建設JV、坂川建設・キヨエイビルドJV、田中建設、大和建設、山友建設 ▶竣工=2007年12月

建設費(税込み)
 ▶総工費=約26億9000万円

外部仕上げ
 ▶屋根=越前瓦葺き ▶外壁=1階：コンクリート化粧打ち放しの上フッ素樹脂クリア塗装、コンクリート打ち放し補修の上、ケイ土セメント系仕上り塗り材 2階：スギ下見板張り(柿渋注入) ▶外まわり建具=アルミサッシ ▶外構=木デッキ、インターロッキングほか

内部仕上げ
 ▶普通教室=床：ヒノキ・ムクフローリング 壁：スギ羽目板張りNP、グラスウール化粧吸音板 天井：岩綿吸音板 ▶特別教室=床：ヒノキ・ムクフローリング、壁：スギ羽目板張りNP、ケイソウ土 天井：岩綿吸音板 ▶アリーナ=床：カバ・ムクフローリング 壁：スギルーバーNP、スギ羽目板張りNP、有孔化粧合板 NP 天井：グラスウールボード

出典：日経アーキテクチャ
 『これからの学校 2008』

稲敷市の小中学校

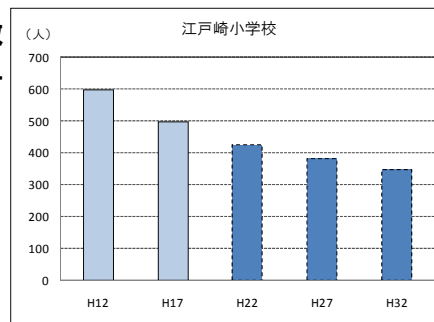
江戸崎小学校【概要】

■創立年 明治6年

■児童数 (平成21年度)

1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
62人	65人	66人	58人	41人	65人	357人
2クラス	2クラス	2クラス	2クラス	2クラス	2クラス	12クラス

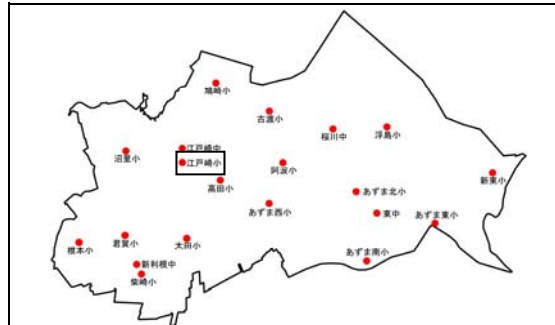
■児童数の推計



■耐震状況

	構造・規模等			建築年	耐震基準	耐震診断	耐震状況
	構造	面積	階数				
教室棟	RC	662㎡	3	S46	旧	H19	H22
教室棟	RC	505㎡	3	S47	旧	H19	H22
教室棟	RC	918㎡	3	S47	旧	H19	H22
教室棟	RC	2192㎡	3	H02	新		
屋内運動場	S	989㎡	1	S54	旧	H19 (優先度調査)	

■学校の位置



【現況写真】



校舎 S46年建築(未改修)



校庭



体育館



通路

君賀小学校【概要】

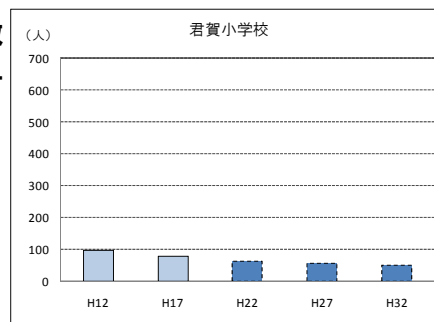
■創立年 昭和40年

(君賀小学校と下君山小学校が統合し、江戸崎町立君賀小学校となる。)

■児童数 (平成21年度)

1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
7人	11人	7人	14人	11人	12人	62人
1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	6クラス

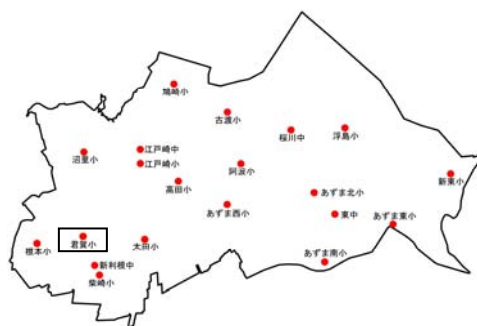
■児童数の推計



■耐震状況

	構造・規模等			建築年	耐震基準	耐震診断	耐震状況
	構造	面積	階数				
管理・教室棟	RC	1990㎡	3	S55	旧	H21	
屋内運動場	S	800㎡	1	S59	新		

■学校の位置



【現況写真】



校舎 S55年建築



校庭

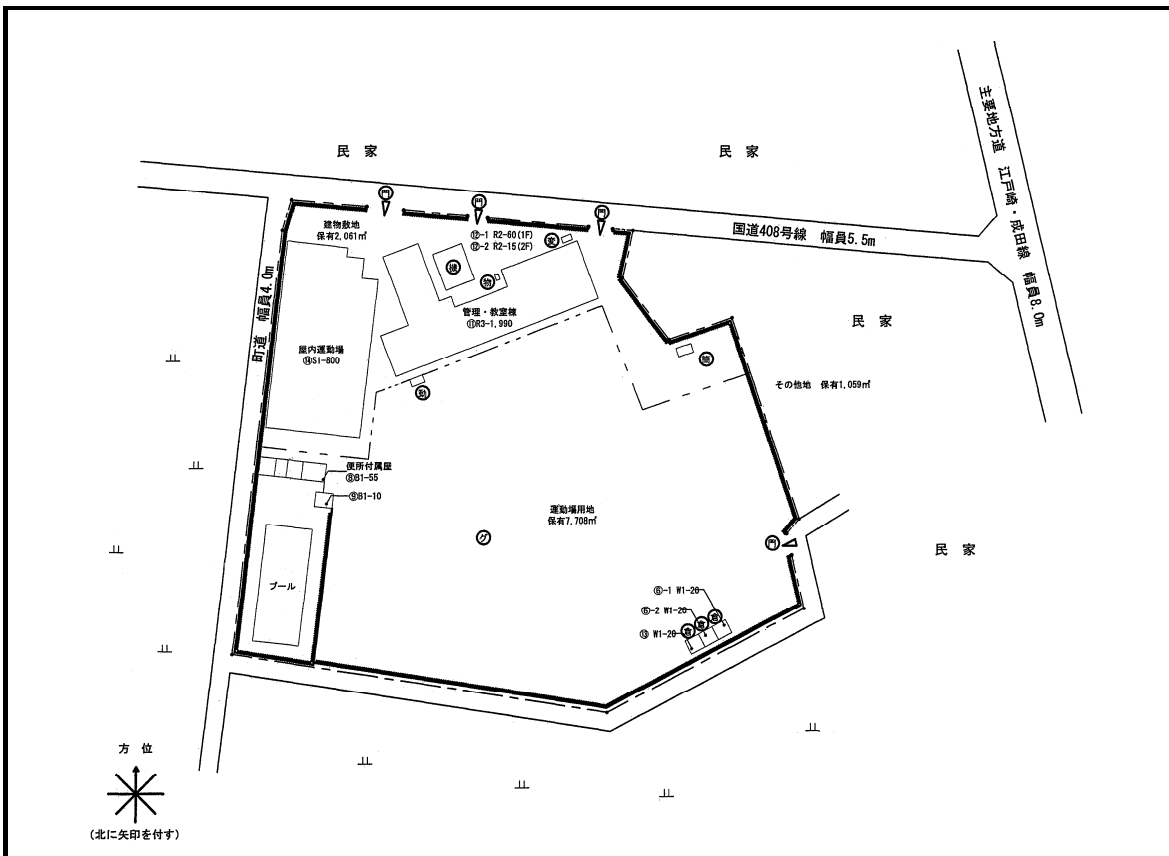


体育館

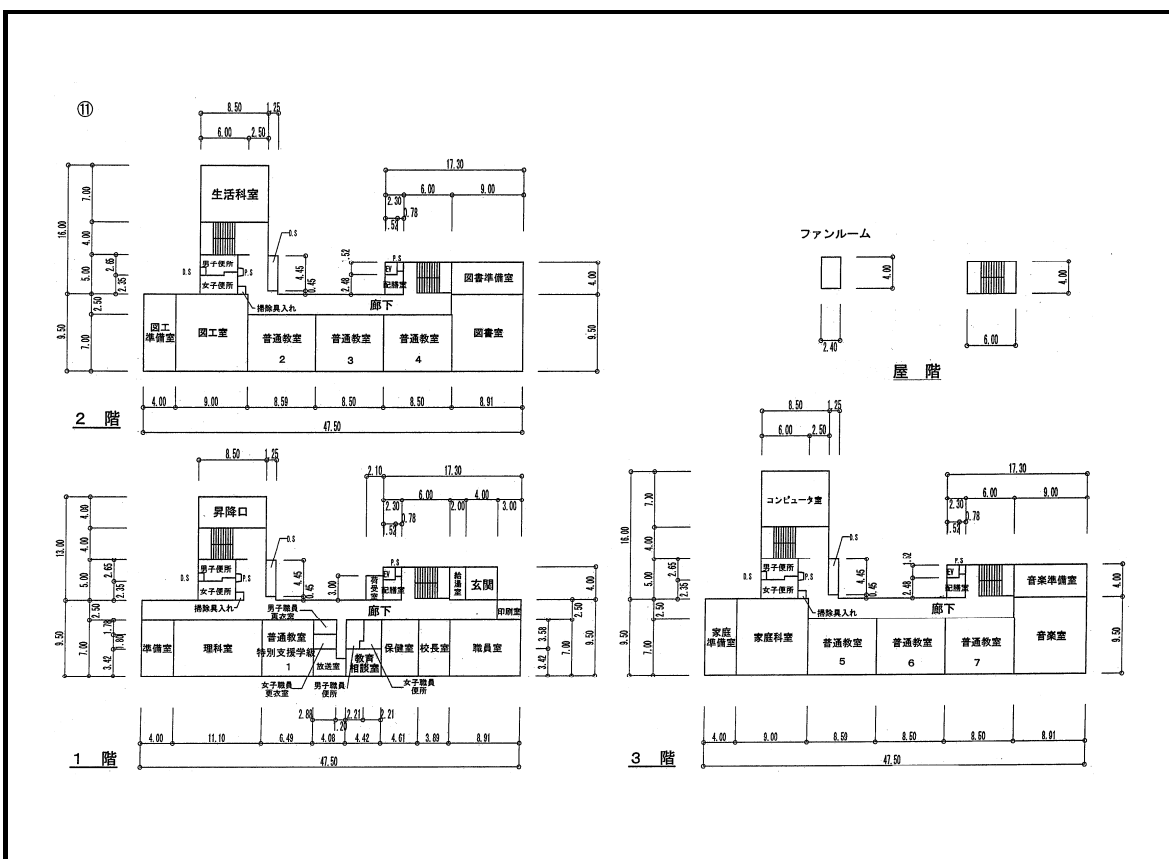


校庭

【校舎の状況】



配置図



平面図

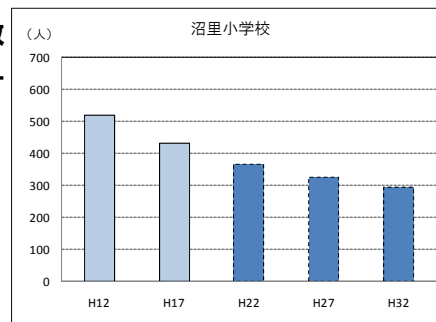
沼里小学校【概要】

■創立年 明治9年

■児童数 (平成21年度)

1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
48人	51人	46人	63人	70人	60人	338人
2クラス	2クラス	2クラス	2クラス	2クラス	2クラス	12クラス

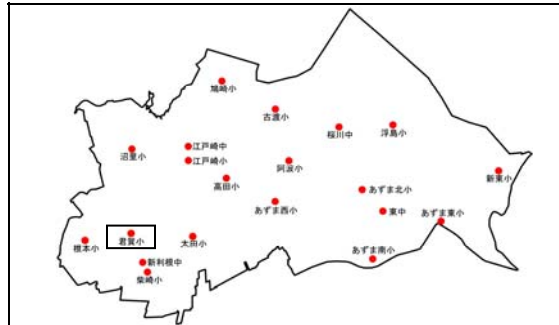
■児童数の推計



■耐震状況

	構造・規模等			建築年	耐震基準	耐震診断	耐震状況
	構造	面積	階数				
管理教室棟	RC	2004㎡	2	S56	旧	H19	H21
管理教室棟	RC	1889㎡	3	H06	新		
屋内運動場	S	800㎡	1	S60	新		

■学校の位置



【現況写真】



校舎 S56年建築



校庭

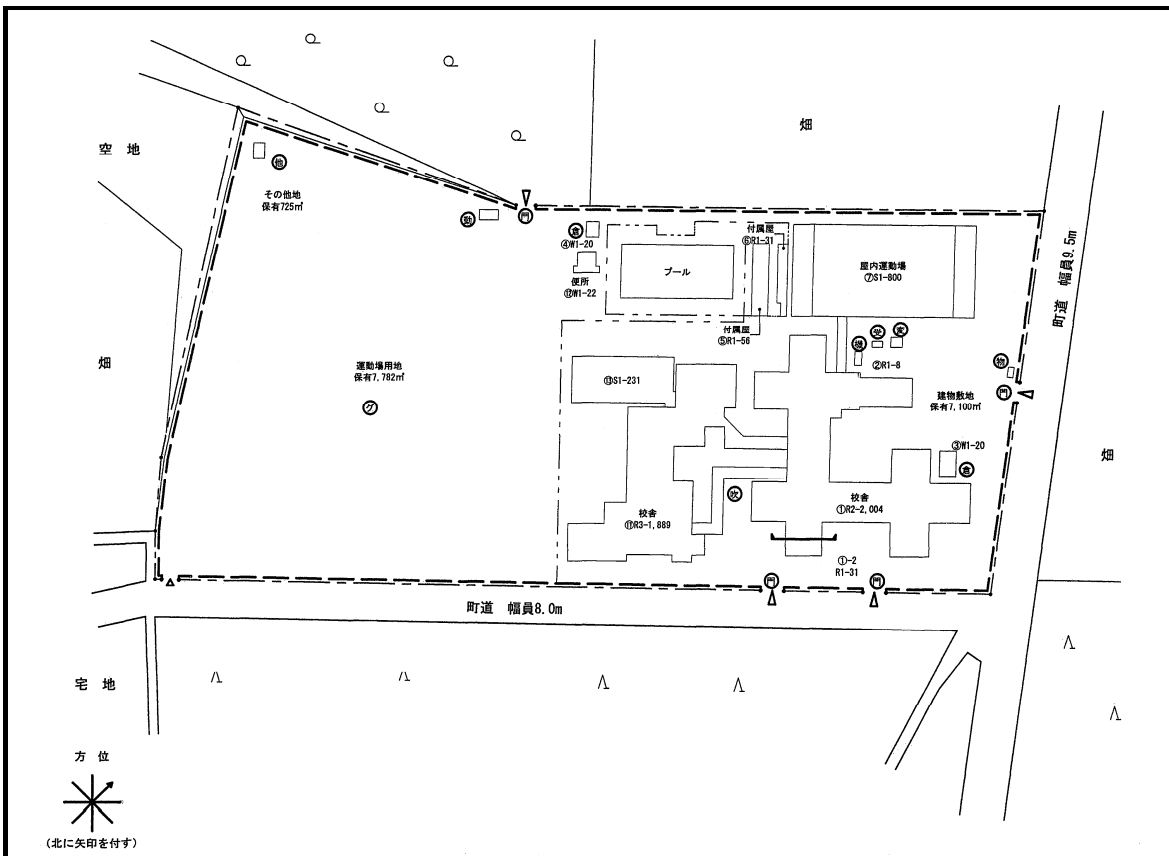


体育館

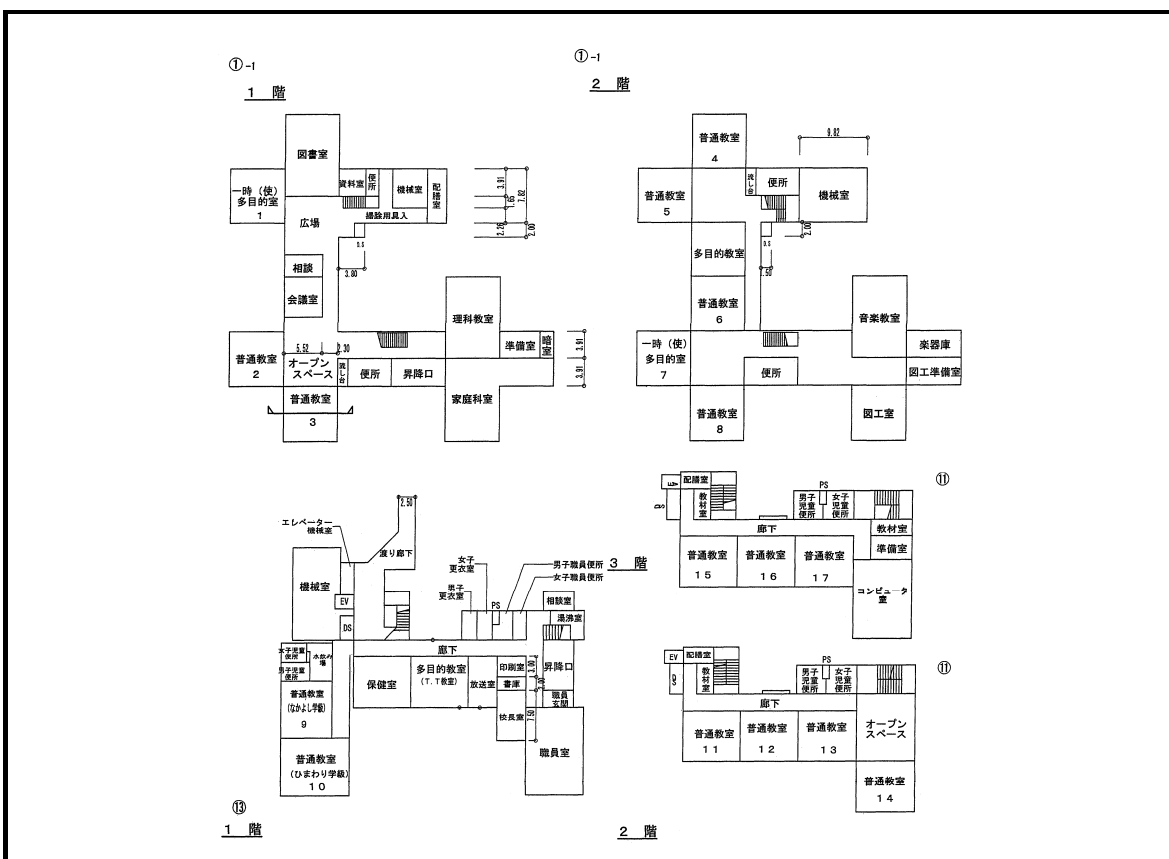


校庭

【校舎の状況】



配置図



平面図

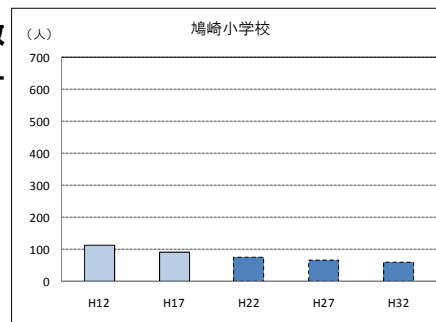
鳩崎小学校【概要】

■創立年 明治9年

■児童数 (平成21年度)

1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
16人	8人	14人	17人	12人	19人	86人
1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	6クラス

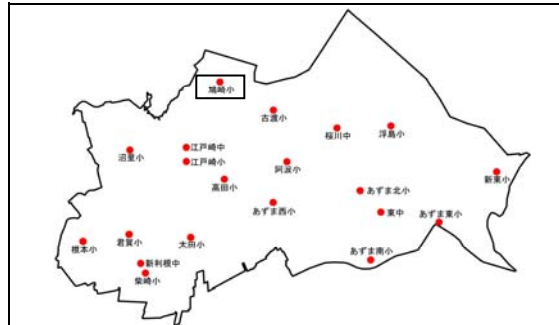
■児童数の推計



■耐震状況

	構造・規模等			建築年	耐震基準	耐震診断	耐震状況
	構造	面積	階数				
管理室・教室棟	RC	1214㎡	2	S49	旧	H21	
管理室・教室棟	RC	772㎡	2	H11	新		
屋内運動場	S	799㎡	1	S55	旧	H19 (優先度調査)	

■学校の位置



【現況写真】



校舎 S49年建築



校庭

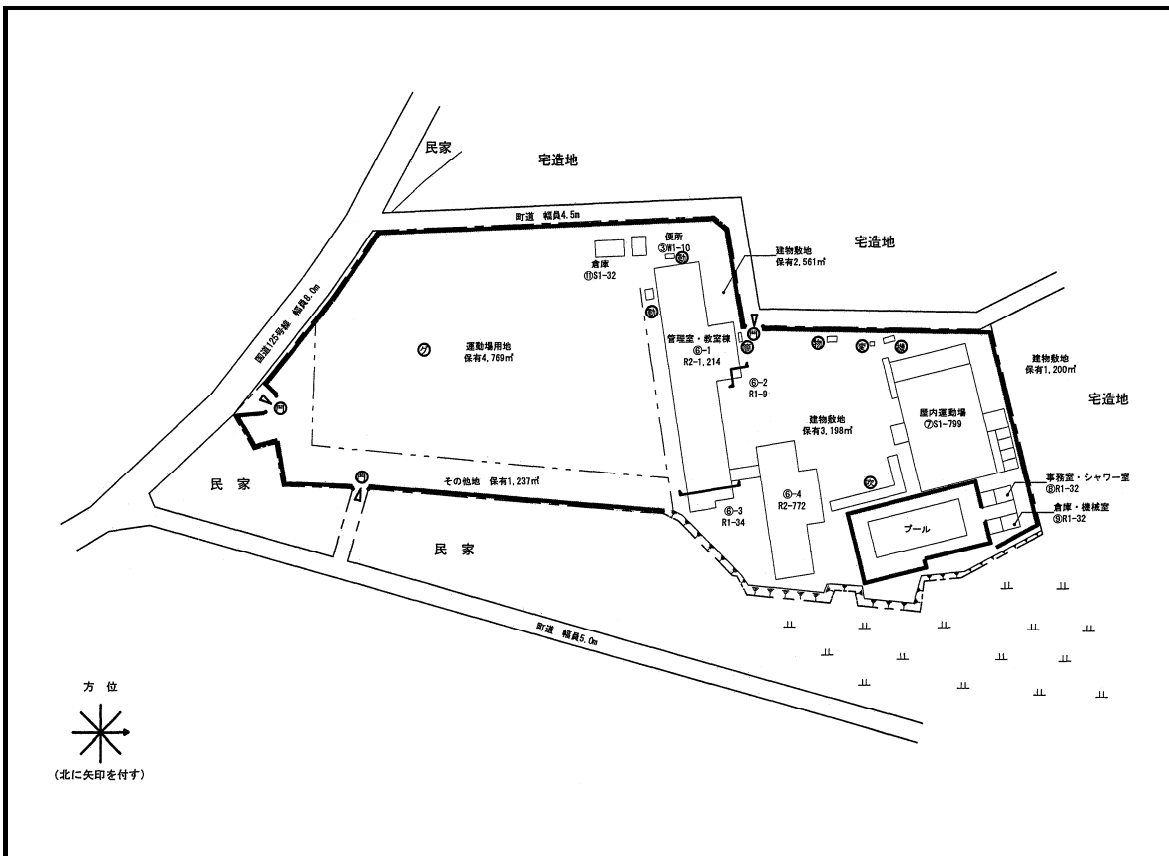


体育館

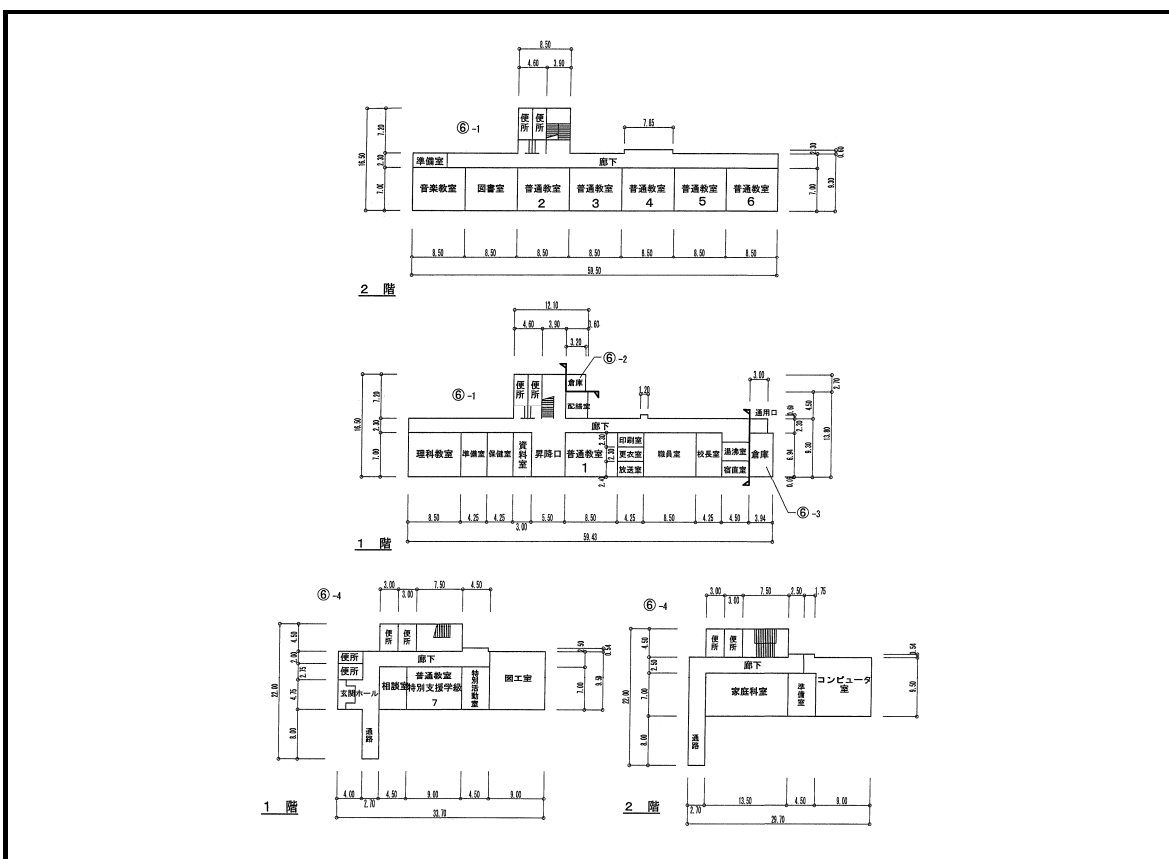


プール

【校舎の状況】



配置図



平面図

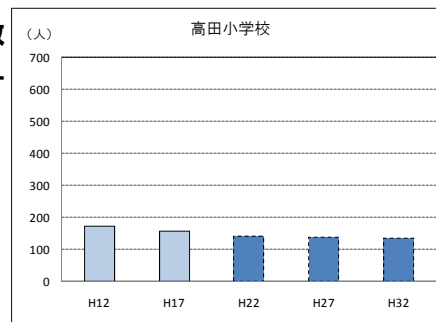
高田小学校【概要】

■創立年 明治9年

■児童数 (平成21年度)

1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
25人	34人	35人	29人	25人	24人	172人
1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	6クラス

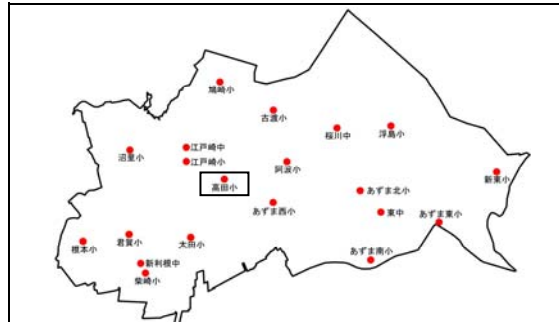
■児童数の推計



■耐震状況

	構造・規模等			建築年	耐震基準	耐震診断	耐震状況
	構造	面積	階数				
教室棟	RC	3574㎡	2	H16	新		
屋内運動場	S	975㎡	1	H17	新		

■学校の位置



【現況写真】



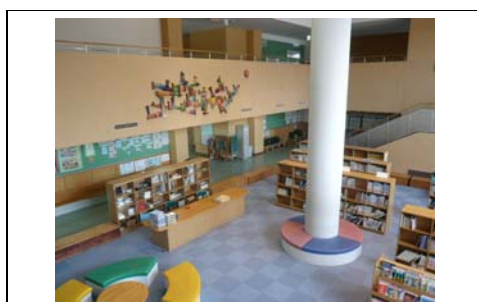
校舎 H16年建築



校庭

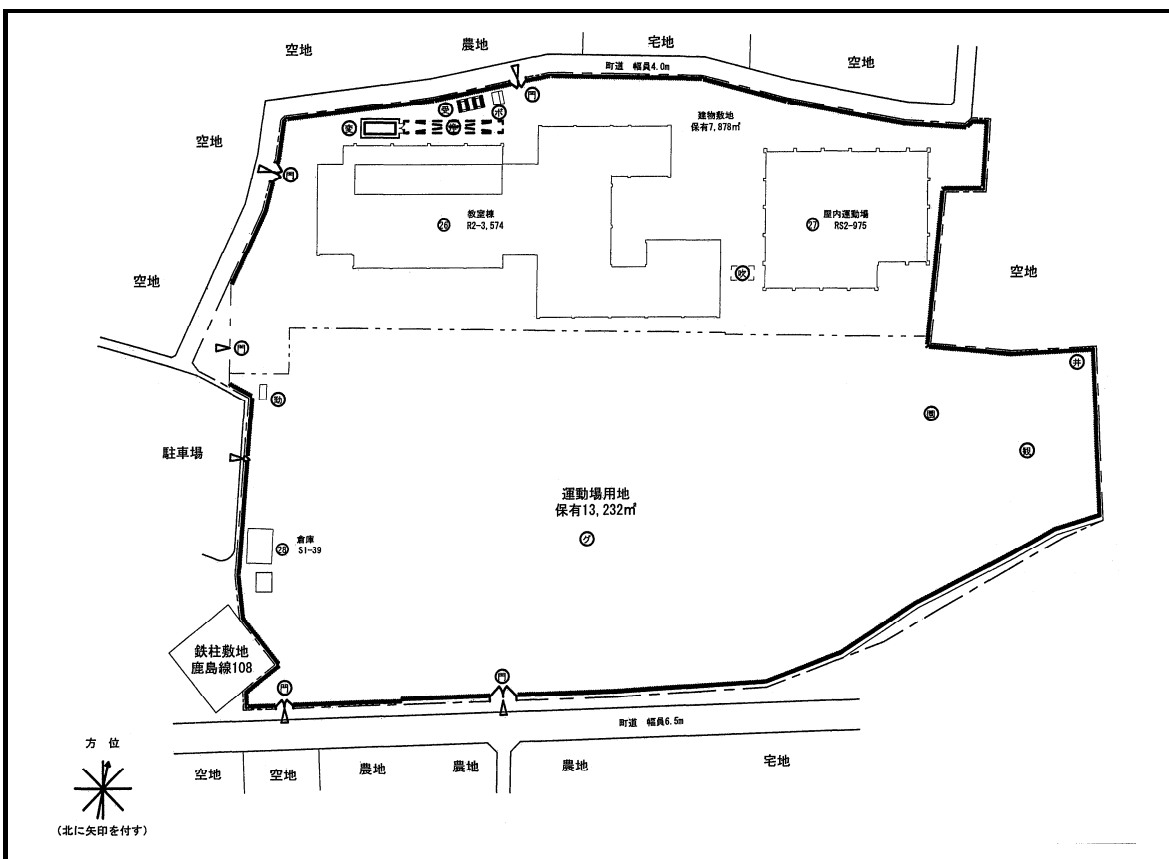


体育館

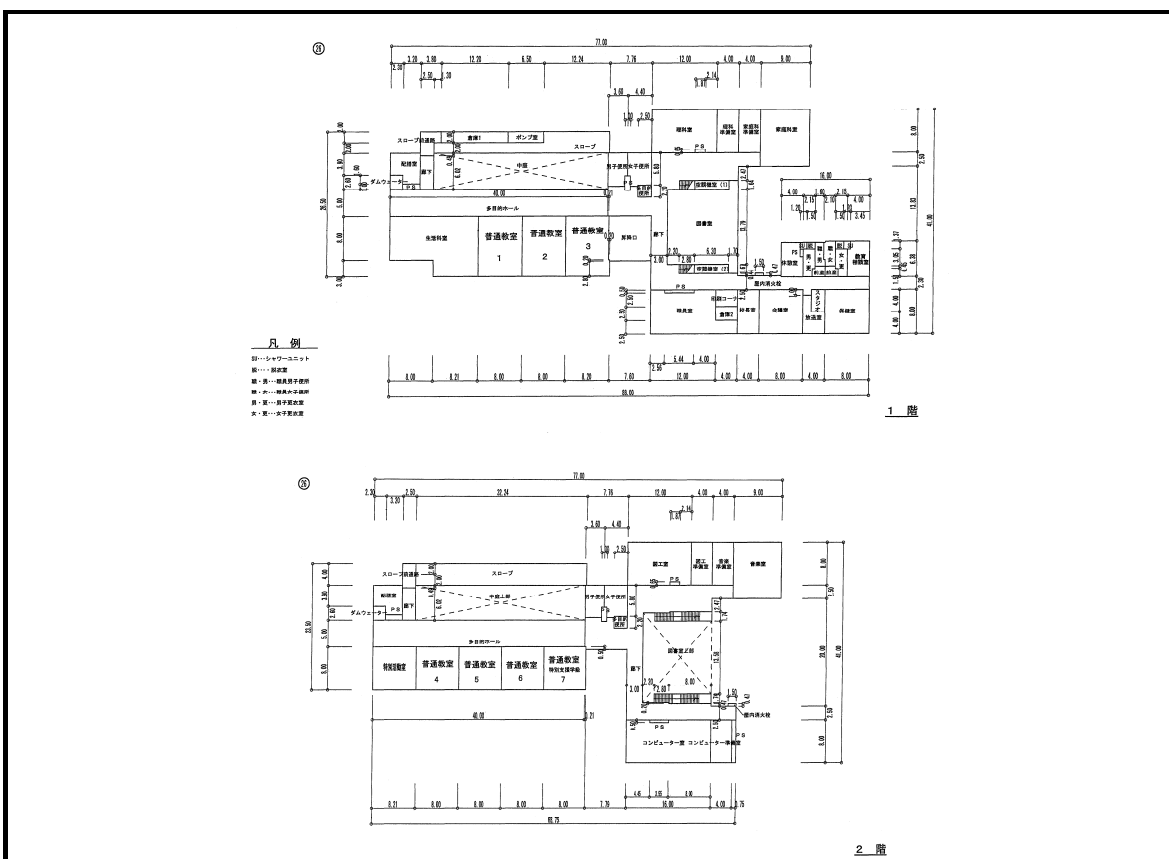


図書スペース

【校舎の状況】



配置図



平面図

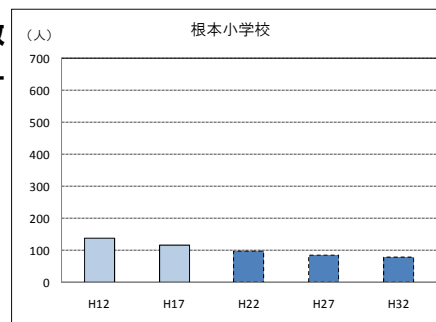
根本小学校【概要】

■創立年 明治9年

■児童数 (平成21年度)

1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
12人	15人	17人	16人	23人	17人	100人
1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	6クラス

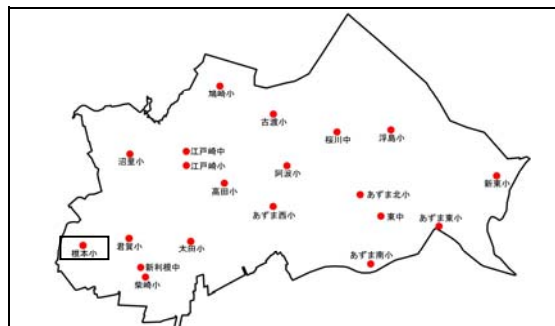
■児童数の推計



■耐震状況

	構造・規模等			建築年	耐震基準	耐震診断	耐震状況
	構造	面積	階数				
管理教室棟	RC	1057㎡	2	S54	旧	H16	未改修
普通教室棟	RC	337㎡	1	S39	旧	H08	改修の必要なし
普通教室棟	RC	272㎡	1	S48	旧	H08	改修の必要なし
屋内運動場	RC	732㎡	1	S54	旧	H19 (優先度調査)	

■学校の位置



【現況写真】



校舎 S39年建築(未改修)



校舎 S54年建築(未改修)



体育館



校庭

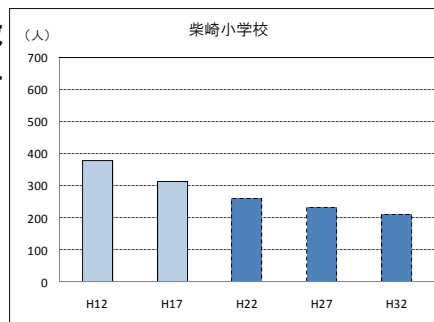
柴崎小学校【概要】

■創立年 明治6年

■児童数 (平成21年度)

1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
45人	46人	39人	28人	46人	49人	253人
2クラス	2クラス	1クラス	1クラス	2クラス	2クラス	10クラス

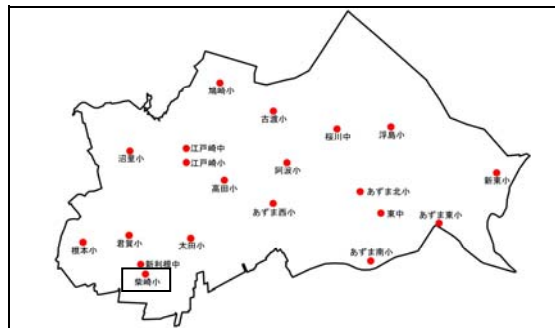
■児童数の推計



■耐震状況

	構造・規模等			建築年	耐震基準	耐震診断	耐震状況
	構造	面積	階数				
管理教室棟	RC	1118㎡	2	S44	旧	H15	未改修
普通・特別教室棟	RC	1697㎡	3	S53	旧	H15	未改修
屋内運動場	RC	800㎡	2	S53	旧	H19 (優先度調査)	

■学校の位置



【現況写真】



校舎 S44年建築(未改修)



校庭

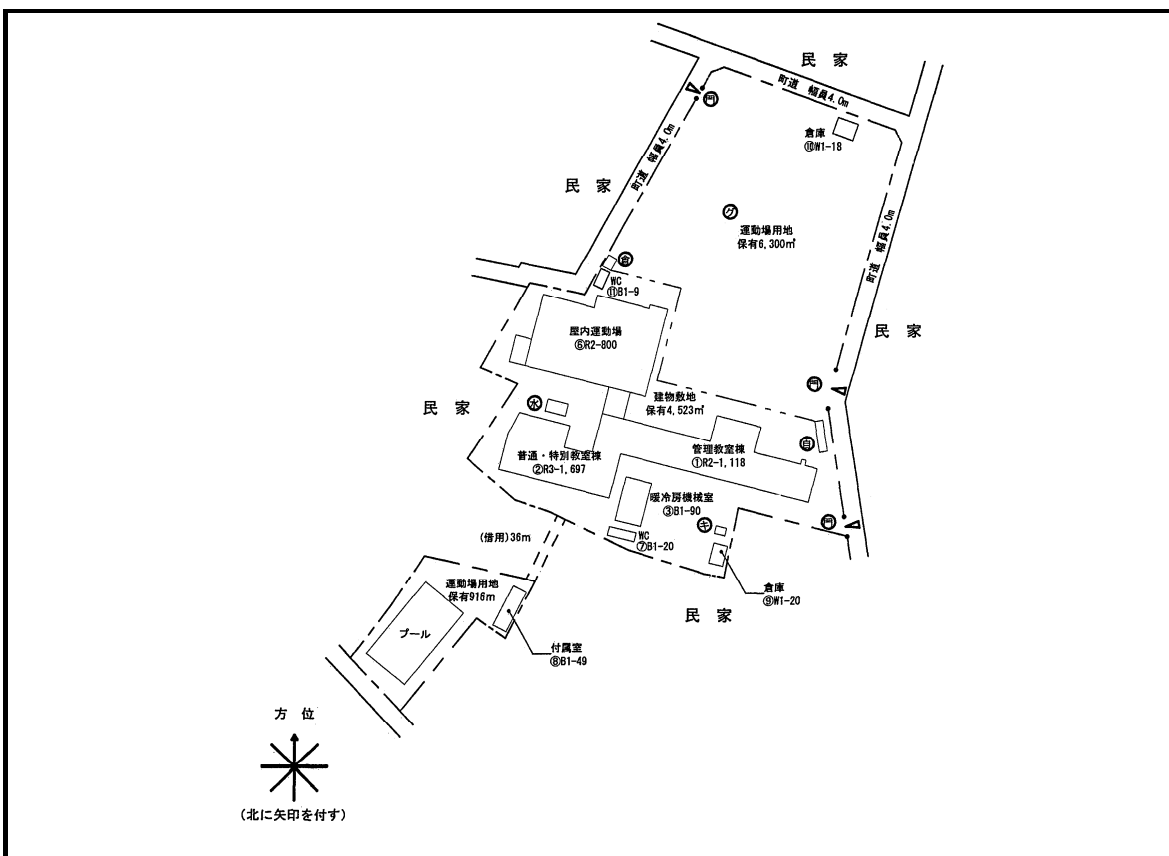


体育館

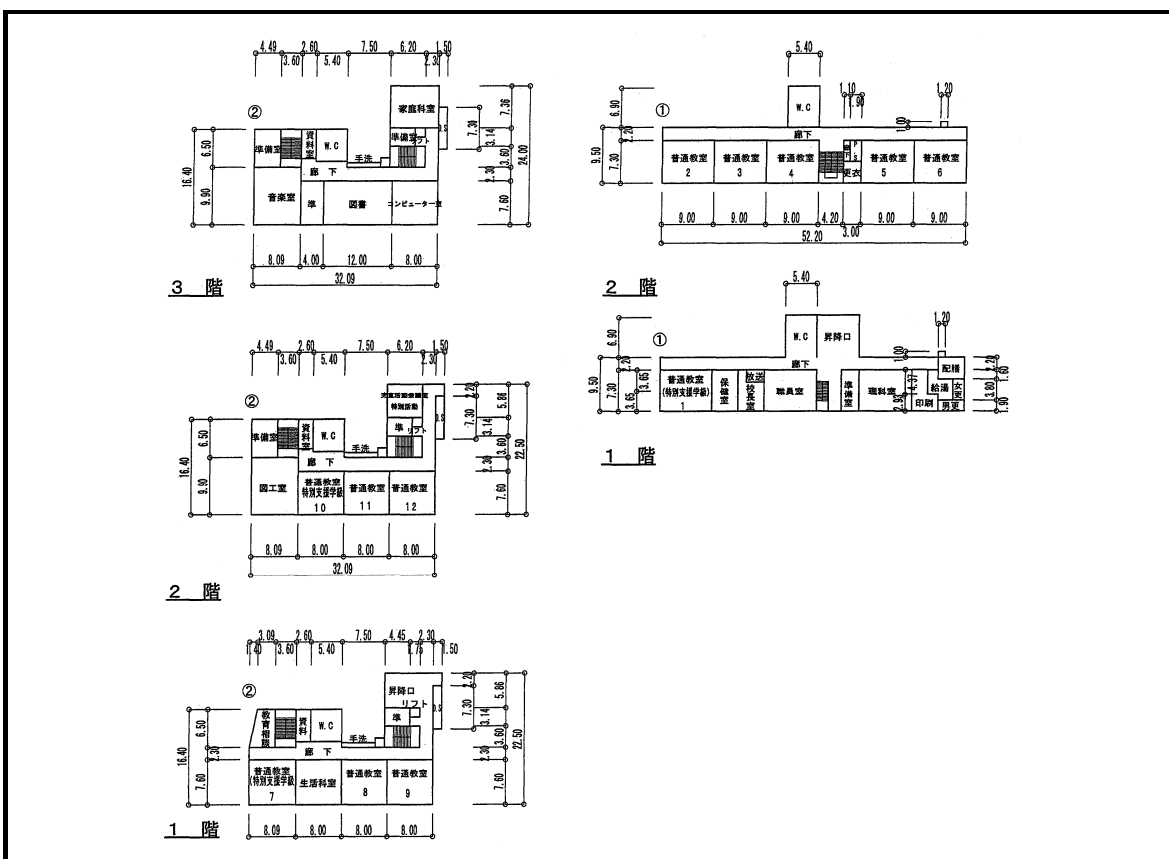


校庭

【校舎の状況】



配置図



平面図

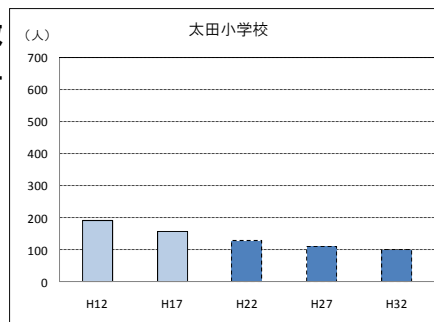
太田小学校【概要】

■創立年 明治9年

■児童数 (平成21年度)

1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
13人	14人	16人	18人	13人	18人	92人
1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	6クラス

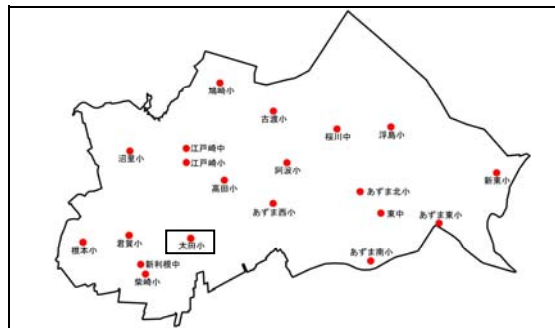
■児童数の推計



■耐震状況

	構造・規模等			建築年	耐震基準	耐震診断	耐震状況
	構造	面積	階数				
管理・普通教室棟	RC	442㎡	2	S40	旧	H16	未改修
普通・特別教室棟	RC	1597㎡	3	S55	旧	H16	未改修
屋内運動場	RC	805㎡	1	S55	旧	H19 (優先度調査)	

■学校の位置



【現況写真】



校舎 S46年建築(未改修)



校庭

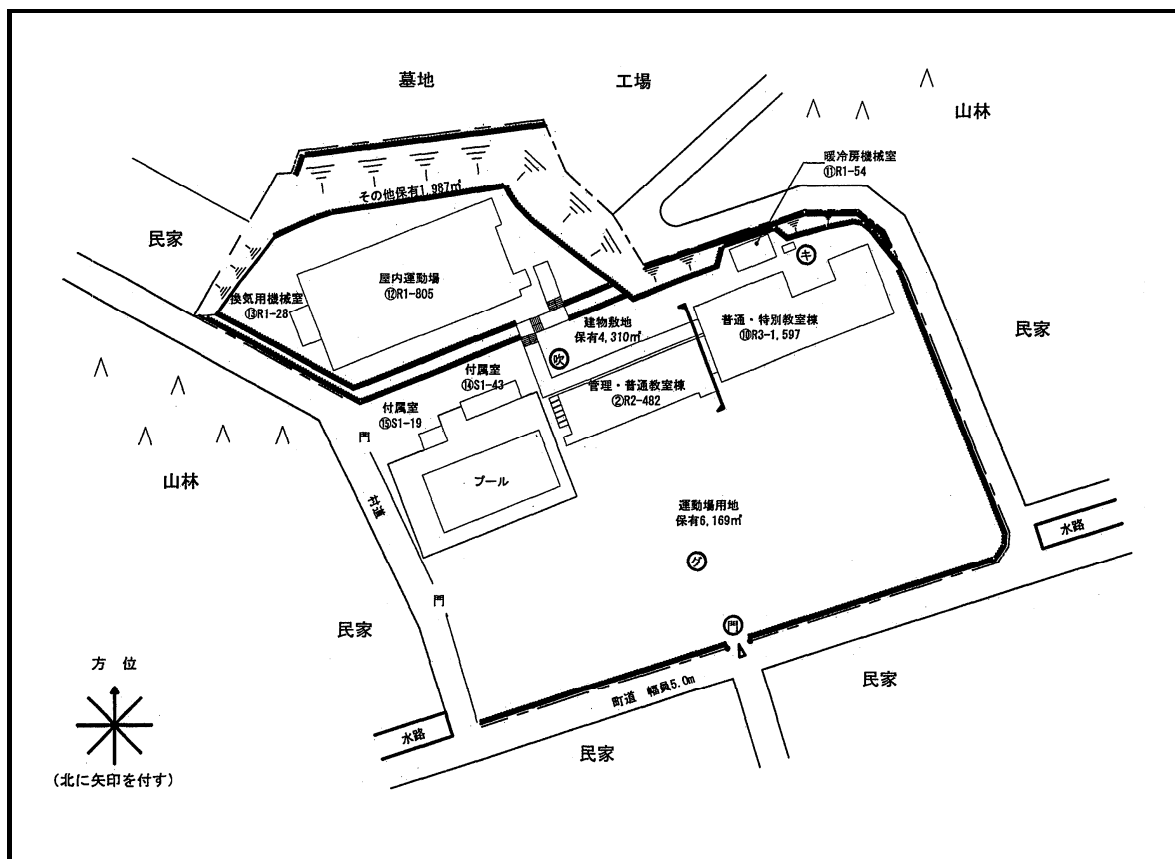


体育館

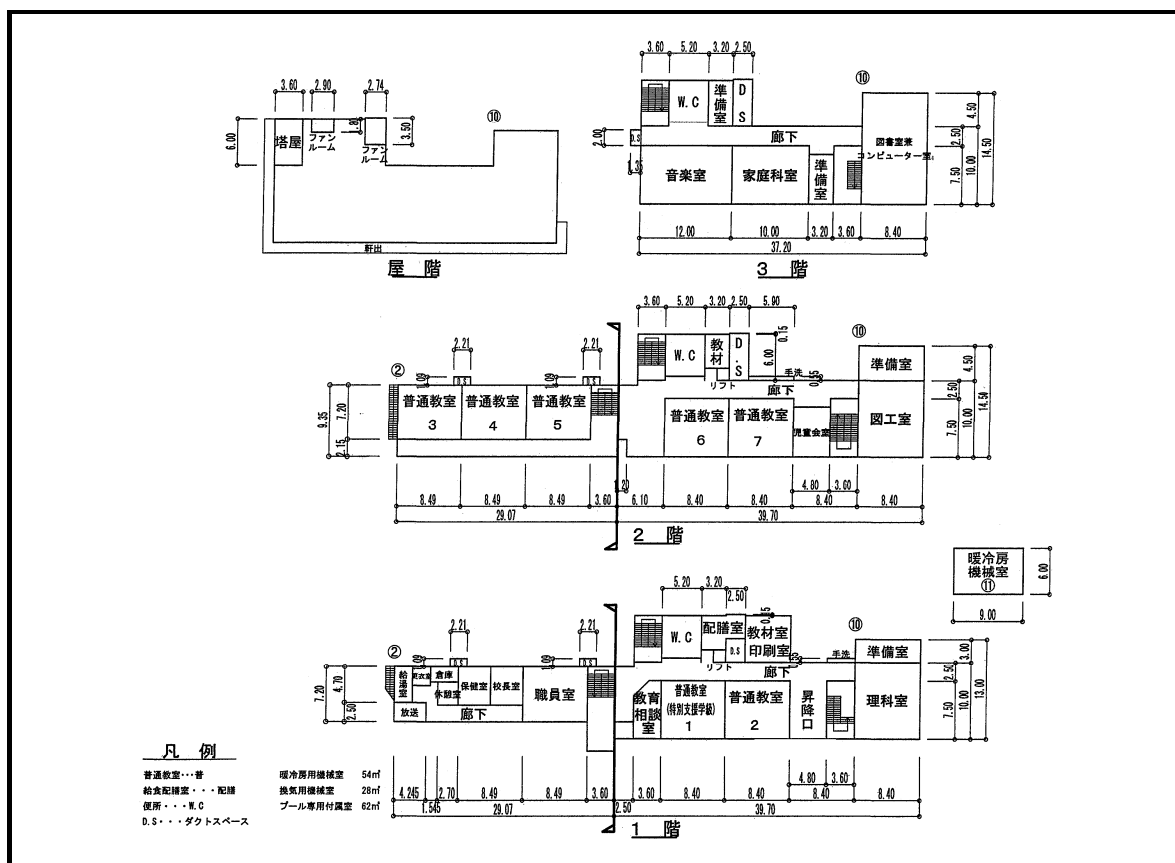


校庭

【校舎の状況】



配置図



平面図

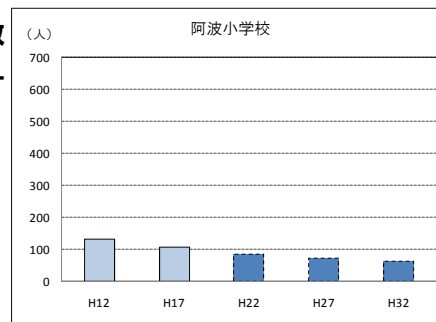
阿波小学校【概要】

■創立年 明治8年

■児童数 (平成21年度)

1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
14人	21人	16人	20人	15人	24人	110人
1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	6クラス

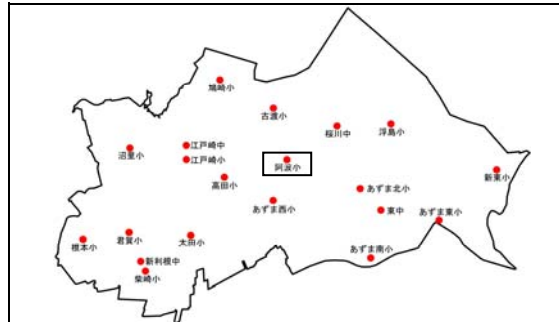
■児童数の推計



■耐震状況

	構造・規模等			建築年	耐震基準	耐震診断	耐震状況
	構造	面積	階数				
教室棟	RC	849㎡	2	S54	旧	H21	
管理教室棟	RC	1136㎡	2	S54	旧	H21	
屋内運動場	S	707㎡	2	S56	旧	H19 (優先度調査)	

■学校の位置



【現況写真】



校舎 S54年建築



校庭

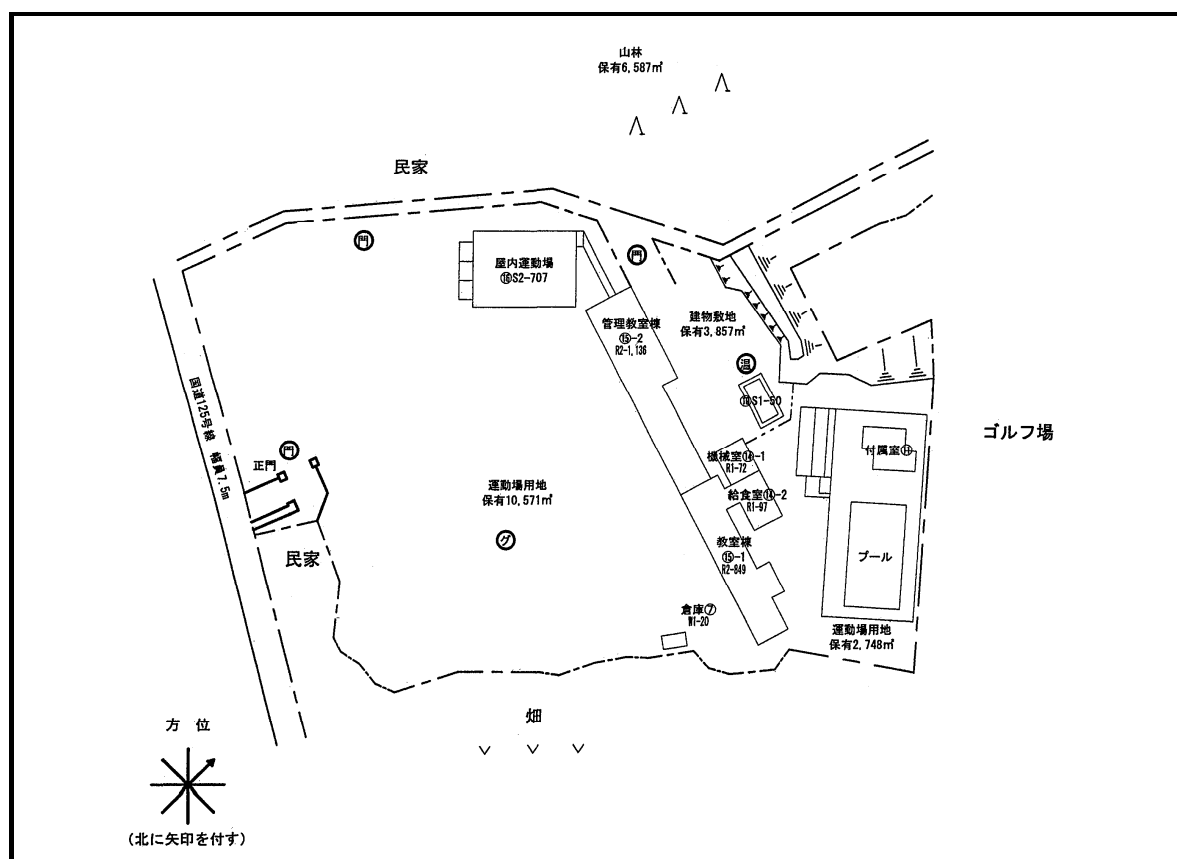


体育館

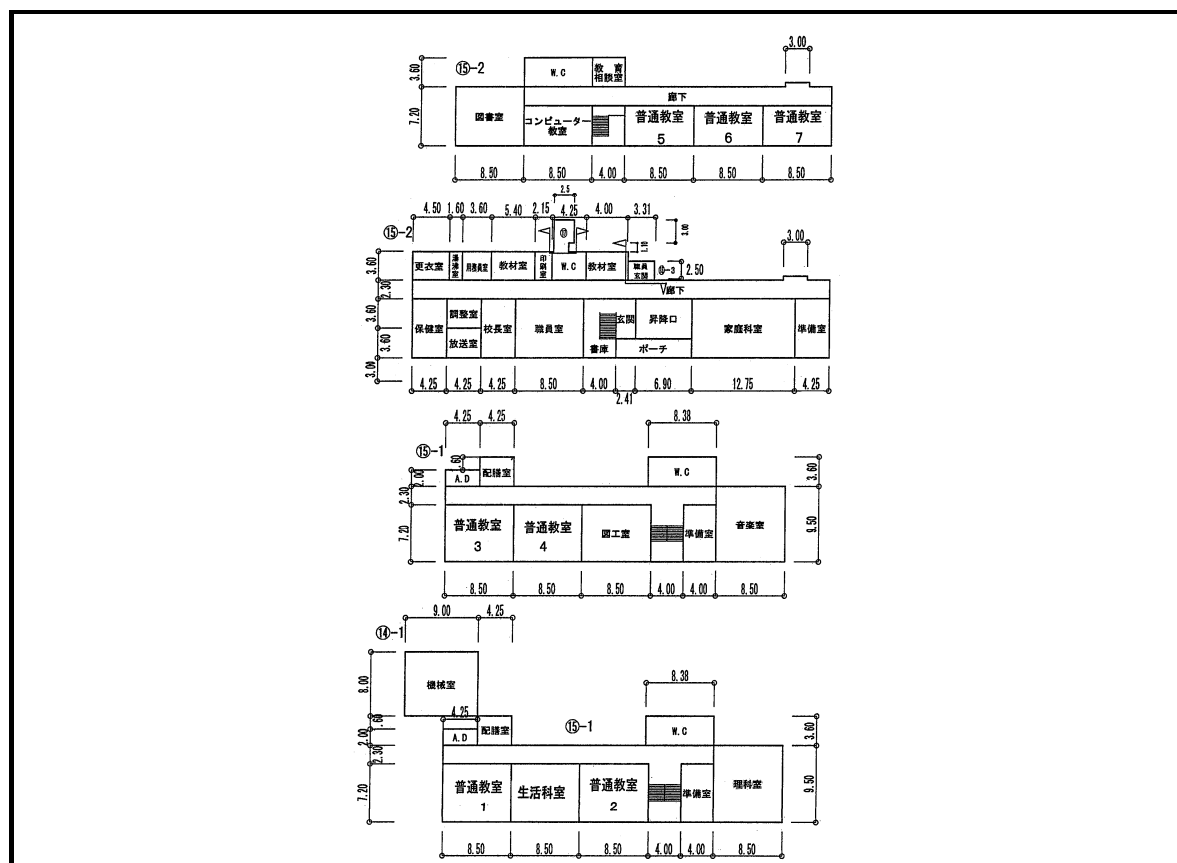


プール

【校舎の状況】



配置図



平面図

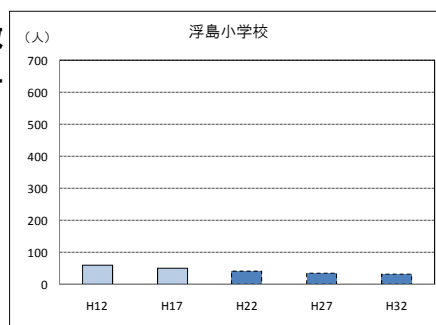
浮島小学校【概要】

■創立年 明治7年

■児童数 (平成21年度)

1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
15人	18人	8人	18人	10人	12人	81人
1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	6クラス

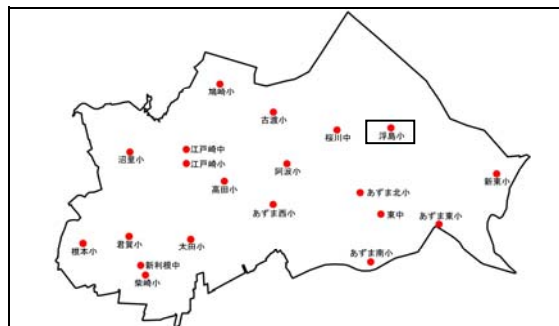
■児童数の推計



■耐震状況

	構造・規模等			建築年	耐震基準	耐震診断	耐震状況
	構造	面積	階数				
管理教室棟	RC	944㎡	2	S47	旧	H21	
管理教室棟	RC	841㎡	2	S48	旧	H21	
屋内運動場	S	706㎡	1	S54	旧	H19 (優先度調査)	

■学校の位置



【現況写真】



校舎 S47年建築



校舎

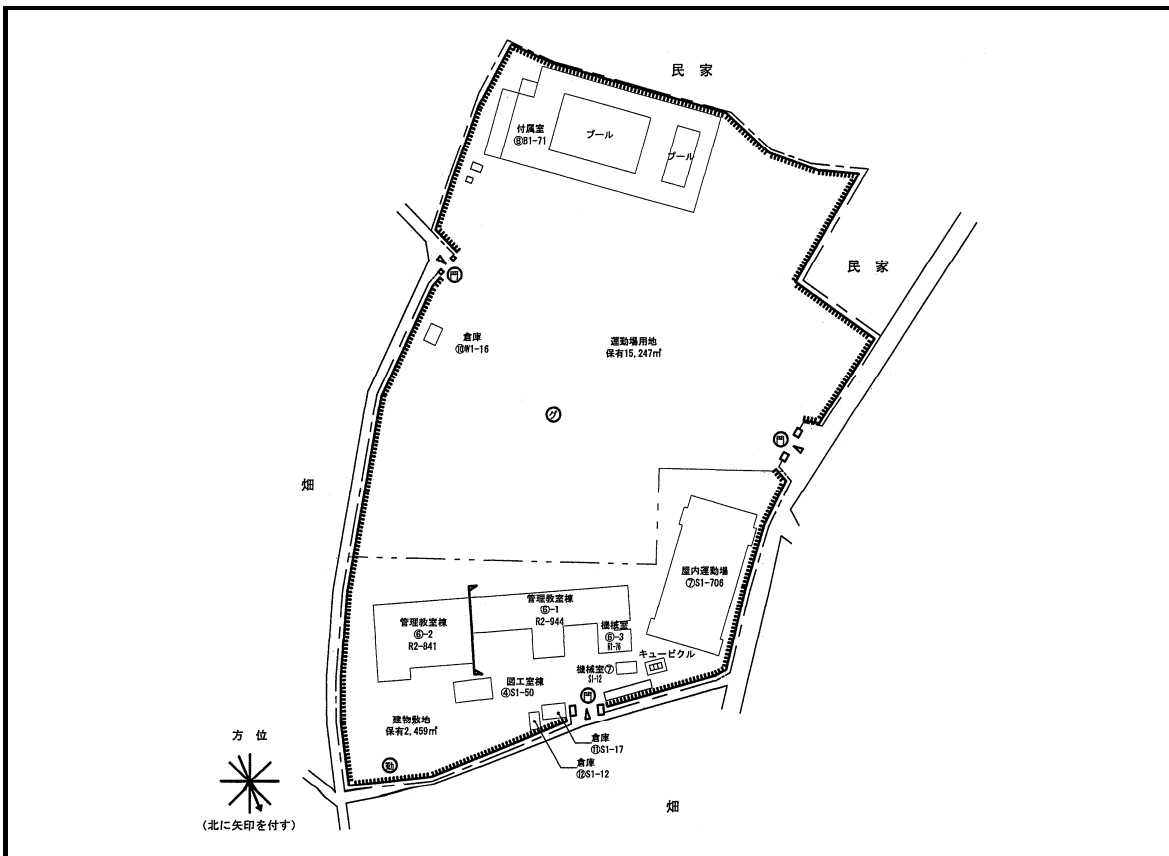


体育館

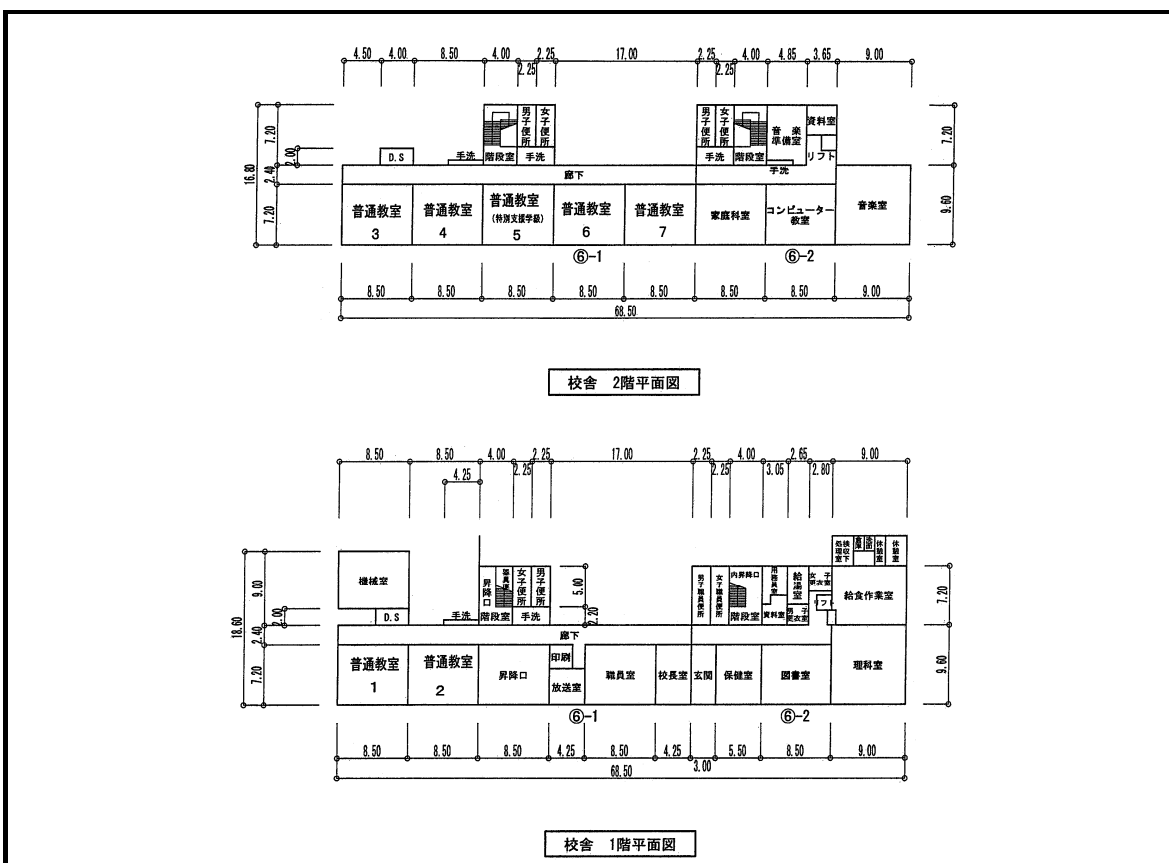


校庭

【校舎の状況】



配置図



平面図

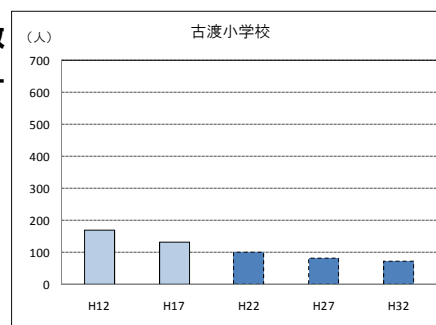
古渡小学校【概要】

■創立年 昭和 45 年

■児童数 (平成 21 年度)

1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
7人	14人	16人	21人	18人	16人	92人
1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	6クラス

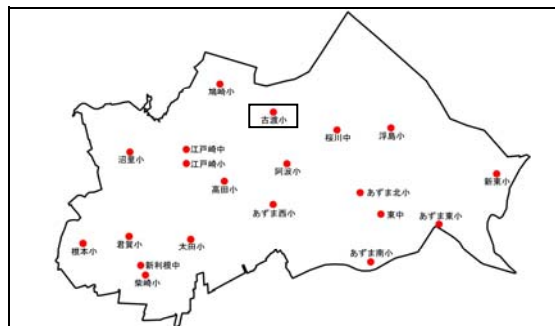
■児童数の推計



■耐震状況

	構造・規模等			建築年	耐震基準	耐震診断	耐震状況
	構造	面積	階数				
管理教室棟	RC	2042㎡	2	S46	旧	H21	
屋内運動場	S	951㎡	1	H09	新		

■学校の位置



【現況写真】



校舎 S46年建築



校庭

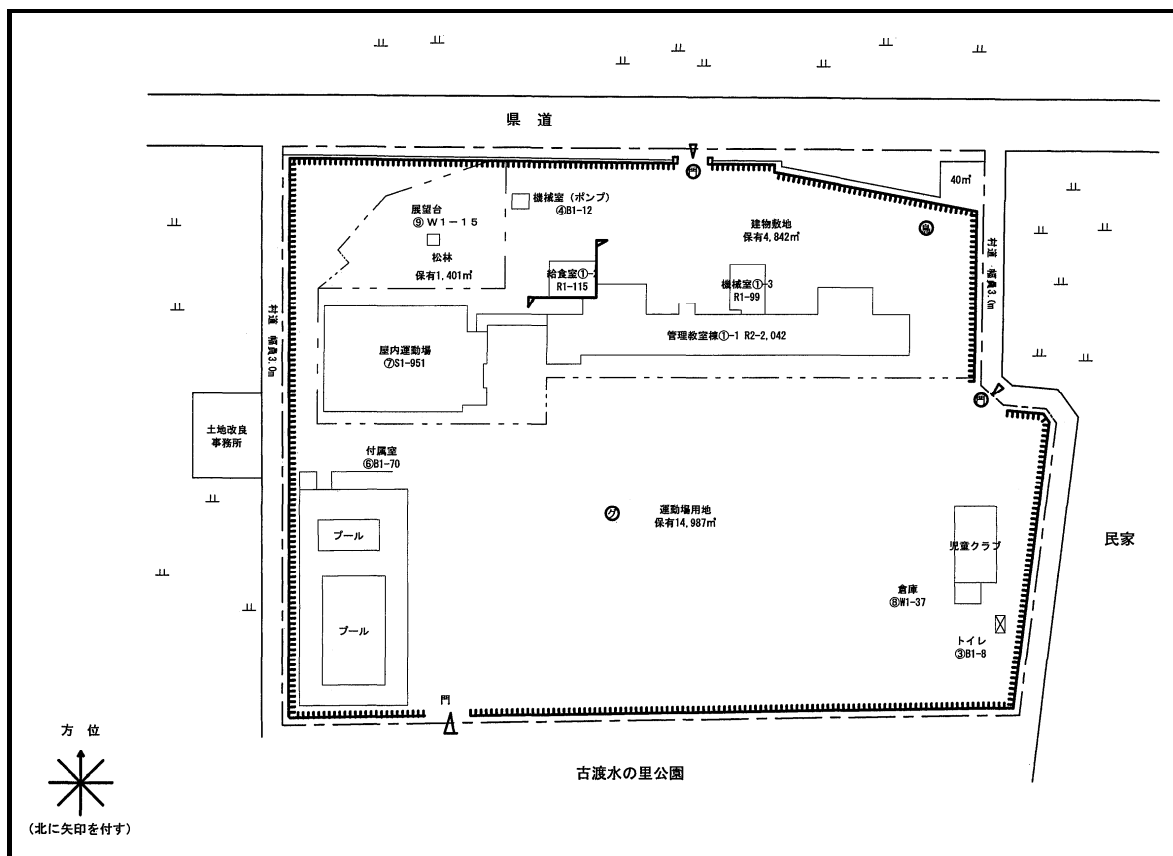


体育館

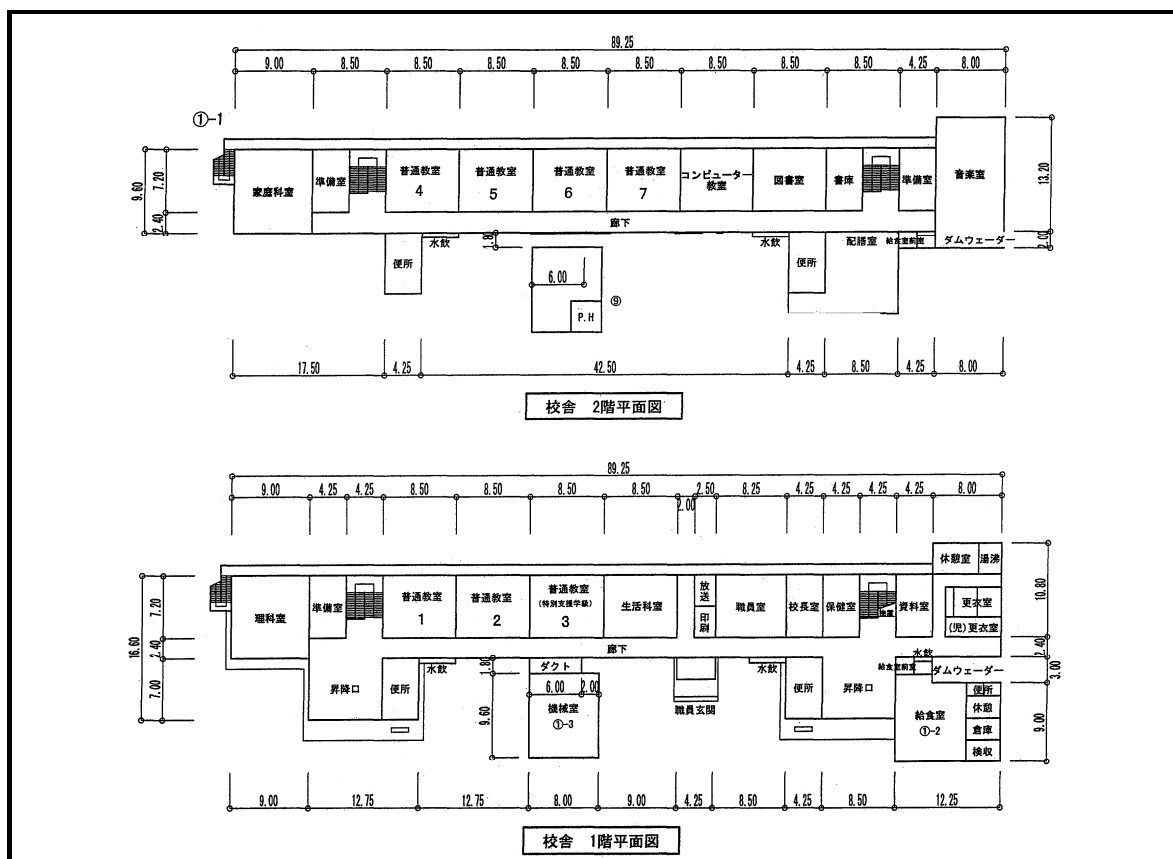


学童クラブ

【校舎の状況】



配置図



平面図

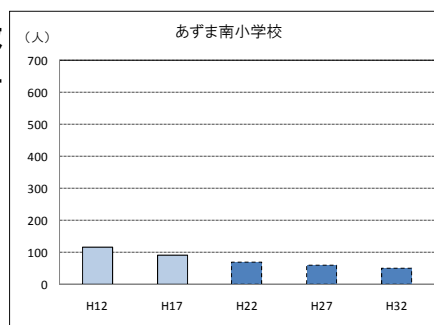
あずま南小学校【概要】

■創立年 明治8年

■児童数 (平成21年度)

1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
10人	13人	10人	11人	16人	11人	71人
1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	6クラス

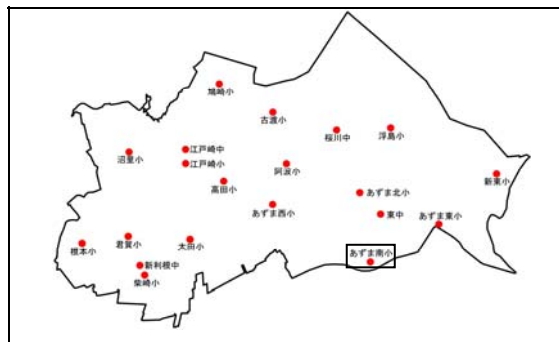
■児童数の推計



■耐震状況

	構造・規模等			建築年	耐震基準	耐震診断	耐震状況
	構造	面積	階数				
管理教室棟	RC	951㎡	2	S45	旧	H08	改修の必要なし
特別教室棟	RC	1457㎡	3	S56	旧	H13	改修の必要なし
屋内運動場	S	720㎡	1	S57	新		

■学校の位置



【現況写真】



校舎 S45年建築(未改修)



校庭

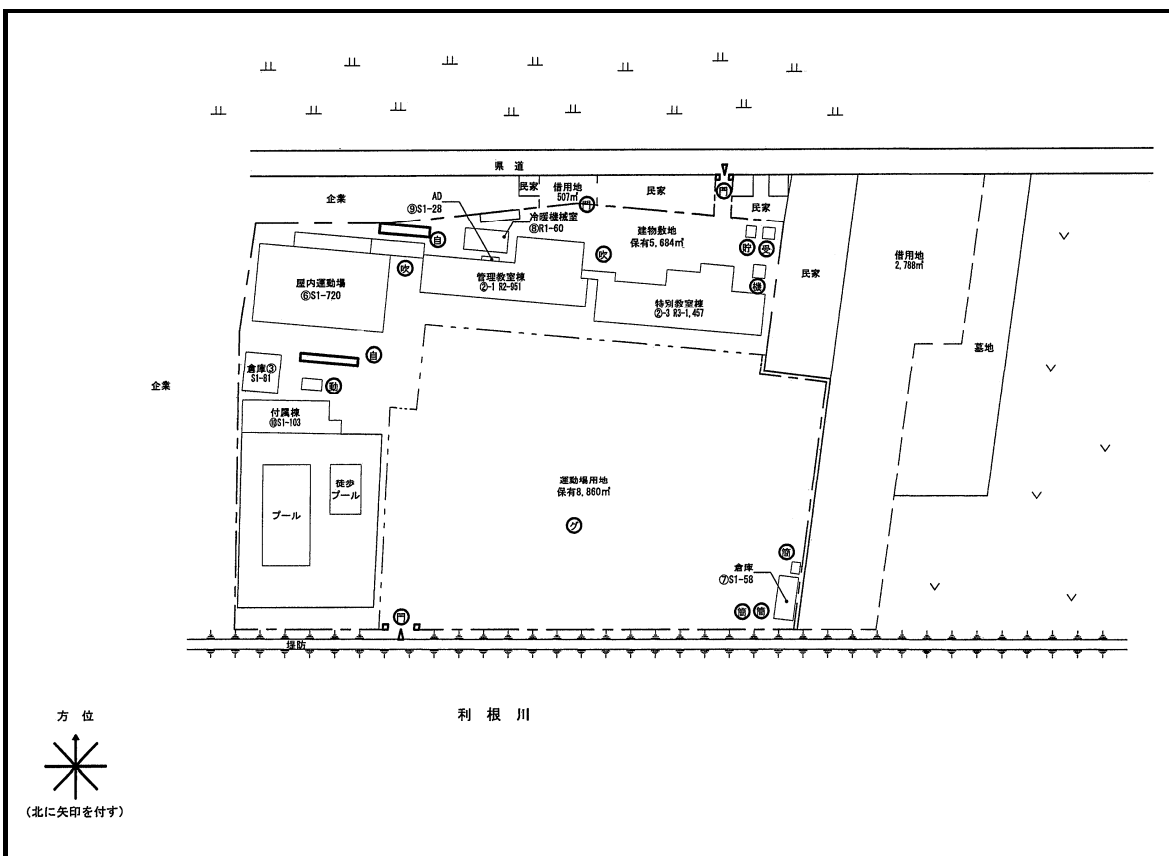


体育館

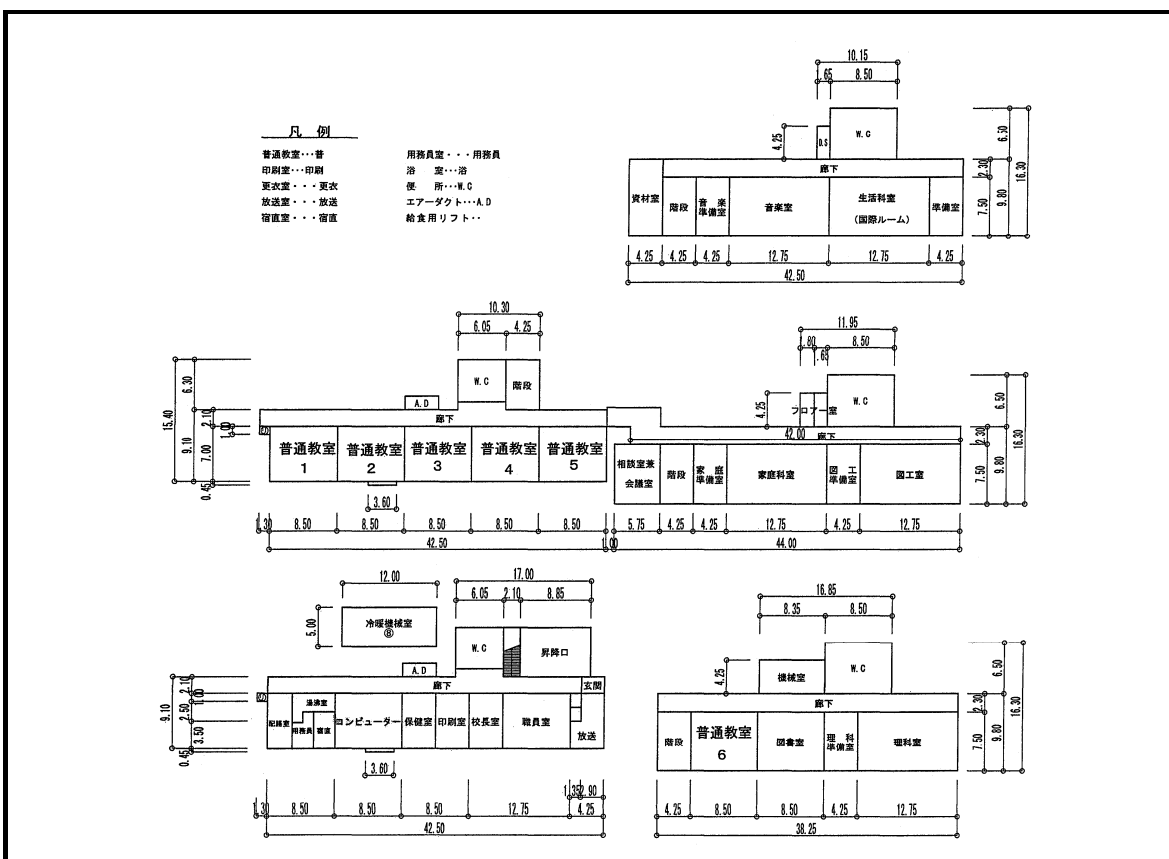


プール

【校舎の状況】



配置図



平面図

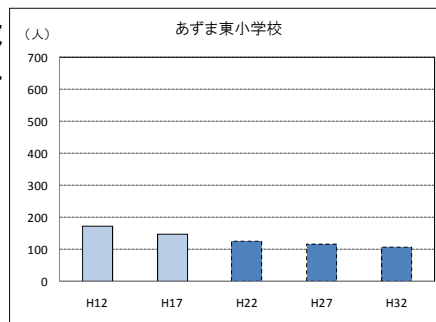
あずま東小学校【概要】

■創立年 昭和 36 年
(旧 本新島小学校)

■児童数 (平成 21 年度)

1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
33人	30人	26人	17人	24人	33人	163人
1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	6クラス

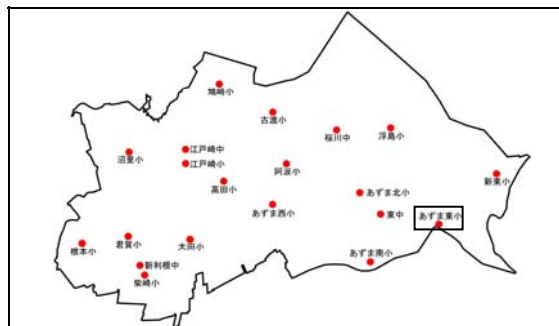
■児童数の推計



■耐震状況

	構造・規模等			建築年	耐震基準	耐震診断	耐震状況
	構造	面積	階数				
管理・教室棟	RC	3168㎡	3	S55	旧	H12	改修済
屋内運動場	S	738㎡	1	S55	旧	H19	

■学校の位置



【現況写真】



校舎 S55 年建築(改修済)



校庭

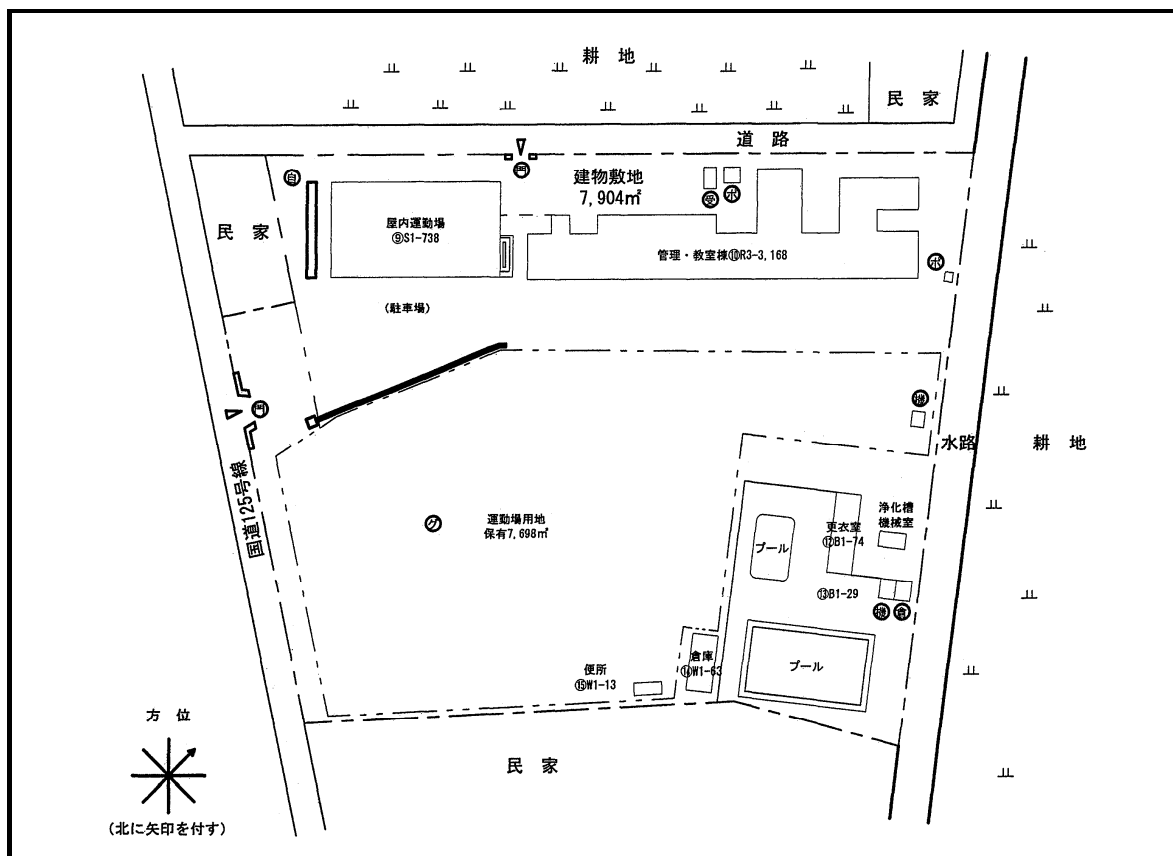


体育館

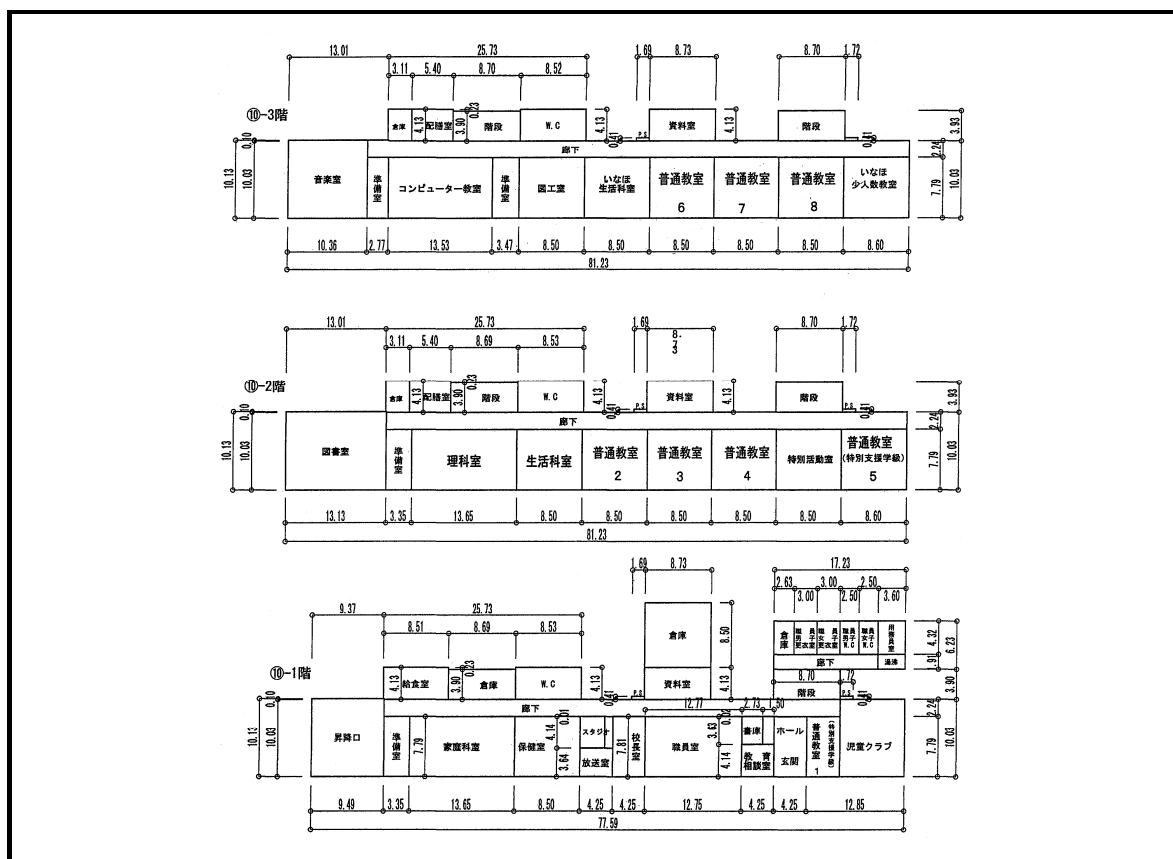


校庭

【校舎の状況】



配置図



平面図

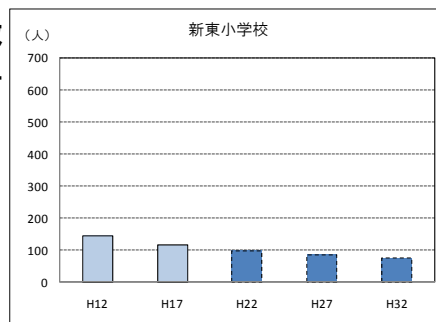
新東小学校【概要】

■創立年 昭和 28 年

■児童数 (平成 21 年度)

1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
5人	6人	7人	6人	8人	11人	43人
1クラス	1クラス		1クラス		1クラス	4クラス

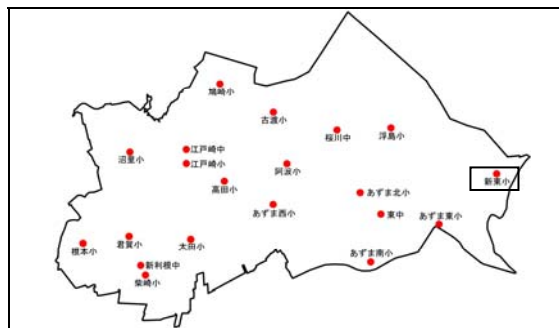
■児童数の推計



■耐震状況

	構造・規模等			建築年	耐震基準	耐震診断	耐震状況
	構造	面積	階数				
管理 教室棟	RC	2324㎡	3	S58	新		
屋内 運動場	S	626㎡	1	S56	旧	H19	

■学校の位置



【現況写真】



校舎 S58年建築



校庭

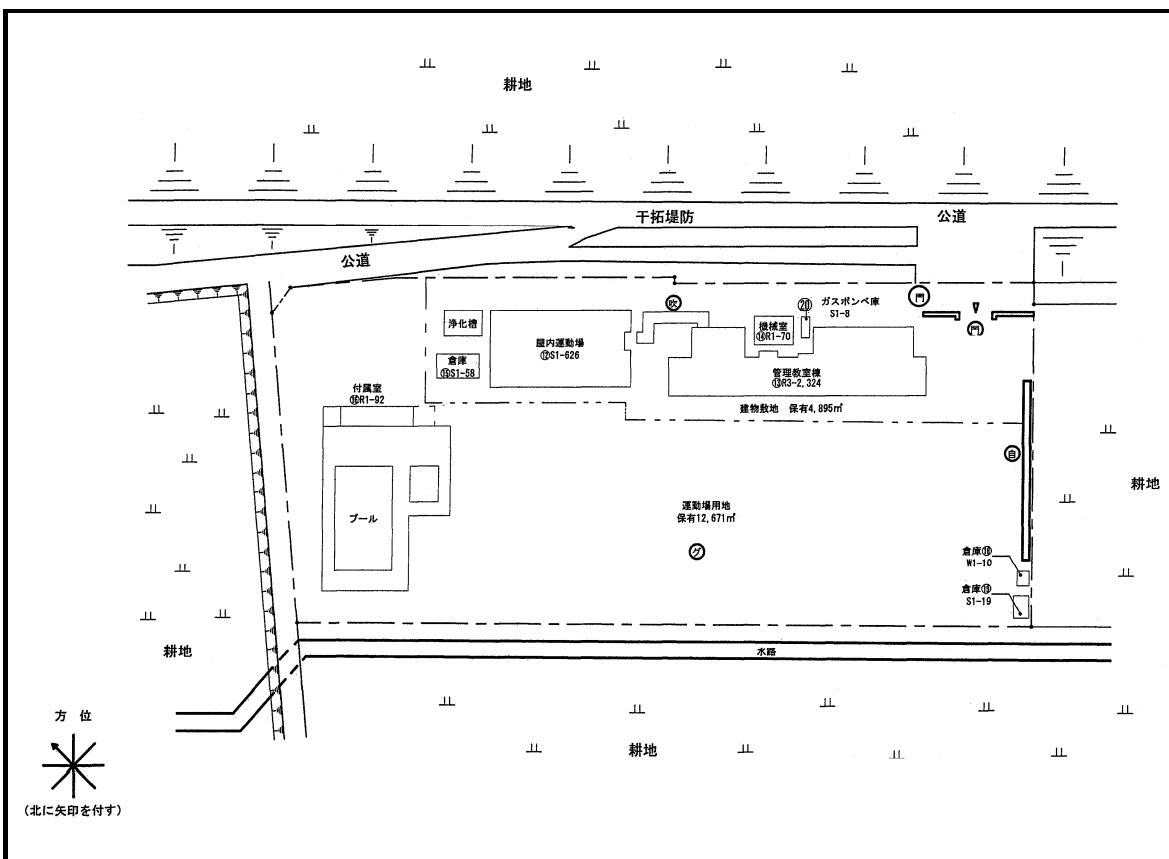


体育館

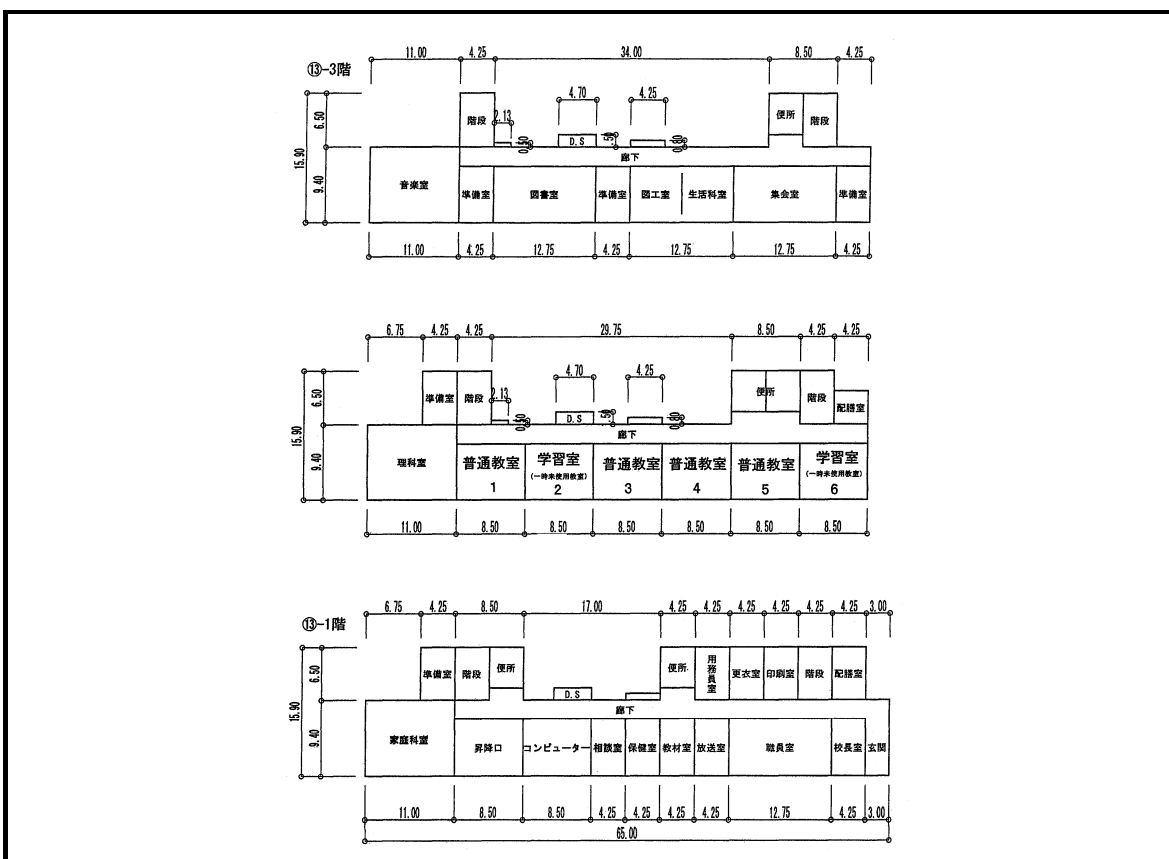


校庭

【校舎の状況】



配置図



平面図

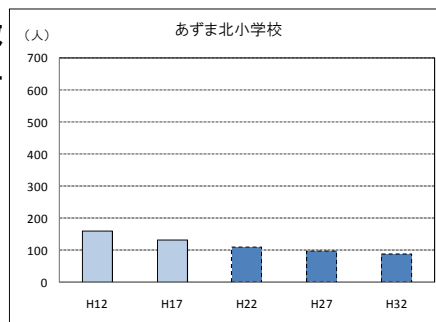
あずま北小学校【概要】

■創立年 明治6年

■児童数 (平成21年度)

1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
16人	22人	18人	26人	24人	21人	127人
1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	6クラス

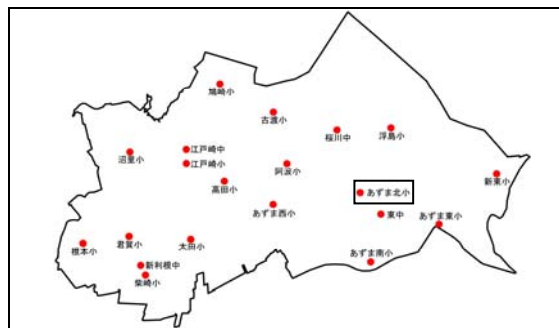
■児童数の推計



■耐震状況

	構造・規模等			建築年	耐震基準	耐震診断	耐震状況
	構造	面積	階数				
管理教室棟	RC	1435㎡	3	S54	旧	H09	改修済
管理教室棟	RC	1158㎡	3	S55	旧	H09	改修済
屋内運動場	S	715㎡	2	S54	旧	H19 (優先度調査)	

■学校の位置



【現況写真】



校舎 S54年建築(改修済)



校庭

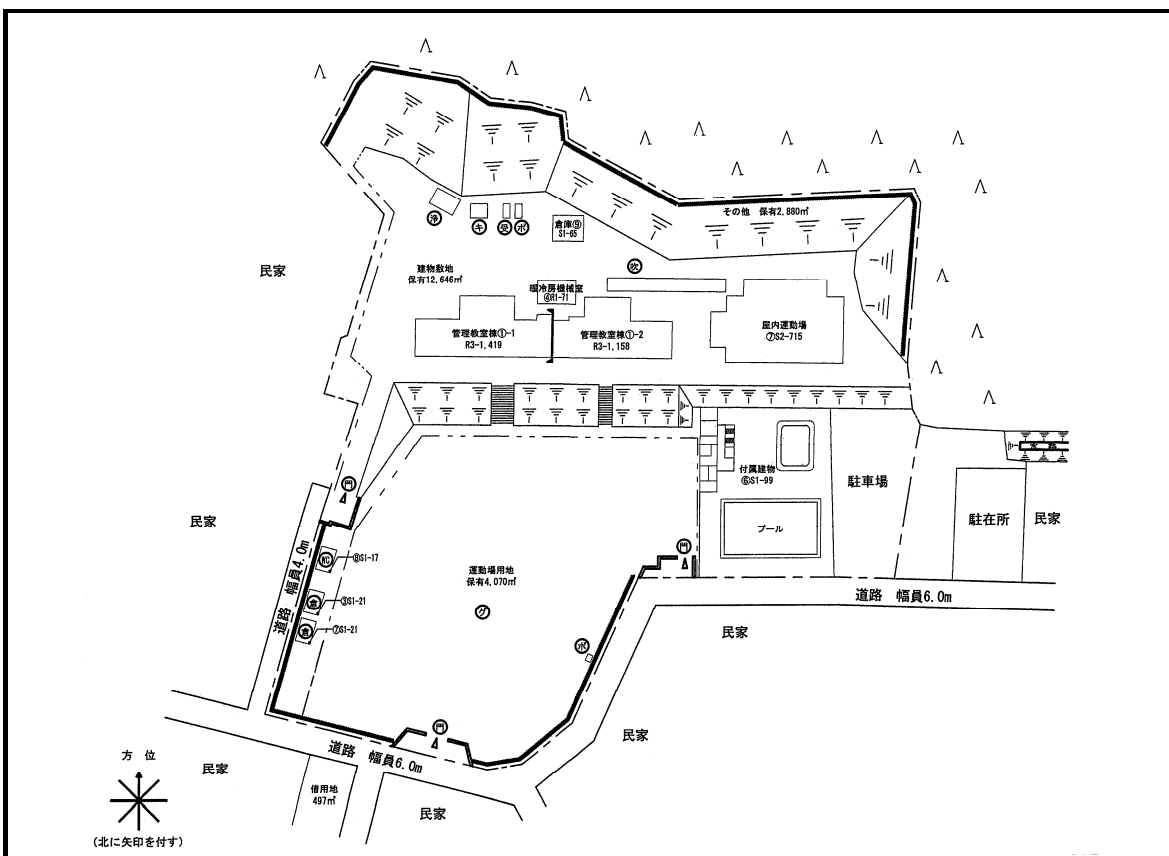


体育館

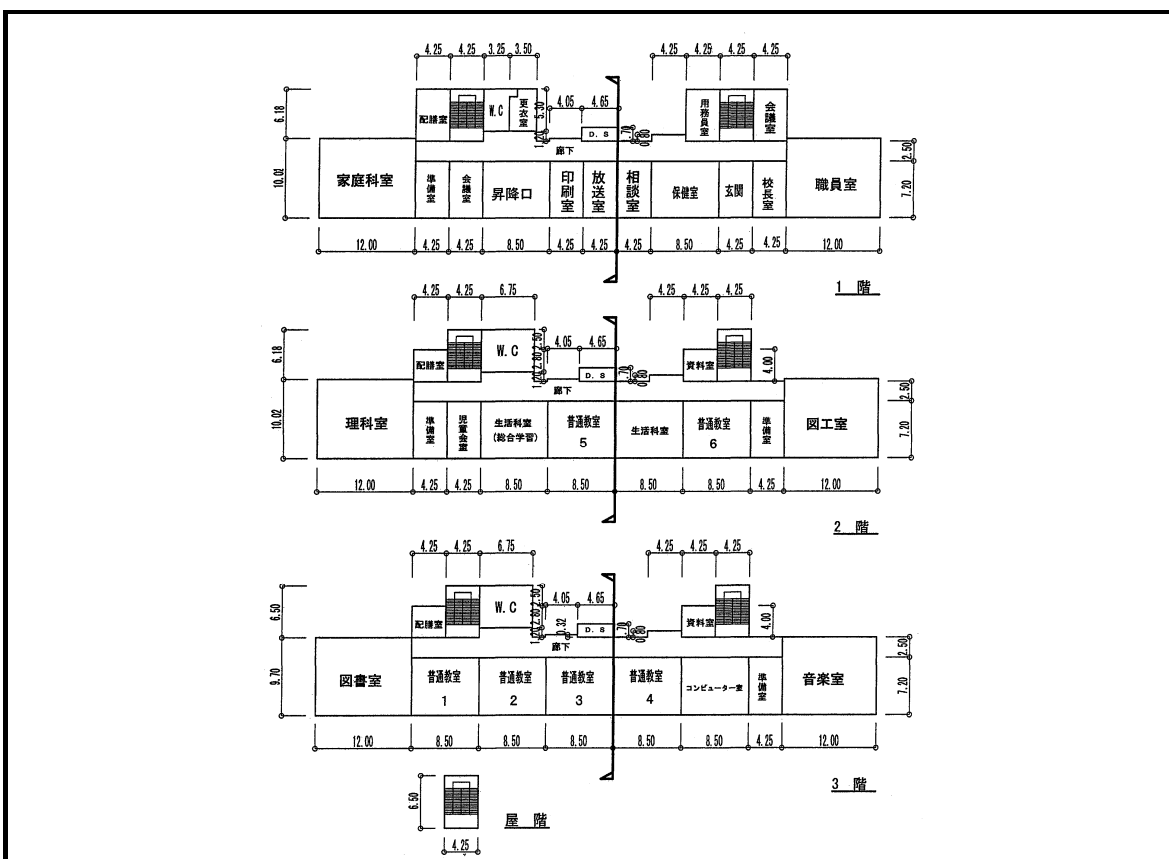


校庭

【校舎の状況】



配置図



平面図

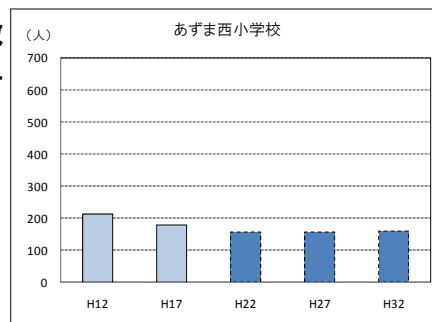
あずま西小学校【概要】

■創立年 明治 23 年

■児童数 (平成 21 年度)

1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
22人	23人	31人	27人	24人	26人	153人
1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	1クラス	6クラス

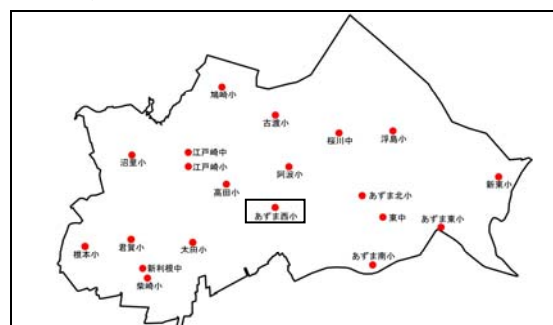
■児童数の推計



■耐震状況

	構造・規模等			建築年	耐震基準	耐震診断	耐震状況
	構造	面積	階数				
管理 教室棟	RC	3025㎡	3	S55	旧	H12	改修の 必要なし
屋内 運動場	S	738㎡	1	S55	旧	H19	

■学校の位置



【現況写真】



校舎 S55 年建築(未改修)



校庭

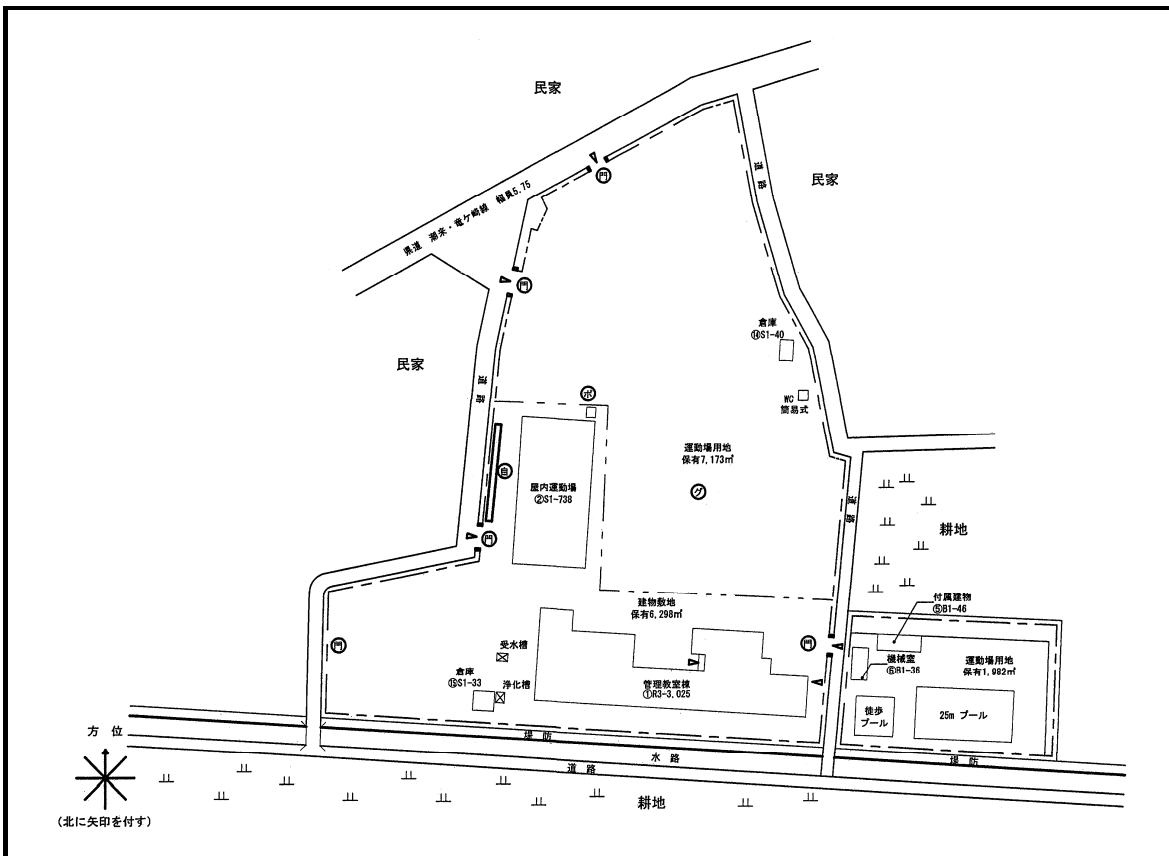


体育館

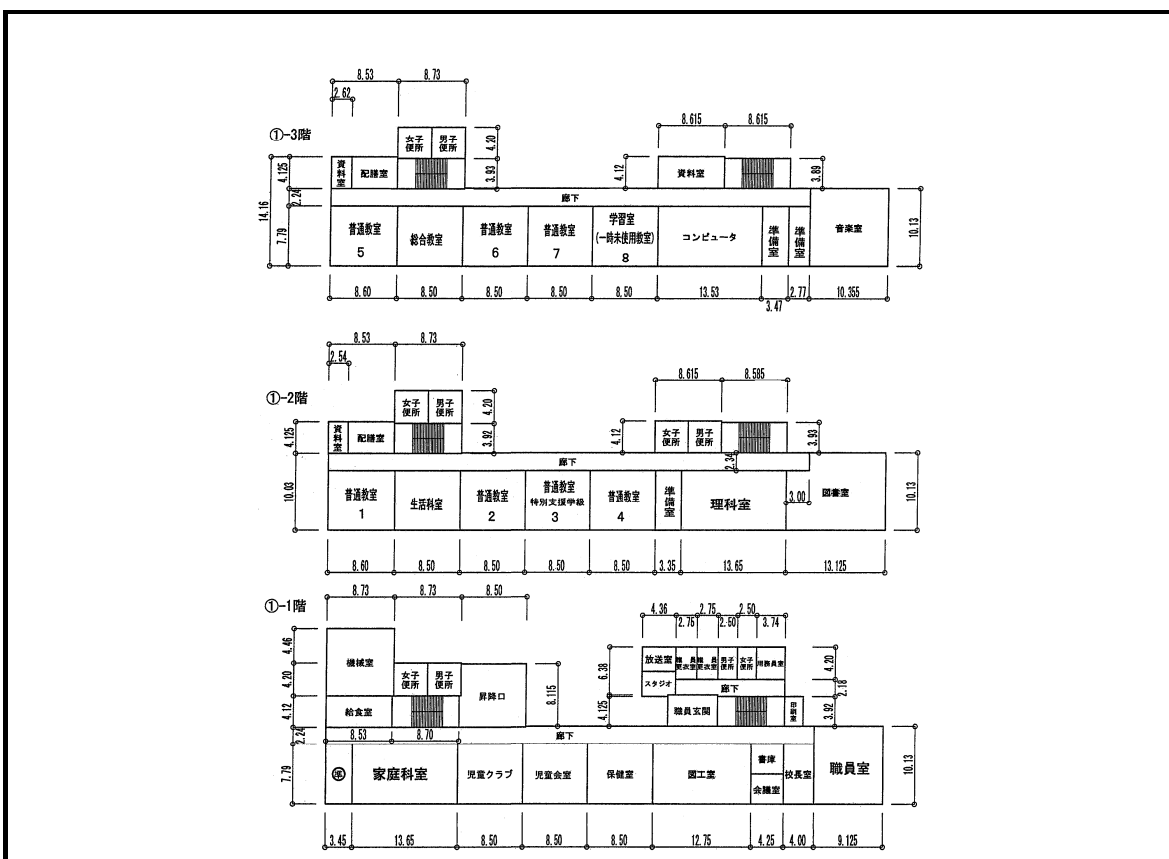


プール

【校舎の状況】



配置図



平面図

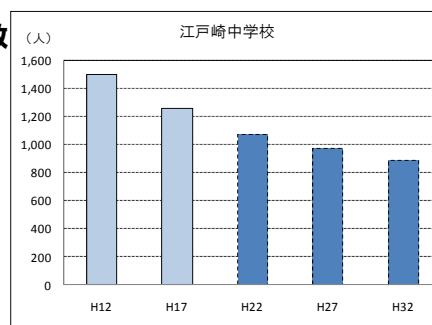
江戸崎中学校【概要】

■創立年 昭和22年

■児童数 (平成21年度)

1年	2年	3年	計
177人	180人	204人	561人
5クラス	5クラス	6クラス	16クラス

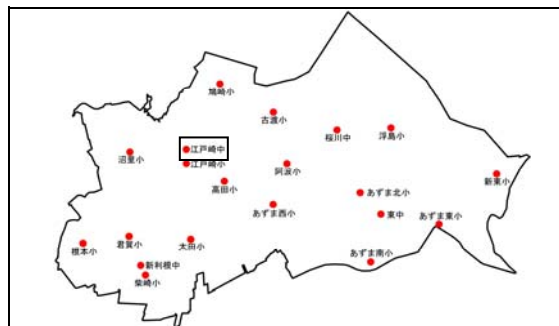
■児童数の推計



■耐震状況

	構造・規模等			建築年	耐震基準	耐震診断	耐震状況
	構造	面積	階数				
教室棟	RC	5693㎡	4	H10	新		
管理棟	RC	2594㎡	3	H01	新		
教室棟	RC	27㎡	1	H10	新		
屋内運動場	RC	1747㎡	2	H12	新		
柔剣道場	S	612㎡	1	H03			

■学校の位置



【現況写真】



校舎 H10年建築



校舎

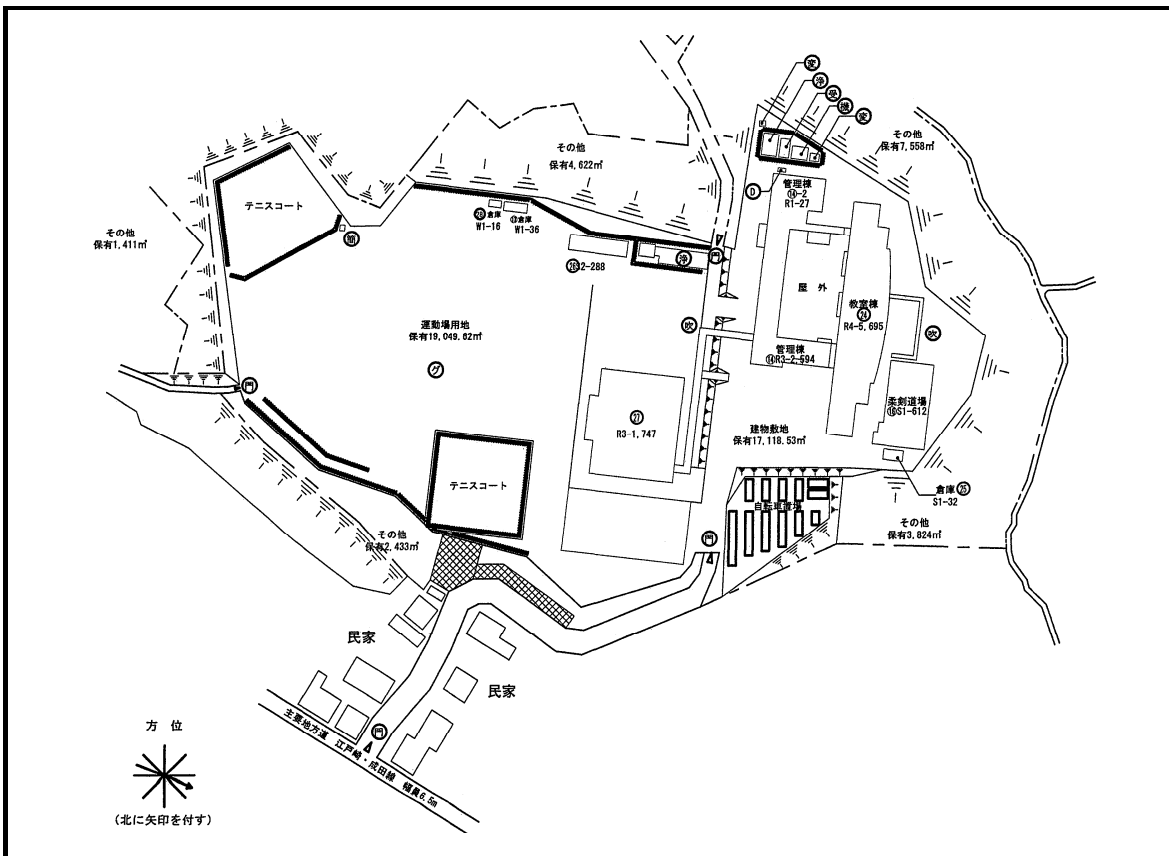


体育館

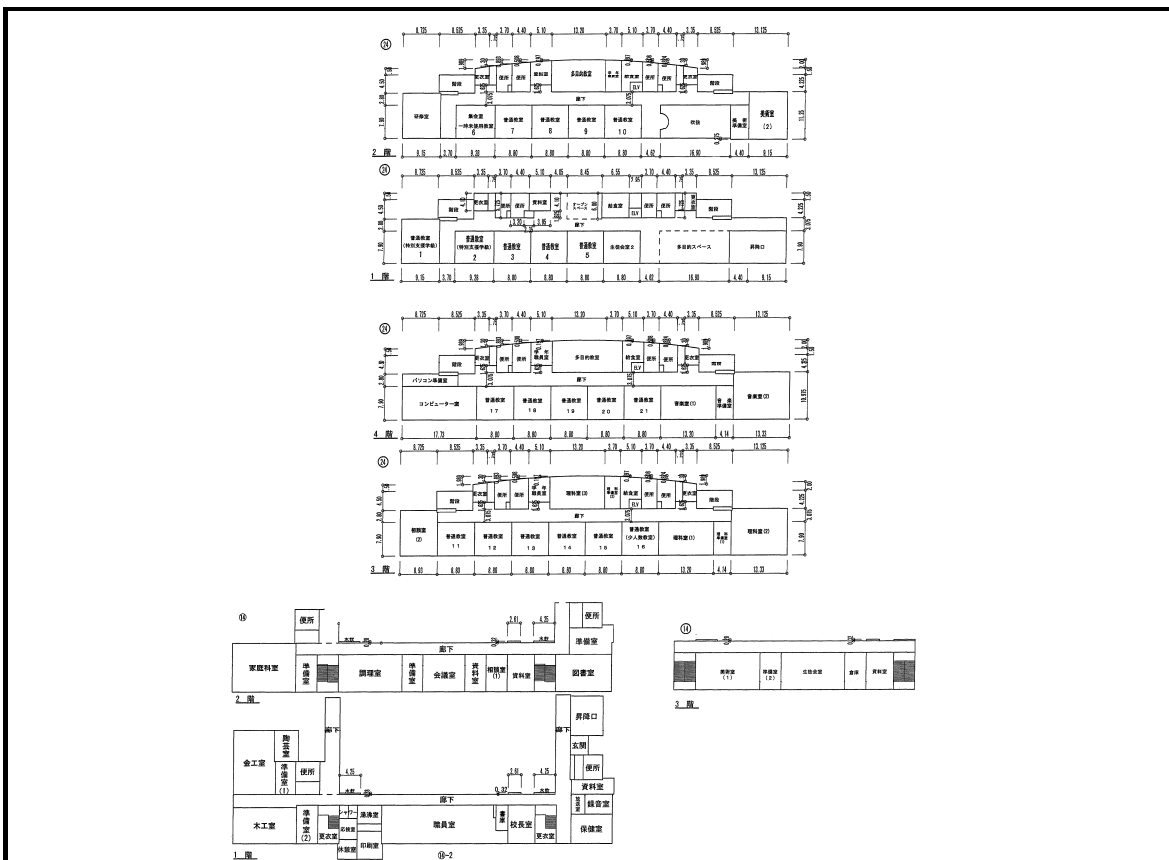


武道館

【校舎の状況】



配置図



平面図

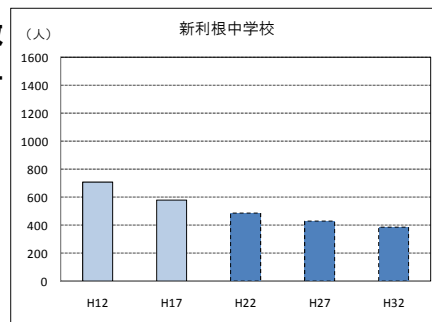
新利根中学校【概要】

■創立年 昭和35年

■児童数 (平成 21 年度)

1年	2年	3年	計
85人	94人	98人	277人
3クラス	3クラス	3クラス	9クラス

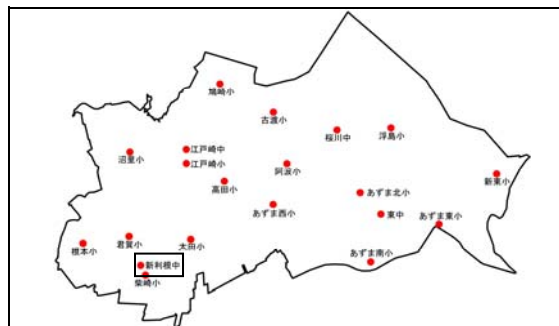
■児童数の推計



■耐震状況

	構造・規模等			建築年	耐震基準	耐震診断	耐震状況
	構造	面積	階数				
管理・普通・特別教室棟	RC	2564㎡	3	S51	旧	H17	未改修
特別教室棟	RC	387㎡	2	S51	旧	H17	未改修
普通・特別教室棟	RC	653㎡	3	H03	新		
屋内運動場	RC	1271㎡	2	S54	旧	H19	
格技場	RC	584㎡	1	H03		(優先度調査)	

■学校の位置



【現況写真】



校舎 S51年建築(未改修)



校庭

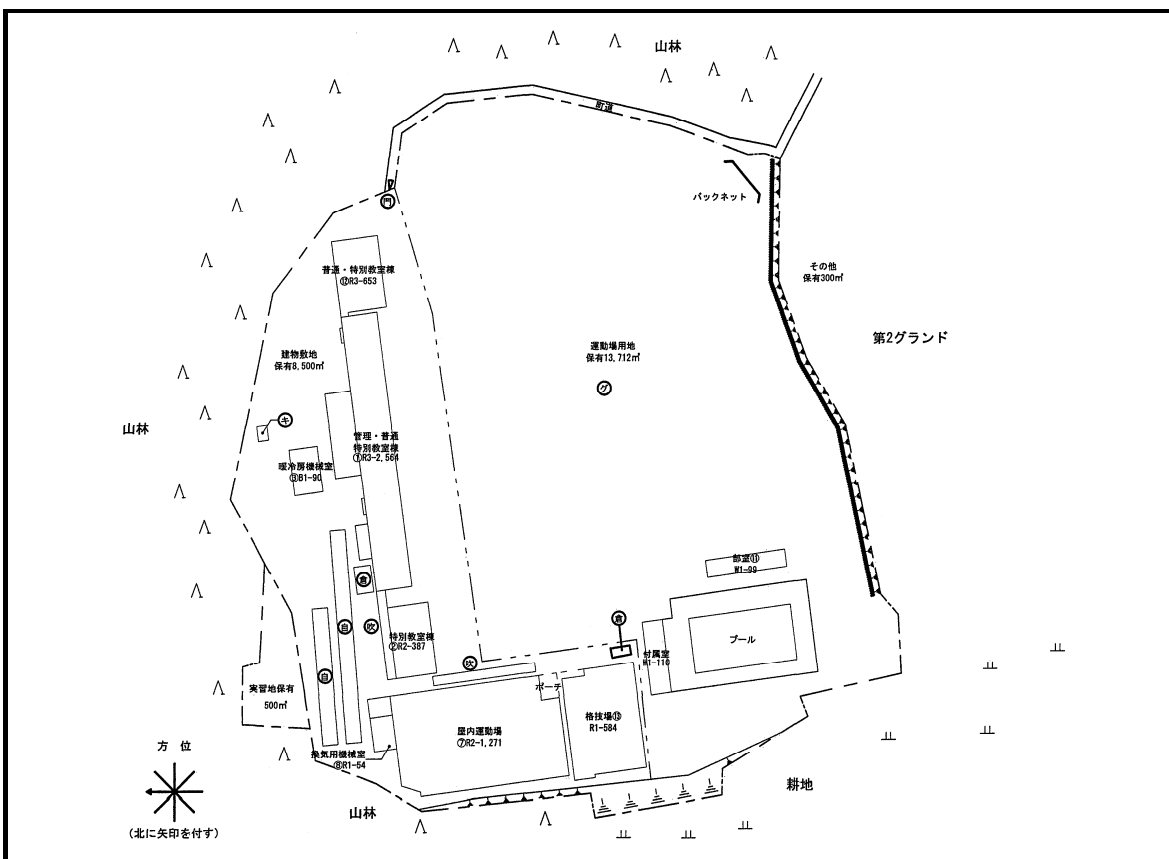


体育館

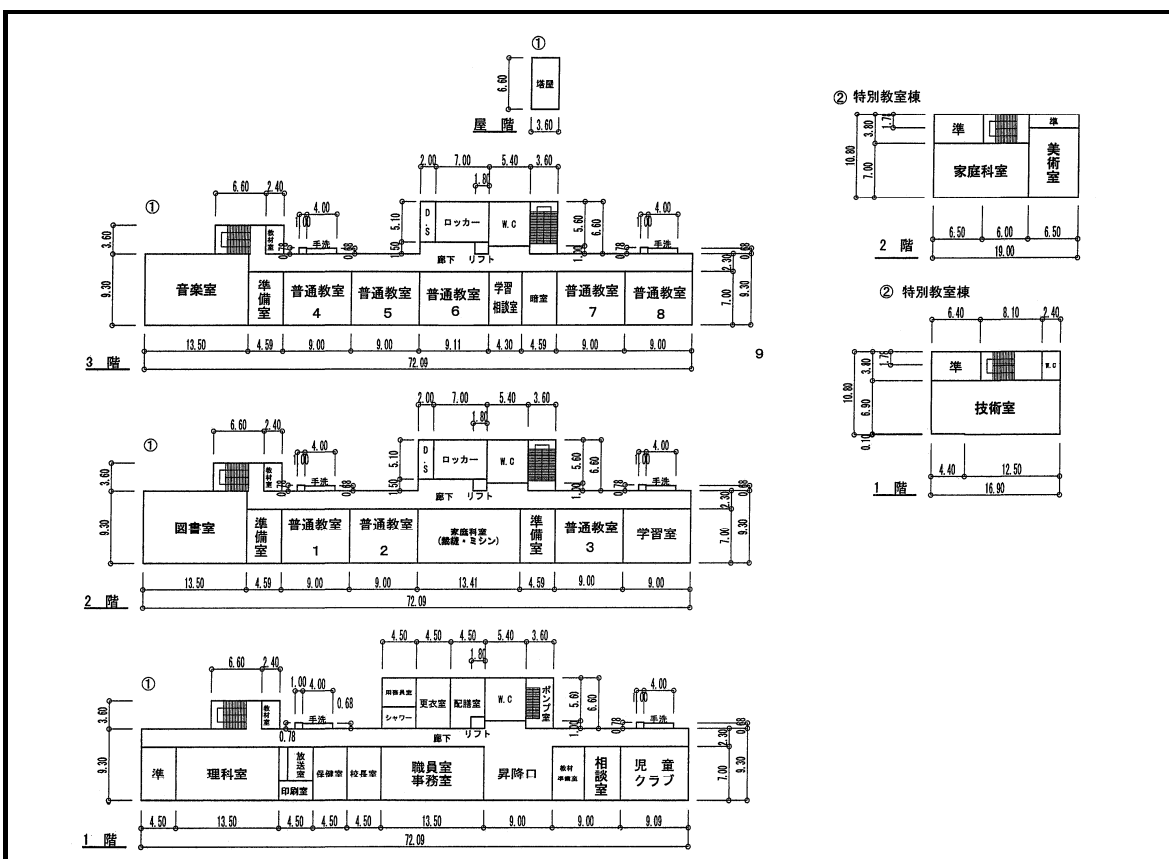


プール

【校舎の状況】



配置図



平面図

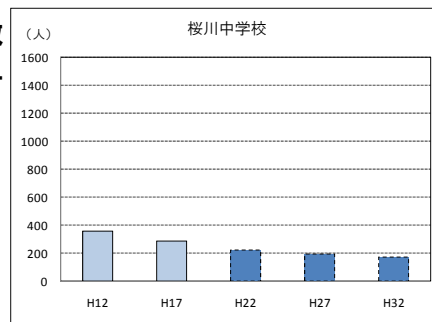
桜川中学校【概要】

■創立年 昭和40年

■児童数 (平成 21 年度)

1年	2年	3年	計
56人	49人	66人	171人
2クラス	2クラス	2クラス	6クラス

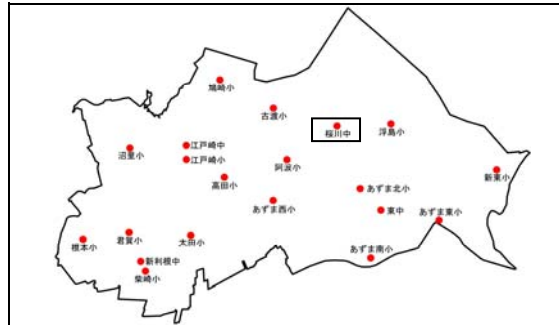
■児童数の推計



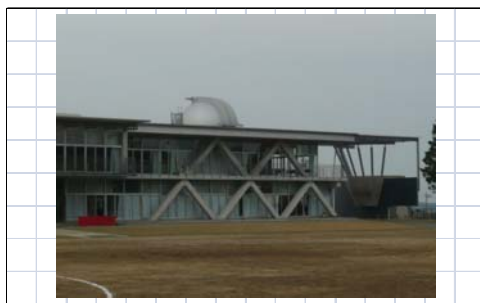
■耐震状況

	構造・規模等			建築年	耐震基準	耐震診断	耐震状況
	構造	面積	階数				
教室棟	RC	2507㎡	3	H18	新		
教室棟	S	1741㎡	3	H18	新		
屋内運動場	RC	1118㎡	2	S43	旧	H19	
柔剣道場	S	441㎡	1	S58		(優先度調査)	

■学校の位置



【現況写真】



校舎 H18年建築



校庭

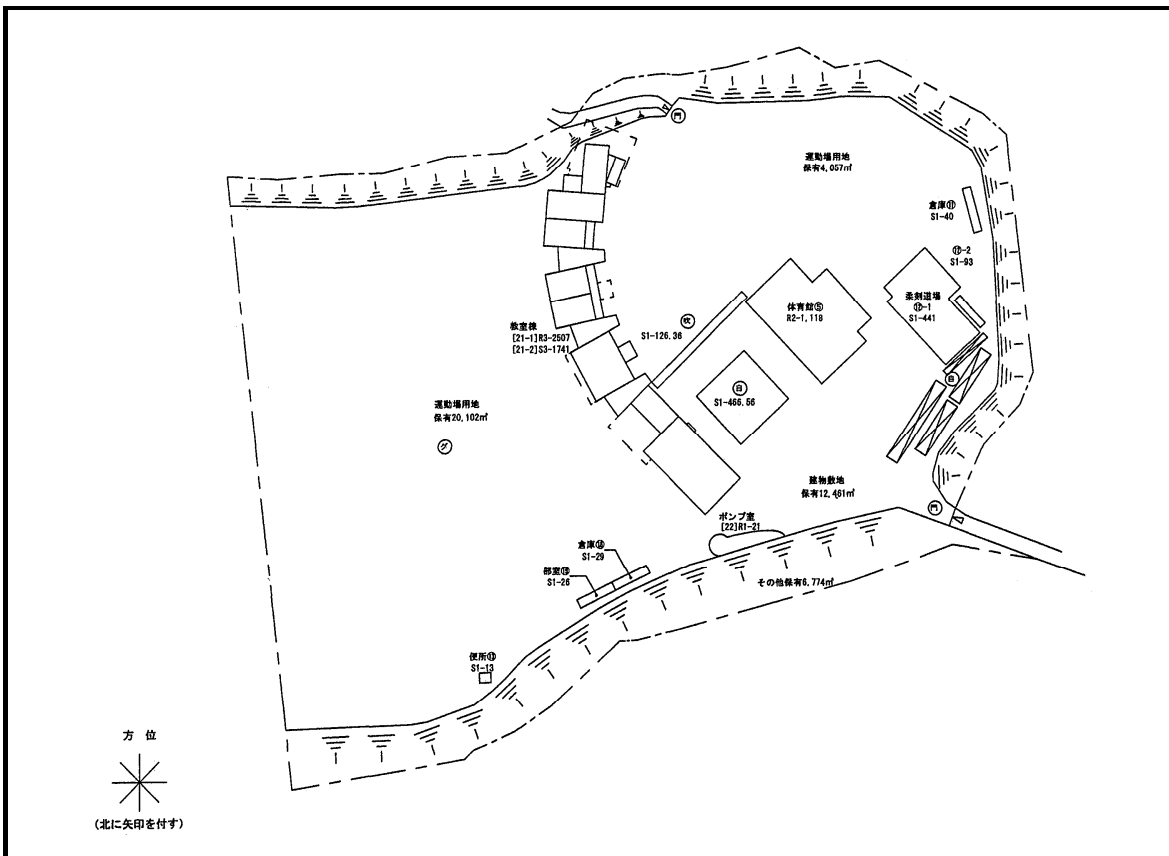


体育館

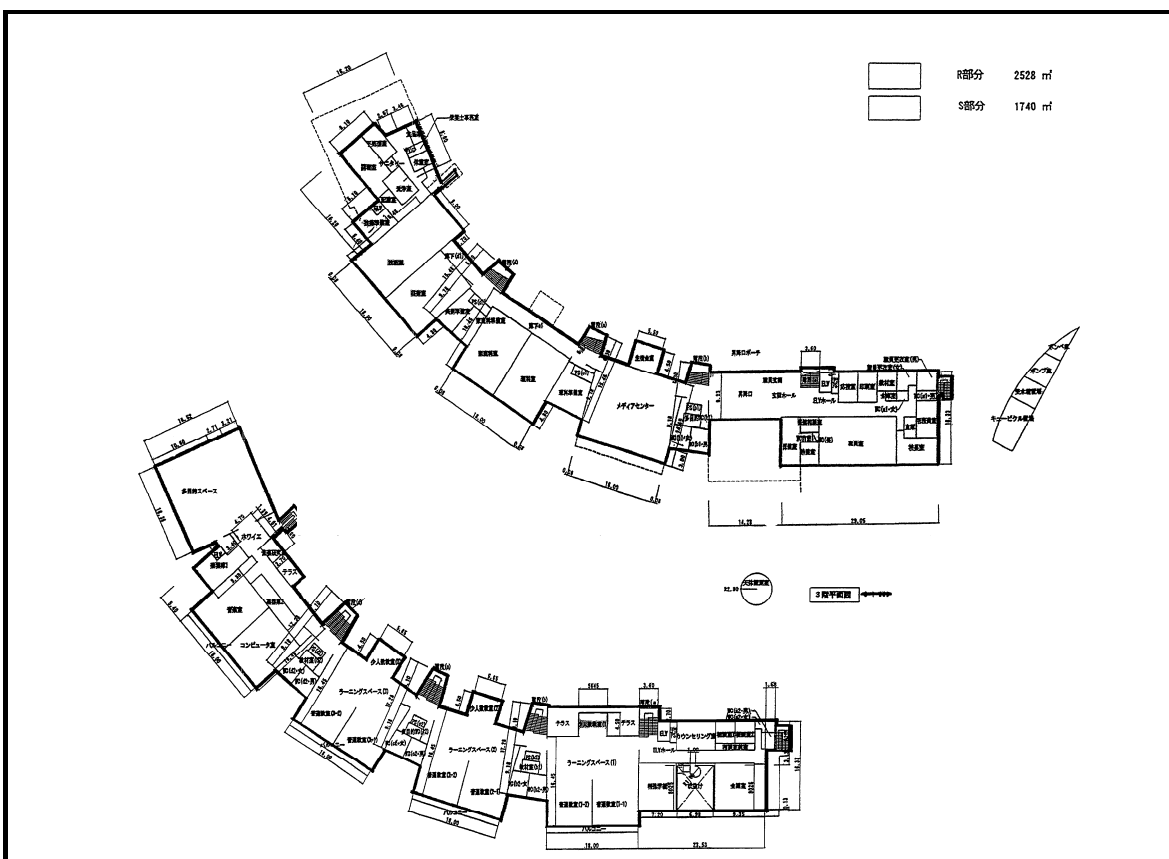


校庭

【校舎の状況】



配置図



平面図

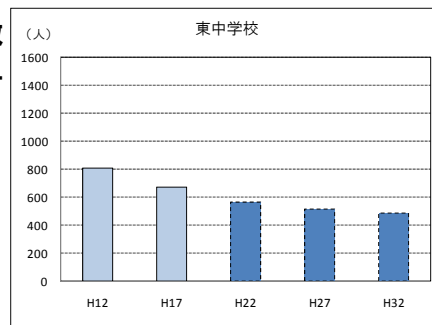
東中学校【概要】

■創立年 昭和61年

■児童数 (平成 21 年度)

1年	2年	3年	計
103人	87人	121人	311人
3クラス	3クラス	4クラス	10クラス

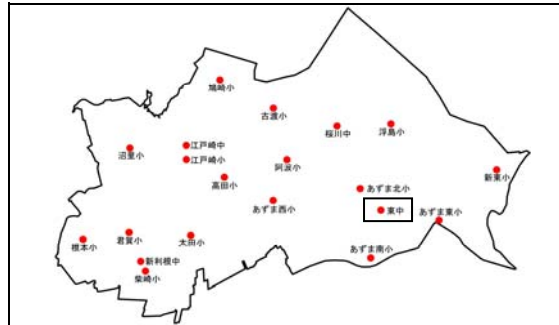
■児童数の推計



■耐震状況

	構造・規模等			建築年	耐震基準	耐震診断	耐震状況
	構造	面積	階数				
管理・教室棟	RC	4264㎡	3	S61	新		
特別教室棟	RC	1748㎡	3	S61	新		
金工・木工棟	RC	292㎡	1	S61	新		
屋内運動場	S	1576㎡	1	S61	新		
第二屋内運動場	S	704㎡	1	H03	新		
柔剣道場	RC	625㎡	1	S62			

■学校の位置



【現況写真】



校舎 S61年建築



校庭

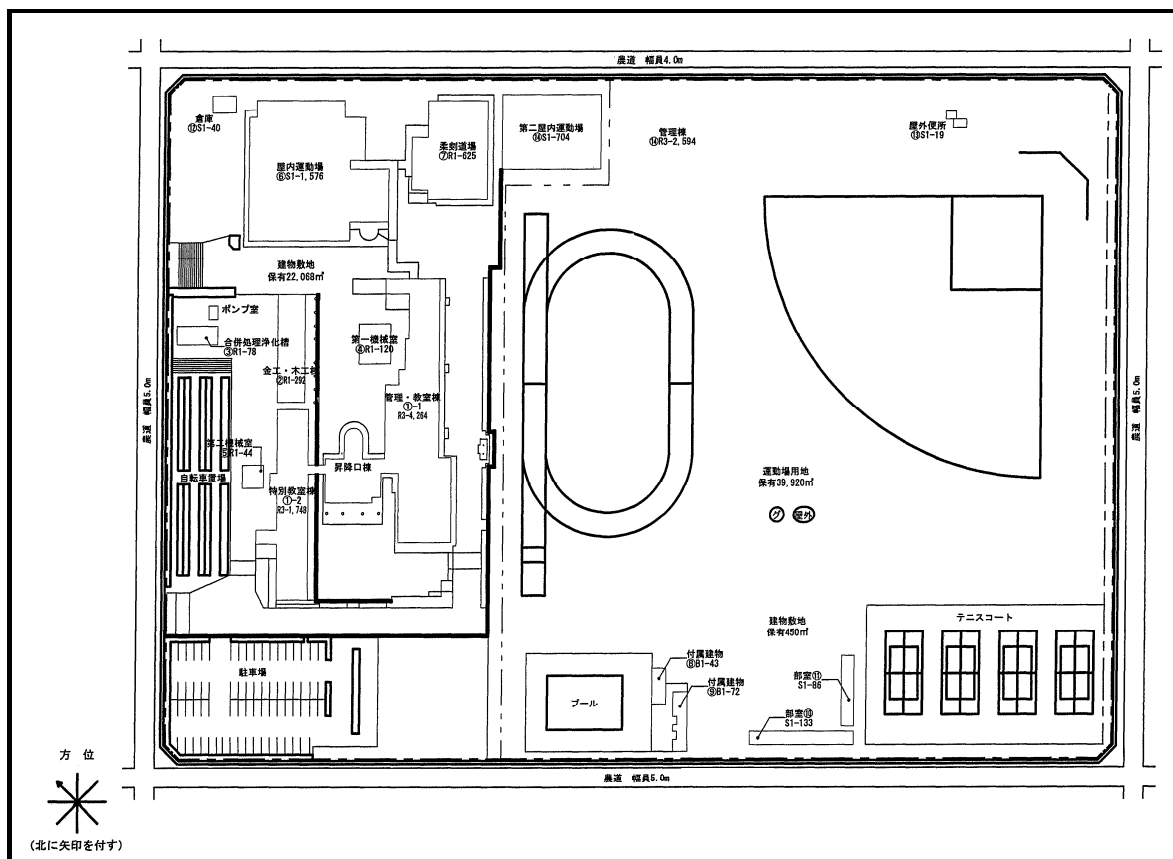


体育館

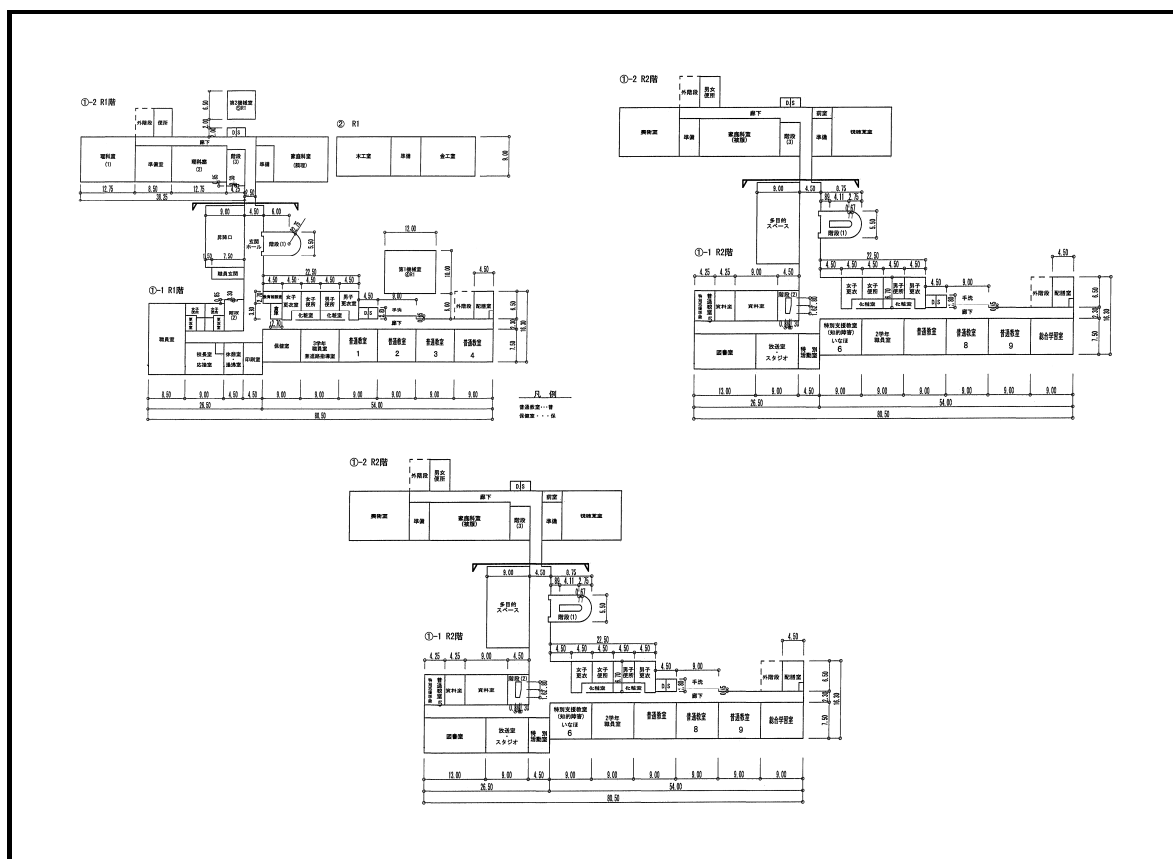


プール

【校舎の状況】



配置図



平面図
